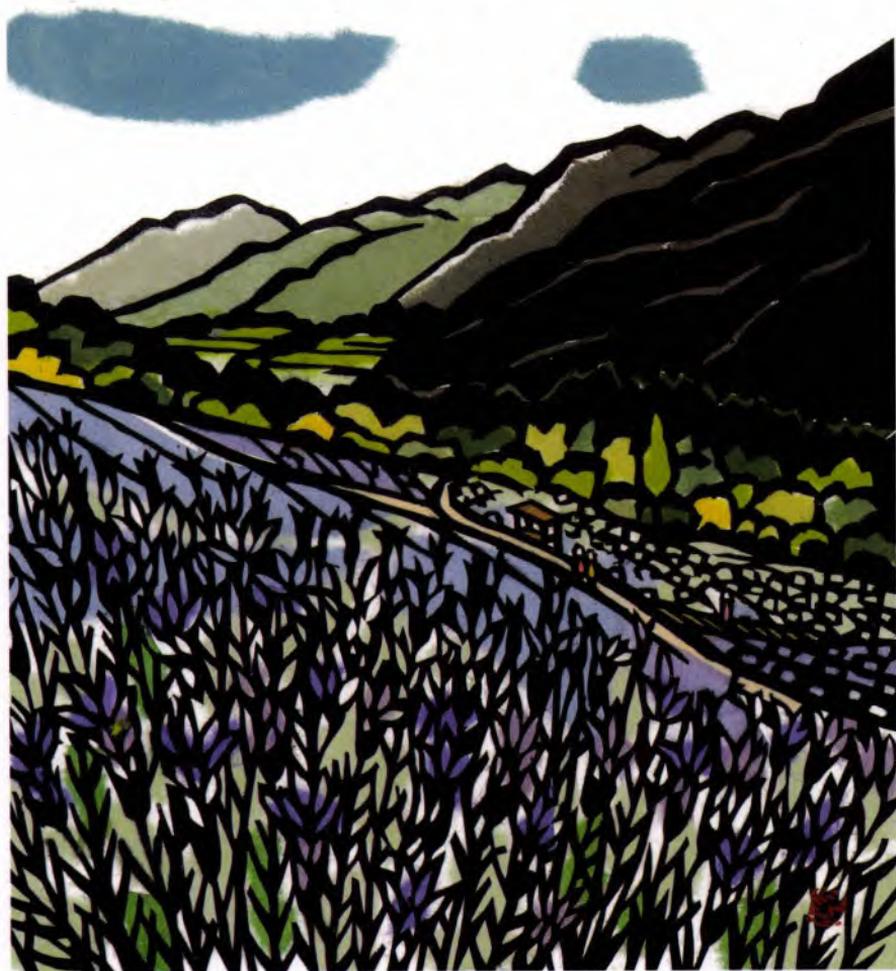


創刊大正十三年 通卷一四二号

川柳塔



日川協加盟

No. 1142

七月号

— 路郎賞・川柳塔賞の応募は —

八月号の刷り込み用紙で —

- ① 川柳塔欄・水煙抄欄に6か月以上、出句した人に応募資格を認める。
- ② 令和三年九月号から令和四年八月号までの入選句（自分の句を出句する）から自選。
- ③ 八月号刷り込み用紙に5句を楷書で書き
8月15日必着のこと。

昨年九月から今年八月の間に
誌友から同人になられた方へ

「路郎賞」「川柳塔賞」のいずれか月数の多い
方を選択して応募して下さい。

ただし「路郎賞」には川柳塔欄作品から、
「川柳塔賞」には水煙抄欄作品からの応募となりますので、間違いないようにお願いします。

選者交代のお知らせ

九月号（七月投句締め切り分）から来年八月号
までの選者を次の通り交代します。

水煙抄 木本朱夏

檸檬抄 江島谷勝弘

永見心咲（共選）

川柳塔社

「檸檬抄」課題

北野 哲男・安土 理恵 共選

発表	月	課題	締め切り日
4年	9月	劇	7月15日
	10月	ふざける	8月15日
	11月	一度	9月15日
	12月	こってり	10月15日
5年	1月	ためらう	11月15日
	2月	アイドル	12月15日
	3月	かなり	1月15日
	4月	穴	2月15日
	5月	抜く	3月15日
	6月	しつこい	4月15日
	7月	サイズ	5月15日
	8月	順	6月15日

高野山

小島 蘭 幸

川柳塔本社6月旬会は、5月にご逝去された同人の皆さまへの黙祷から始まりました。黙祷をしていると美しい杉木立と雨の高野山の情景がふわりと浮かんできました。

昭和62年7月5日、高野山普賢院で、麻生路郎、二十三回忌、麻生葎乃七回忌、中島生々庵一周忌、追悼川柳大会が開催されました。課題「水草」の選者に山内静水竹原川柳会会長が指名されていましたので、竹原川柳会から8名出席しています。

大会前夜の夕食会は、終始和やかで生まれて初めて食べた精進料理がとても美味しかったのを覚えています。夕食後しばらくすると高野山は雨になりました。夜半は特に風雨ともに激しかったのですが、大会当日はすっかり上がっていて、陽射しの中で杉木立がキラキラと輝いていました。

西尾栞主幹は「夜来の雨もとどこおりなく晴れた

が、路郎先生は晴男、生々庵先生は雨男で天はどちらも立ててくれた」とあいさつされました。

披講は、課題「水草」山内静水選からでしたが、静水会長は大会直前に急病で救急入院されましたので欠席、かわって米子市の八木千代氏が選者を務められました。

水草よ蛸でさえも子を宿す

森中恵美子

平成元年、川柳塔11月号に「俱会一処の川柳塔建立募金のご案内」が掲載されています。その中に「墓域は匿名同人の寄贈により確保できましたので」とあります。

私が墓域の匿名寄贈者が5月に逝去された内海幸生氏と知ったのは、川柳塔主幹になってからと記憶しています。

合祀祭風は師の声兄の声

小島 蘭 幸

高野山霊園での川柳塔合祀祭、最近はコロナも少し落ち着いてきていますので、来年は是非とも開催したいと考えています。

世界遺産、高野山に建立されている川柳塔碑は、私たち川柳塔社同人の誇りです。

檸檬抄「消える」……………	栗原道夫・久保田千代共選 ……(66)
一路集「閉じる」……………	小澤 淳選 ……(70)
「アレンジ」……………	坂本加代選 ……(71)
初歩教室「強 情」……………	高瀬霜石 ……(72)
川柳塔鑑賞……………	牧野芳光 ……(74)
水煙抄鑑賞……………	栃尾奏子 ……(76)
せんりゆう飛行船 ^⑩ ……………	新家完司 ……(77)
インスピレーション・ナビ 印象吟……………	大西泰世 ……(78)
四月本社誌上句会……………	……………(80)
主幹・理事長の選任について……………	……………(89)
六月本社句会……………	……………(90)
各地柳壇(佳句地十選/山野寿之・上田ひとみ)……………	……………(95)
七月各地句会案内……………	……………(108)
柳界展望……………	……………(110)
■編集後記(ひとこと/高杉 力)……………	朱夏・眞澄 ……(134)

座右の句

しがみつくほどのこの世でなかりけり (麻生 路郎)

私の句

あきらめたととき美しくなるこの世 新家 完司

至る所に飛ばされ、足の踏み場もないほどであった。

あきらめて活断層に住むこけし
本当はマトリョーシカもこけし族
キイキイと首ならしめる俺のよう

四十年間のコレクション約七〇〇本のこけし達は、こけし界の大先輩のご好意により仙台市内の美術館へ寄贈、安寧な余生を送っている。

自宅の改装にどうしても障害になったのがステレオのセットとサツキ。仕方なくアンプ、プレーヤー、テープデッキ、スピーカー一式とサツキ数十鉢をあきらめ、震災ゴミとして車で処理場に運んだ。想い出のLPレコードだけは大切にとつてある。

被災して無死満塁の守備につく

震災を境に興味は縮小。揺れからは余り影響を受けない川柳は続けることができている。

私の誕生日である三月十一日は、あの日から鎮魂の日となった。愛車のナンバーの三一一は変えていない。



小島蘭幸選

土佐清水市 辻内次根

覚醒を促すように陽に当たる

即席のコーヒーなりの案である

細胞へじんわり卵かけ御飯

引力が見える病葉落ちてくる

縁側で若葉の風を独り占め

放哉の最期 山頭火の最期

桜井市 安土理恵

妻の座にあぐらをかいてみたかった

惚れた報いか楽という字がうすくなる

天からのお呼び突然くるらしい

さよならの頃合いさぐるのは愚か

順序よくいってくれないものかしら

父に感謝あなたの娘はいける口

大阪市 平井美智子

紅差した分だけ揺れる今朝の思慕

逢えばまた君に恋する春日傘

指切りの指はもしもを抱いたまま

立ち位置が変われば君が見えてくる

捨て犬とまた歩き出す雨あがり

祈りから祈り 月来香が咲く

大阪市 谷口 義

母の日の母黒ビールぐいと飲み

にんげんは丸くはなれず葱坊主

物忘れ結構なことでございます

サプリメントと掛けて希望と解いた

ついでに買った物が一番役に立ち

青春の記録晩年の記憶

藤井寺市 太田 扶美代

アルバムを抜けて時どき逢いに来て

百歳の非の打ちどころない笑顔

万物をみな春にして詩人とや

空想を上げるために空がある

触れないでおこう淋しくなるばかり

プレッシャーに勝てた自分が少し好き

倉吉市 牧野芳光

二極化をするコロナ禍とウクライナ

かなわないものためつすがめつ眺めている

団塊の世代キラ星流れ星

この指止まれどなたも寄って来ぬ

最新にはひとりこたえぬ釘を打つ

古希過ぎた胸にも色や熱もある

枚方市 栃尾奏子

人間でありたい愛があるかぎり

タイムスリップ君は許してくれるのか

四コマ目あなたを好きになるなんて

三叉路に昨日のボクが立っている

ライバルはボクを優しく強くする

キラキラと未完あなたを好きのまま

鳥取県 斉尾くにこ

登山靴もう弾まない五月晴れ

ばんやりと世間を憂い花林糖

空までも延ばすロシアの国境線

ロシアいま罪と罰との最終章

散歩しかしていないのに薄暮色

新緑の迷宮に入り骨休め

三原市 笹重耕三

虫干しにしなさい今日の誤字脱字

また夢に出てくるモノクロの昭和

爺ちゃんの進化へ初めてのスマホ

ストレスにまだ耐えている舌下錠

引き際は決めぬ男の自然体

天下りのドアに後ろめたさはない

鳥取市 岸本宏章

孫の守り六十代は若かった

花粉症予防になっていたマスク

四つん這いで階段上る老いの足

盲導犬に嫉教えるすごい技

摩訶不思議地球がふわり浮いている

戦争もなくてナイター花盛り

松江市 藤井寿代

アポナシでいきなり飛んできたミサイル

ウクライナ思えば何でも許せる

老いる事こんなに楽しかったのね

孫の彼氏見てるだけでも若返る

嘆くまい老いの整理ももうついた

夢さめて法令線が深くなる

堺市 内藤憲彦

ありがとうごめんなさいで恙無し

こつこつと筆筒預金もしています

9条の不戦の誓い読み直す

タメ口が敬語に変わる十八歳

勝ち負けはホームランより犠打の数

連休に飽きてフェルメールに並ぶ

大阪市 高杉 力

句の向こう自分の知らぬ父のいて
巢ごもりのスローな時間小津といる

行くあてはないが一日乗車券

ミックスジュース知られたくない過去もある

木漏れ日のベンチが似合う文庫本

終章へ向かう砂時計をくるり

犬山市 金子 美千代

種からの醍醐味発芽に立ち合う

すずらんの見惚れてしまう造形美

鬱になる戦争テレビもう見ない

淋しいよーと素直に言えた子の帰省

整形外科の内覧会に列が出来

腹六分目にしておくお付き合い

三原市 鴨田 昭紀

慎重に嘘をこぼさぬように盛る

満開の時の話を繰り返す

飲み会に誘われネジがすぐ緩む

哲学を川の流れに聞いてみる

しがらみが切れてすつかり老いほれる

シッポだけ切つて解決策とする

大阪市 岩崎 玲子

ボケてない食事おやつは忘れない

ゆるゆるの老いの体操ルーティーン

老いの旅 行けるうちにとストレッチ

外国の人が来ぬ間に旅に出る

春の風亡母の手のよう髪梳かす

断捨離は生活の色変えてくる

米子市 池田 美穂

もやしまで主婦を裏切り値上げした

アベのマスクサイン付きなら売れたかも

ついに来た後期と書いた保険証

実家の田見て見ぬふりの三年目

お互いを必要としてルビー婚

献立に文句言う奴猫パンチ

越谷市 久保田 千代

青空に自粛疲れが癒やされる

あたりまえ認めたくないこともある

聴き上手黙っていればそう見える

ホテル泊 白内障の手術日は

手付かずが日々に積つて自己嫌悪

句の独活 酢味噌和えしてまた生きる

東かがわ市 川崎 ひかり

永遠の力信じる権力者

ロシアには北方盗られた過去がある

こだわりを捨てると治る偏頭痛

手料理の原点母のにぎり飯

いつからか作り笑いが上手くなる

ミステリーちりめんじゃこのオスとメス

岩国市 上村 夢香

思い立ち師匠訪ねて博多まで
晩学の坂はだんだん急角度

今日もまた我が家掠めて艦載機

赤信号完全無視の独裁者

紅一点まだまだ続く球拾い

図書館という森の中また迷子

鳥取市 奥田 由美

隣村のポストじゃ足りぬ犬散歩

カレンターの白紙怖くて通院日

子は忘れツバメが帰る古里の家

引き出物まで簡略のセレモニー

四十路代の写真貼付のマイカード

図書館で半年も待つリクエスト

藤井寺市 鴨谷 瑠美子

戦争はいらぬ野辺に花ひらく

ささくれたニュースへせて濃い緑茶

軽快にステップを踏む心電図

道なりに行こうよ微風になれる

残り火でまだ大抵のことではでき

何度読んでも同じところで泣く童話

鳥取市 倉益 一瑤

てのひらの傷が他人の顔をする

感情のもろい器ですぐ割れる

末席で意外な人が立ち上がる

あみ戸から噂を持って来た蛙
色褪せた写真未練がすけて見え
玉手箱夢はいつでも煙となる

羽曳野市 吉村 久仁雄

良心の声はいつでも柔らかい

開花音聞きたく蓮の寺通い

洋食屋古さがきつと隠し味

臆病者だから揺るがぬ非戦論

泣いて笑って開けっぴろげな妻といふ

魂で叫ぶウクライナが叫ぶ

尼崎市 藤井 宏造

運がいいのかいまだコロナに罹らない

わたくしの裏も表も知る鏡

僕にない竹の撓りに見とれてる

気の重い話に空気入れかえる

行く気はないが覗いてみたい地獄

マスクとるちよつと恥ずかしそうな顔

西宮市 西口 いわゑ

賑やかに来てくれました誕生日

戦争の画像やっぱり見てしまう

あの食欲モデル志望の孫娘

美容院改めて見る大鏡

シュレッターにかけて今日わたしです

好きなこととして生きられる幸せな

横浜市 川 島 良 子

タケノコの匂を味わう五月晴れ
干渉はしないさせないマイルール
心配をさせぬ余生は金次第
感情の起伏に老いを垣間見る
アドリブでアナタと歩く古稀の道

横浜市 菊 地 政 勝

それぞれが孤独の中に居るマスク
茶碗持ち眠る子供の成長期
暗い色塗るクレヨンにある主張
聞く耳はあるが持論は押し通す
サプライズ二人で来いと医者と言う

朝霞市 前 田 洋 子

連休も猫の通院怠らず
嗚呼ロシア独裁政治恐いなあ
話し合いするため口が有るんだよ
焦れたい世界が戦止められぬ
日本を任せられないイエスマン

東京都 川 本 真理子

赤ちゃんの泣き声がする昼下り
物干しに堂々赤ちゃんの肌着
こんな日もあるよと犬の目を見つめ
ペンギンを見に行く ポクをなくさめに
甘くなかった亡父が作った卵焼き

八王子市 川 名 洋 子

雨上がり小鳥の声もうれし気に
芝桜までもテレビで見てるだけ
春うららパステルカラーよく似合う
邪な事は思わぬ胡蝶蘭
久しぶり子等と飲み会皆元気

可見市 板 山 まみ子

表むき元気なふりで生きている
連休のチラシは寿司と焼肉と
年一度一日だけの御開帳
コロナ禍に人混み避けて風邪知らず
目覚めたら一挙に夏は困りもの

愛知県 早 川 遯 行

窓開けて閉めて我が家は異常なし
節約の手酌で夜が更けていく
味噌舐めてでも晩酌やめられぬ
いい加減酒でも飲んで騒ぎたい
富士山を崩して入る露天風呂

名古屋市 山 本 三樹夫

プーチンの横暴許す国がある
給料を長年上げず物価高
拒否権が国連平和弄ぶ
砲弾を打って真逆の嘘を言う
ご近所の火災が消えてまだ動悸

犬山市 関本 かつ子

祖父偲び孫が震える手で弔辭

夫婦共よいしょが増えて苦笑い

新緑が空の青さを越えている

折り曲げたページに大切な一句

Lサイズ以上がいつも売れ残り

京都市 清水 英旺

ウクライナで割れた平和というガラス玉

ウクライナの涙は怒り正義愛

ガタのきた老体扱い方注意

SNSの味方百人敵百人

翔平の夢ファンも同じ夢見てる

長岡京市 山田 葉子

痛いイタイ言うたら少しラクになる

隣の助け独り暮らしと言えないな

居留守使う度胸坐ってしたたかに

リハビリも自分に合わせ一工夫

お香の匂い居住まいただし浸ってる

大阪府 米澤 俣子

あれは夢か錯覚なのか万華鏡

リハビリの廊下百二歳と出会う

母と茅巻つくった日は遠い思い出

五黄の寅の次女は少うし気が強い

明日は明日風にまかせて今日を閉じ

大阪市 石田 孝純

真っ直ぐに歩いているか俯瞰する

二度往復すれば荒地に出来た道

夢の中いつか来た道歩いてる

三叉路はポビーの揺れる方へ行く

白地図にゆつくり歩く道を描く

大阪市 磯島 福貴子

梅雨寒に備えしまえぬ長上着

足のモヤモヤ靴新調でふっ切れる

虎が猫にいざ甦れタイガース

さよなら間近マスク生活そろそろか

吉兆の虹を追っかけどこまでも

大阪市 井丸 昌紀

捨てるなり軽いブラごみ重くなり

鉛筆を見るとノートが身構える

姉ちゃんが惚れた男とにらめっこ

一杯が過ぎて極楽から地獄

魂を小出しにやっと給料日

大阪市 岩崎 公誠

スマホ手にチャリ乗りまわす若い子ら

正論と決めているから熱っぽい

経験はたくさんあるが錆が吹き

語尾上げて持論曲げない意地っ張り

品行は方正と言いやく迷う

大阪市 内田 志津子

再開に声が響くよ溢れるよ
来てくれたやつと来れたと小雀が
生呼名僻地句会はまだ佳境
ひと色を足してあなたに逢いにゆく
栄枯盛衰そんなものと日々暮らす

大阪市 宇都 満知子

丁寧すぎる親切に疲れる
角取れた夫婦の箱にあるあそび
あつたらしいのに妻の日と夫の日
伸び代の蛇腹が錆びて動かない
振りだした雨にかわいい傘を買う

大阪市 江島谷 勝弘

お裾分け旨い天ぷら隣から
私の生き方丸腰中立派
デイスタンス忘れています人だから
獄中は体験せずに済みそうだ
ブーチンは髭はないけどヒトラード

大阪市 榎本 舞夢

風薫る五月街は活気に溢れてる
ゴールデンウィーク各地人の波
我が家には曾孫孫子と賑やかに
長生きは思わぬ事に出合います
奇縁です私の恩師戸田古方

大阪市 大川 桃花

制限解除されてもマスク外せない
息子から世辞を言われて使われる
植木鉢かかえお日様追う男
真夜中にパックした娘と鉢合せ
諸事情にはしよられ淋しい練り供養

大阪市 奥村 五月

もう部品取り寄せられぬ高齢者
山や川変らぬ里で母は杖
過疎の母田植ができず米を買う
早死の親にもらった強い運
連休も戦争してる馬鹿な国

大阪市 小野 雅美

すれ違う一瞬負けたなと思う
殻ひとつ破れば生えてきた翼
煙幕で覆うわたしの黒歴史
直せない右手で眼鏡外す癖
せめて一日この世戻ってみませんか

大阪市 笠嶋 惠美

家までを遠回りするおもしろさ
思い出と優雅に生きて楽しまん
自転車の遠出が無理と知るシヨック
人形に守られている気がするの
片付けだすとさびしくなるのせつないの

大阪市 川 端 一 歩

長谷寺の牡丹の見事思い出す
あじさいの季節が来ると思う人
転んでも蹴躓いてもマイペース
あの人のふみ台ならば喜んで
いつか来るその日のために今日を書く

大阪市 古今堂 蕉 子

気の利いた祝詞言うはずだったのに
食べてるかよく寝ているか 歩いてや
ラブイズオーバー所詮高嶺の花でした
大谷君打たねばならぬホームラン
兄ちゃんがみんな食べたと告げに来る

大阪市 近 藤 正

プーチンは核チラつかせ牙をむく
核兵器悪の烙印条約で
大國のわがまま通らない世界
核共有被爆政府を貶める
杖ついてあいさつ増えた散歩道

大阪市 坂 裕 之

懐かしいアニメソングであの時へ
喜びも悲しみもある毎日
自転車で知らない道を駆け巡る
毎日を山登りする気で生きる
飾らずに本音で話し合いたいね

大阪市 高 杉 千 歩

マンションに囲まれお空遠くなる
テレビから離れて過ごす平和主義
ああしんど遊んでいても疲れます
眼も耳も使用期限が切れている
翔んでいた時代の夢に励まされ

大阪市 田 中 廣 子

大谷の満塁ホームラン胸がすく
病院の予約忘れるなさげなさ
コロナ明け予定きつちりきめておく
プーチンの歯車どこかで狂つてる
夕焼に主人の元気を祈ります

大阪市 田 中 ゆ み 子

幼名で呼ばれ末っ子の顔になる
非常口一生開かないでほしい
憧れのロシア民謡歌声喫茶
口笛が吹けないままに八十年
わたくしを見つめて蟻が引き返す

大阪市 津 村 志 華 子

あじさいの寺で心も丸くなる
咲き誇る花も散り際知るものを
蛙鳴く里の育ちもおとほけで
風みどり森も小鳥もよう喋る
生きるため自分自身に旗を降る

大阪市 寺本 実

居心地が良すぎ娘は根を下ろし
まっさきに地蔵倒れた震度六
若い人過去形などで語らない
会議中密かに回すハツカ鉛
花道が欲しくプーチンわめきたす

大阪市 中井 萌

隣国をモノクロにした独裁者
戦争を見た両眼にアレルギー
人生に彩り添えてくれた人
退職後妻に弟子入りさしすせそ
最近のトマトは皆な器量よし

大阪市 原田 すみ子

文庫本サイズ値段も丁度良い
水平線たまには側においてほしい
教えてもらうには素直さが足りず
五月好し風も光も新緑も
義理じゃなく行きたくて行く寺参り

大阪市 平賀 国和

老いたればウルマンの詩が好きになる
まだいける筋肉痛が心地よい
現代のゲルニカを見るウクライナ
過去の日本思い出させるウクライナ
平和な世界古仏に祈る当麻寺

大阪市 降幡 弘美

発掘をするかのような探し物
笑ったらアカンところで来る笑い
負けててもファンは離れぬタイガース
しんどさに追いうちかける寒暖差
転校にあこがれを持つ自営業

大阪市 宮崎 シマ子

童謡なら覚えています歌えます
ゆとりあるときの返事はやわらかい
あきらめて三面鏡をそっととじ
ハートまで盗まれそうに手を握る
我がままと思うが持論通したい

大阪市 山本 加お里

赤茶けた歴史を語る父母もいる
未熟児で産んで育ててくれた母
久しぶり鳩が私に会いにきた
あの窓もこの窓もみなドラマあり
もう一度正座で抹茶たてる夢

大阪市 横山 里子

トラ不調黙っているに限る仲
一葉でいいと言ったら本が来た
何もかも隠してくれるマスク好き
またしても無神論者に戻る梅雨
どうせフェイクコロナのニュースせぬロシア

大阪市 若本安代

ぼかぼかの湯上がりビール堪らない

ぼかぼかに心の刺が抜けてくる

叩かれてこれも優しさだと気付く

横に居てぼかぼかさせてくれる友

どの国も消すに消せない歴史観

堺市 奥時雄

クラス会延期で三つ歳をとり

淋しいね何処で飲んででも独り酒

故郷に明るい話題何もない

土産提げ初月給の孫来たる

サラリーマンの孫に教えることが無い

堺市 柿花和夫

耽耽と独り魂胆見え隠れ

極楽を見てきたようなお説法

姉ちゃんの言うことを聞く父母の留守

交際費で鍛えたらしい渋い喉

ミサイルの実験室か日本海

堺市 栞原道夫

青葉若葉の下の少年探偵団

長い旅とは思っていないかたつむり

小便小僧の小便が止まっているぞ

もぐら叩きのもぐら顔出すなさげなさ

少年よ君の翼は重すぎる

堺市 源田八千代

連休は時間たつぷりおうち呑み

沖繩みやげ貰い採りたて野菜上げ

カタログの注文書書く小半日

か細いが頼りにされている従妹

勇気出し登り詰めよう八十路坂

堺市 坂上淳司

豪雪だったお陰で琵琶湖深呼吸

滋賀の春琵琶湖が光る田も光る

高級な鮎鮎前にえ吐く僕

目を細め鮎鮎を食う近江の子

三百年の秘伝の味に長い列

堺市 澤井敏治

あすの音ききたくて汲む岩清水

行雲流水とおい記憶を呼びもどす

声明の祈りに背なのシャンとなる

魂を洗ってくれる滝の音

作り手とペアルックの布マスク

池田市 太田省三

為政者のうそをスマホが暴き出す

初夏の日を浴びてスタミナ蓄える

首飾りむかしは夕夕の蓮華草

安心の大きな文字が嘘っぽい

飼主の最期は犬も知っている

貝塚市 石 田 ひろ子

えんどう豆びちびちギヤルが飛んで出る

若葉風ですが訃報もやって来る

どちら様でしたかマスク野球帽

外は雨裁縫箱に癒やされる

福耳と言われ聴力落ちてきた

河内長野市 大 島 ともこ

攻めどころ知った熟練妻の勝ち

迷いと不安愛も溢れる闘病記

恋しさがもう止まらない風ぐるま

つむじのせいじゃなかったやんちゃへそ曲がり

グーグルの道案内迷うばかり

河内長野市 梶 原 弘 光

諦めたらあかん9回ツアーアウト

免許証返す仲間に煽られる

コレステロールしつかり有って元氣です

刀折れ矢尽きそれでも立て籠もる

独裁者のメンツ次第で止む戦

河内長野市 木見谷 孝 代

一年越しの自作の苺ルビー色

原石は内に輝き秘めている

十連休終わり静けさ取り戻す

この街と喜怒哀楽を共にする

値上げラッシュ要るものは要る腹くくる

河内長野市 黒 岩 靖 博

巣ごもりで化粧も自粛マスクつけ

パスポート何年するか思案する

年金日赤字が消えてほつとする

母同居子育て任せ共稼ぎ

記録には出ない采配負け戦

河内長野市 辻 村 ヒ 口

クイズ遊び孫と本気で競い合う

運命線どこまでも伸ばす好奇心

デイケアで青春語り若返る

目の前で昔話になる昭和

あの時の話ずれてる老夫婦

河内長野市 中 島 一 彌

守るべきは国か命か考える

隠そうとすれば偽善が生まれます

仏壇に語るコロナとウクライナ

歯磨きのチューブを絞り切るチカラ

門扉に掛け笥もらうお付き合

河内長野市 藤 塚 克 三

日記では日日好日も出る出るほやき

歳重ね色んな何故が判り出す

一升瓶目盛りをつけて妻管理

勝ち気な母も労苦が語る顔の皺

しみじみと令和自粛を振り返る

河内長野市 村上直樹

一番風呂ざざ極楽溢れ出す

青い目の大阪弁が笑いとる

若者がシャッター街に希望の灯

姉さん破りちよつとワイフに惚れ直す

杖に柱に日々輝いて八十路坂

河内長野市 森田旅人

戦争を語るテレビを消す無力

大樹へと命を宿すこぼれ種

ハードルを上げてくよくよしなくなる

上り坂ばかり選んで後を見ず

幸せがすぎてごめんとでる言葉

岸和田市 岩佐ダン吉

まだやれるいつも私に言うている

ロボットじゃないコンビニの二十四時

信号がない町に住むいい歩幅

国保料上げて来院自粛せよ

核増産勝者は無いと言いなながら

岸和田市 雪本珠子

笑うこと少なくなった老いの坂

倦怠期に効くスパイスを模索中

逆風が忘れた記憶呼び戻す

昔話でこのころの元氣取り戻す

気は若いだけで手足は老いてゆく

吹田市 太田昭

語り部の居ない昭和を振り返る

諍いを避けてのんびり指を折る

ちかごろはニンゲン忘れそうになる

平凡に生きて覚悟はまだ出来ず

裏切りの男の背なにある孤独

高槻市 片山かずお

義理ひとつ欠いて折り合い悪くなる

自分の暮らし第一にして義理を欠く

聞く力もいいがやっぱりやる力

ボキャ貧で思うようには句が詠めぬ

マスクマスク思い出せないお口元

高槻市 島田千鶴子

善行を積んで心に貯金する

花散らす雨を叱っておきました

嫉妬だと思いたくない赤いバラ

おっとりの友の語りに癒やされる

化粧して気合も入れて医者通い

高槻市 初代正彦

ぞろぞろの値上げうかうかしておれぬ

初夏なのにもう初夏なのに鍋うどん

窮したら大阪弁がしゃしゃりです

息抜きのお茶もパズルによる馴染む

妻までがスマホの世話になりだした

高槻市 富田保子

老看護結ぶ一言ありがとう

いい年の期待は一つピンコロリン

ペットの家も冷暖房というお家

生きるとは食べ続ける事と知る

産声に日本の期待かかつてる

高槻市 松岡篤

うまいねとありがとうとで子を伸ばす

なぜなぜの孫に答える予習中

3倍は時間を掛ける夫の家事

辞書3つ見比べながら作句する

原子炉もおもちゃも無駄なネジは無い

高槻市 安田忠子

娘等帰りこの淋しさは何ならん

一日中自粛生活テレビ漬け

自分の家に税金払うあほらしさ

五年日記買ったが全部うめれるか

タレントの名前が何故か出てこない

豊中市 池田純子

国遠く思いは近くウクライナ

何もかも騒がしかった大家族

今日のママ朝から強風注意報

食事会口紅つけてマスクして

母の日に遺影にハイと穴子寿司

豊中市 上出修

温暖化地球壊れる音がする

寒いギャグ笑ってあげて拍手する

バレルまで知らぬ存ぜぬ突っぱねる

白寿でも老後に備え貯金する

憧れの歌手と目が合うディナーショー

豊中市 きとうこみつ

日本はいいな家では靴を脱ぐ

シャンソンを唄うはるかな巴里想い

コンビニのケーキひとつの誕生日

たまったポイントでなんてしあわせシヨッピング

仏様も私もスイーツ好きである

豊中市 藤井則彦

小説の余白楽しむ目の散歩

いつかぜひ行ってみたいなウクライナ

手をつないでいても孤独になる心

署名の字はあの頃のままクラス会

杖を突きながらも爆ぜる一人旅

豊中市 松尾美智代

墓洗うやさしい母の風が吹く

ウェーブリング外反拇趾を鍛えてる

雨の日はひとり遊びのフリーセル

一時間半自転車漕いで孫が来る

子供の日二十歳の孫と柏餅

豊中市 水野 黒 兔

ポストまでの百メートルで花粉症
さくら過ぎはや冷や麦を恋う暑さ

回覧板渡ししばらく立ち話

陽炎の中ふる里遠くなる

ロケット弾に無力な自分臍を噛む

富田林市 中村 恵

両の手に余る絆を持っている
定位置に押しピンで愛留めてある

倣うのは山椒小粒パンチ力

動かないペン一本を握り締め

余りにもやさしい黄昏のオブジェ

富田林市 山野 寿之

うっかりを互いに許す箸二膳
百歳の葬儀涙もなく陽気

転た寝にそつと毛布を掛ける孫

老い二人偶に手抜きのお店物

老人をやさしく拾うデイのバス

寝屋川市 川本 信子

少しずつ外すウイルスバリケード
質問のメモをしつかり診察日

行きたいな眩くだけです月旅行

杖なしの散歩に軽いスニーカー

少しずつ世間とずれていく頭

寝屋川市 伊達 郁夫

誘ったのはひまわり誘われたのは朝陽
塀のない庭だ平和な街なんだ

我慢した今日の私を褒めてやる

めし風呂と言えぬ勇気が未だ持てぬ

傍目にはハッピーそうな金魚鉢

寝屋川市 富山 ルイ子

テレビ見る心苦しく胸痛い
国守るため命を的にウクライナ

ウクライナ国を守つていさぎよい

生きていてほしい平和になるまでも

日日の暮らしどうにか回り無事生きる

寝屋川市 平松 かすみ

海行かば聴こえて来そうウクライナ
核ボタン聞いただけでもジンマシン

ブラウスになった我が家の鯉のぼり

この辺で仕舞いにしようコロナウツ

中国のロックダウンが痛ましい

羽曳野市 磯本 洋一

洗い張り乾き待つてる針と糸
新人が酔つてくだまく初飲み会

当たら不幸になるよジャンボくじ

孫婦省喜んで明日までと

朝刊に楽しき記事を拾つてる

羽曳野市 宇都宮 ちづる

鯉織わたしの町で見かけない

炬燵片付けやっとお尻が軽くなる

冬物をわんさか洗う五月晴れ

「ありがとう」言わなきゃ感謝見えません

五人兄弟順番どおり兄が逝く

羽曳野市 徳山 みつこ

藤棚の下で思い出藤色に

微妙にずれる子や孫の周波数

聞こえていますか年金者のほやき

夫婦でも越えてはならぬ線がある

今世紀に侵攻など許せない

羽曳野市 三好 専平

一面は捨ててマンガに目を落とす

絶景の主役は地下のマグマです

美しい教会の下を行く戦車

ウクライナの地図をすっかり丸暗記

念のため奥様ですかと聞いておき

東大阪市 北村 賢子

コロナ自粛鉢植え増やし癒やされる

娘も孫も通った校舎なつかしむ

久し振りみんなに会えた生句会

戦争コロナしみじみ恐ろしい世相

ご先祖にすごることのみ増える老い

東大阪市 佐々木 満作

人生に乗り越えられぬ壁もある

腹一杯食べてストレス噛み砕く

旅立ちの息子へ母の守り札

四季折々花は忘れず開花する

目覚めたら日付と曜日確かめる

東大阪市 西村 哲夫

こだわれば期待が遠く逃げていく

涼しい目見せて子離れ親離れ

継ぐ者を無くせば今が闇になる

運動会わが子は雨を期待した

目的達しても余生とはならず

枚方市 谷 英也

春ですよかじかむ身体八十路坂

コロナ餓鬼衣を変えて人襲う

孫帰る見送る度に目が潤む

武器持たぬ普通の人を襲う国

いまだ色香につまずく八十路過ぎ

枚方市 丹後屋 肇

イケメンの誘いに乗った若かった

階段の老人庇う強面

畦道の中で絡むしじみ蝶

争いごと娛しんでいるスポーツ紙

人類の暴走地球頂垂れる

枚方市 藤田武人

彷徨いの森にもきつとあるヒント
ウイルスが奪う私の晴れ舞台
燃えるものあるから赤いペンを持つ
わずらいの弟子にボソツと師の言葉
革靴に素足僕には出来ぬ技

藤井寺市 鈴木いさお

幾つもの山坂越えて来て傘寿
句箋へは楷書恋文へは行書
外は雨孫と将棋を指している
取得して使わぬままのパスポート
どこから見ても一人前のおじいさん

藤井寺市 吉田喜代子

ワクチンも4度打つよと言う話
八七まだ喜ぶ人あり誕生日
姪からの手紙嬉しい今日は晴
作句中途中で言葉出て来ない
コロナには負けたくないわ電気代

箕面市 大浦初音

夢ひとつ言葉にすれば叶うもの
変らない我が家の味はたまご焼
差別なし広い心で受け止める
一日を素顔で通すマスク顔
おばちゃんのお喋り最後知らんけど

箕面市 酒井紀華

遺影とは喧嘩できぬ独りぼち
月曜日が楽しみになる赤いポスト
カラフルな葉をのんで命乞い
今日の事今日で忘れて髪洗う
染み一つぼつんと過去が疼きだす

箕面市 出口セツ子

高校の時は未練の無かった世
死と向きあい他人に優しくなれました
牧師との出会い人生観作る
家族みな元気で平和だけで良い
子の心の側に私を置いて欲し

箕面市 中山春代

神風よ吹け「ひまわり」のウケライナ
ロシア民謡好きだったのにプーチンめ
旅人になって故郷の桜見る
遠足の子と乗り合わす箕面線
山開きリタイアしても血が騒ぐ

箕面市 広島巴子

愛くるしい子鹿について奈良ぶらり
孫が来た日めぐりパツパ動き出す
三年ぶり帰省実感孫見上げ
豆ごはんふつくら孫が鳩になる
ゴミ出し日無けりゃいつでも日曜日

八尾市 寺 川 はじむ

そろそろとまだまだ採めている免許
ポリシーが定まらなくて病む野党
拍手したのに手前話が未だ続く
おーいお茶届かぬように言うて見る
トラ勝ったテレビ壊れるほど歓喜

八尾市 村 上 ミツ子

動物園うさぎも亀もひるねです
仲直りしませんかロシアとウクライナ
微震気付いてちよつとうれしいきもち
四捨五入しても計算合いません
覚えているのはどうでもいいことばかり

神戸市 上 田 和 宏

動物園歩けば元氣出るみたい
ぱっと羽根開く孔雀にみな拍手
凜とした丹頂鶴もいい奴だ
コロナ暮らしそろう味わう開放感
今日の無事感謝の賽を地藏さま

神戸市 奥 澤 洋次郎

マンシオンに山が隠れて人は荒れ
川柳は生がやっぱり味がある
歩かねば水を飲まねばしゃべらねば
アホなこといいではないか春うらら
景色だけ残して里の風光る

神戸市 奥 水 弘

ヒマワリが爆煙のなか凜と空
爽やかな空気吸えれば今日は幸
こもり臭窓開けどつとやる気風
取説が読まずたまつて物はなし
氣力の元は日日好奇心ネット開け

神戸市 近 藤 勝 正

知床の海は悲しい春となる
暗いこと多すぎないか春なのに
いつからか曜日気にせず暮らして
ウグイスと若葉に押され一万歩
国連の正義通じぬ彼の人は

神戸市 斎 藤 隆 浩

禁煙で肩身が狭いホタル族
メンバーが足らぬ時だけ呼び出され
焼鳥の煙がふさぐ帰り道
目の前でドアが閉まった終電車
ワイドショーどこをつけてもウクライナ

神戸市 敏 森 廣 光

物価高耐えて支えるウクライナ
平和願い歩く私に向かい風
ロシアには旅したい場所あったのに
世界平和あきらめないよ孫のため
せちがらい鯛焼き小そうなつてもた

ただいまの挨拶遺影にも合掌
手をつなぐ人がいるから暖かい

神戸市 富永恭子

気配りと笑顔土産に子が帰省
来客もたまにあるから大掃除
がまんがまんとフキの皮むきながら

神戸市 能勢利子

たらればの約束守りクラス会

夢叶い天橋立股のぞき

守った子に守られているのも淋し

三回目のワクチン効いているのかな

久しぶりの旅行日本は美しい

神戸市 松倉正美

怪物が二十歳の春にパーフェクト

友の名が輝き放つ褒章欄

過疎の町久方振りに鯉幟

走り茶が郷から届き賞味する

母の日は墓前に白いカーネーション

明石市 梶谷和郎

読み止しのままに葉はおかんむり

チャルメラの音にゼンマイ緩めるか

いつでも夢を忘れた頃に口ずさむ

カーテンコール僕はお呼びでないらしい

この歳でこの記憶ならまあいいか

古里に継ぐ人を待つ千枚田

手間かけた土が届ける旬の味

ロボットを介護プランに組むやがて

喜怒哀楽染みた酒屋のカウンター

孫が来るもうそれだけで幸せだ

芦屋市 竹山千賀子

また明日と言った笑顔を思い出す
尼崎市 近兼敦子

親も子もスマホを持って喋らない

楽なほう選んでみれば物足りず

リーダーの指摘素直に聞いておく

憧れた背中大きく見えていた

尼崎市 永田紀恵

マスクした顔しか知らぬ人が増え

天と地と人は折り合い生きている

元カレをスマホの奥に隠してる

大谷に女の気配待つメディア

投票率三十パーの民主主義

尼崎市 羽奈和子

知ってるかつつじの花は甘いのも

キラキラは上品キラキラは下品

口紅で気合を入れる面接日

子どもらの声が聞こえるいい町だ

こんなにも漢字が多い病だれ

尼崎市 藤田雪菜

ほどほどの距離で他人とよく笑う
ウエストが記録破ったゴムにする
失敗の話をすると座が和む
新品のソファに猫がまず座り
咳をするコ罗纳疑う恐ろしさ

尼崎市 山田厚江

お義母さんエステに行つて二万円
お義母さん八千円の乳液で
ニッコリとチクリダメ出し言う義母だ
レインボーブリッジを一人で歩く
プーチンも言いたい事はあるやろが

尼崎市 山田耕治

手を合わすお膳に朝日差す時間
薪割りも風呂焚きもした五年生
石垣の上から竹馬に乗つた
まだ持つているかハモニカとグローブ
器用な子を母はあんまりよろこばず

加西市 山端なつみ

ゴールデンウィーク何も来ないポスト
ポスト開け何も無い日のやるせなさ
ポスト空 まだ休みかため息が
速達は値下げしたとのすまし顔
新聞に活字の飢えを助けられ

川西市 山口不動

今の今桜満開歩を止める
どこからか吾が白髪にも花びらが
おじさんを見上げさせてる花吹雪
八重桜厚化粧にて遅く咲き
おらが国爆撃も無し花見行

三田市 足立つな子

ゴールデン運転つきの旅に出る
街路樹の五月の空に匂い立つ
天命を脇目も振らず坦坦と
ウイットに当意即妙絶好調
五時起きの花にたわむれウォーキング

三田市 稲角優子

反戦を詠む鉛筆が涙ぐむ
父母の声なき声の八月忌
沈黙は父のやさしさ背のひろさ
さわやかに巣ごもりといた軽い靴
ふるさとの大地耕す未来地図

三田市 上田ひとみ

痛いほど淋しい人と思ひ知る
個性とは言えない範囲だと思ふ
母さんとはあちゃんだけで充分で
小さい小さいそんなこと小さい
じいちゃんちでなくていつもばあちゃんち

三田市 大西重男

二年振り素顔見ました別人だ
軽トラをベントの横に止めづらい

親父の墓線香立てにタバコ点す
好き勝手ひとり暮しもまた楽し
孫娘タバコの匂いに寄りつかず

三田市 尾崎一子

月一度我が家に集う絵の仲間

絵筆持つ机に向かう若返り

喜寿傘寿ケーキを囲む誕生日

島国の平和日の丸は汚すまい

掌のくすり数えて自助自立

三田市 九村義徳

喜寿迎え肩の荷軽くなりました

ライバルの出方を探る軽いジャブ

巣立つ子にとことんやれと里の風

逆風が育ててくれたど根性

派閥争い所詮コップの中の事

三田市 住吉美和子

祝いごと無いが小振りの鯛を焼く

摘み草の楽しさ覚えたウォーキング

マトリョーシカ ロシア人形悲しそう

みやげ菓子やつと買えます旅の宿

絵本にはきれいな色と夢ことば

三田市 多田雅尚

ゴールドのままです免許証返したい
見通しの甘いワクチン葬られ

議事録もペーパーレスに変えてゆく
格安で捌き減らせるフードロス
日本製と聞けば一先ず安堵する

三田市 野口真桜子

戦火の女神地下壕の赤児助けてよ

雷雲去りて汚れなき虹 端午の日

今だから解るプロポーズだったあの時

五月病ポーナス日聞き治り出す

善人の顔で通して生きている

三田市 堀正和

久しぶり二次会なしの句会です

テレビとはよく喋ってる独り者

少しずつ笑い袋がやせて行く

テレビでの田舎暮らしは楽しそう

ジパン新調五千歩へ挑戦

三田市 村田博

主義主張玉虫色にして平和

周りには花花花の現住所

けなし合いボケと突っ込み無二の友

郵便の遅配で間延びする句報

鉢巻きの握るお鮓を食べたいな

高砂市 松尾 柳右子

カラフルな傘五月雨を謳歌する
食欲はインスタ映えがそののかす
吹き飛ばすコロナ悠悠鯉のほり
喜ばす孫ヘソーマン流れつく
久し振りひ孫の笑みは世界一

宝塚市 丸山 孔一

痛む腰でも歩かねば歩かねば
「食べ放題」何の魅力もありません
新芽吹く春というのにきな臭い
やるべきは数数あれど何もせず
傘寿過ぎラストスパート思うだけ

丹波篠山市 北澤 稠民

五月来て米作りしかしゃないな
日溜まりで小さな夢を育ててる
寄り添うて月を愛でて丸い背な
借金も遺産もなくいい野辺だ
甲斐性の無いのが妻や子を叱る

丹波篠山市 酒井 健二

コップ酒凡庸な日々締めくくる
暇で暇死ぬほど暇で旅に出る
旅先はやさしく人はご親切
夕暮れの道頓堀が笑ってる
気まぐれな旅に平和の絵馬結ぶ

丹波篠山市 長谷川 善輔

戦禍の地名虫メガネで探す朝
我が国も地図に国旗を貼った頃
まだ記憶焼夷弾の落ちる音
騎馬戦すらも遠慮の戦後運動会
戦争のみじめさ体験するのは庶民です

丹波篠山市 藤井 美智子

戦争は宇宙時代に似合わない
来客へすつびんマスクに助けられ
右手左手お互いさまと日々暮らす
句作りはペン紙頭三拍子
言い訳はしない負けるが勝ちと決め

西宮市 緒方 美津子

五月号満面の笑みチューリップ
叱るのは親ばあちゃんは宥め役
おばあさん春と呼ばれて蓬摘み
無心らしい理由をゆつくり聞くことに
コントにもならぬひつこいオミクロン

西宮市 亀岡 哲子

一人者のおばあさんです良く喋る
ゆつくりと時間使つて生きている
三人姉妹同じ病気で無事退院
訃報から偲ぶ想い出長電話
余命三年頼つてくれたありがたさ

西宮市 福田正彦

過去は置き未来思考にシフトする

好奇心ブレーキ掛けず突っ走る

スポーツは敵にもエール清清し

愛を持ち叱る子供に涙あり

肩で風切ってはいるがつらそうだ

西宮市 福島弘子

渋滞を楽しむ車窓れんげ草

成る様にしか成らないとまず新茶

一寸見の強面の老父子煩惱

ちよっとした仕草に育ち滲み出る

娘の指示の家具の配列模様替え

南あわじ市 萩原狸月

朝食のながらテレビに避難民

死神の死角に生きて八十路坂

辛抱のある日悟りの新境地

それなりのしあわせに居てなお不満

あの時の苦言が今日のありがとう

奈良県 安福和夫

幼き日防空壕へ手を引かれ

空襲の直前疎開今がある

プーチンの暴挙止めねば大戦に

猛禽の目をもつヒトが大統領

コロナ禍のウツをロシアが倍加さす

奈良県 谷川 憲

マスク越し目と目でエール散歩道

戦争になると顔見る評論家

ウクライナ無辜の民死す街廃墟

笑いから元気の素が溢れ出す

クラス会田舎言葉で和みだす

奈良県 中堀 優

重ねた手もう離さない離れない

プライドをもぐら叩きでこづかれる

趣味というアプリで防ぐ認知症

宵桜なぜか間隔とる二人

ポツ当然大谷だつてノーヒット

奈良県 長谷川 崇明

恐るべし核で揉めてるこの地球

食い違う意見ミサイクル止まらない

縄のれん洗い流せたわだかまり

好奇心消さぬと今日もネジを巻く

人生は続くこころで四分休符

奈良県 渡辺 富子

咲き競うバラのエールが風に乗る

火も水もくぐった男杖を突く

疑心暗鬼続くマスクの花の道

多色刷りの夏風に乗りやって来る

人の世のおぼろ裏打ちする写経

奈良市 大久保 眞澄

ロシアの暴挙かつての日本見る思い
プーチンは無恥だ今時核なんて
個人情報対壁の耳障子の目
何を探してたのかもわからぬ
要るいらぬ要る要る要ると片付かず

奈良市 加藤 江里子

戦禍の街も鳥は飛び花は咲く
会える時会いましょうねが合言葉
美味しそうに食べる貴方を見る至福
本屋大賞同じ目線にほっとする
まあいいかとしばらく棚に上げて置く

奈良市 高橋 敬子

緑風に窓明け放し部屋清め
昨今の鯉は空より水面好き
若い若いとわが同級を母悼む
混雑は嫌籠もるは寂し連休日
どこ行こと迷った末に墓参り

奈良市 辻内 けんえい

リハビリ散歩目指すはひとり行けること
高齢独居増えてもゴミも増えている
女子会の笑いコロナも近づけぬ
今年から日記代わりのスマホメモ
手洗いの習慣つけてコロナ去る

奈良市 山本 昌代

危ういなこの気怠さは何だろう
何もかも何もかも置き昼寝する
老いが古い見る静かなる五月闇
ちびちびとちびる鉛筆五七五
しっかりと指さし点呼して出かけ

奈良市 米田 恭昌

花は潮時心得て散るナルシスト
性善説無人売場に試される
ミサイルの平和を脅す北のドン
古来より四海に守られている日本
トラだって連敗記録なら負けぬ

生駒市 飛永 ふりこ

毎朝のストレッチから弾み出る
無理しない手持ち時間を大切に
おしゃべりの相手がふつといなくなる
葱生姜おろし饅頭も初夏の味
歳月の光と影が宇治川に

香芝市 大内 朝子

募金してひまわりの種いただいた
ひたすらに平和を祈る戦中派
余命まだ未知へ旅する好奇心
デジタルに疎く昭和のまま生きる
その日まで笑って生きる事にする

香芝市 山下 じゅん子

カーネーション墓前に飾り母偲ぶ

ロールキャベツと息子の帰り待つている

買わずとも触れてみたいの服売場

アイスショーやつと会えます結弦クン

しなやかに揺れるハートを隠し持つ

和歌山市 上田 紀子

螺子巻いて明日の為に早寝する

中心を少しずらした着地点

長生きはしたくはないと言う百歳

当たっては碎ける先手打っておく

童謡唱歌子孫曾孫と歌い継ぐ

和歌山市 柏原 夕胡

五病息災につこりと生きています

同居ではなく共同生活です

ウフフフ何してあそばは休刊日

充実の日々やるのが山とある

土曜日よ郵便受けを見てください

和歌山市 松原 寿子

受け流すそんな器になれそうだと

忍の字を胸に畳んで流れ着く

またひとり心に涙雨が降る

高級ブランドなのにセンスが今ひとつ

独りだからしぶとく生きる気にもなる

海南市 小谷 小雪

久々のおしゃべり肩の凝りを消す

諦めずいると足痛ましになる

定年より早めに辞して悔いは無い

円安に対抗家計引き締める

少年のままの心でいるあなた

橋本市 石田 隆彦

回り道で拾い集めて得た自信

九条に鳴らせてならぬ非常ベル

会者定離いつか覚悟もせにやならぬ

休みたいけど休めない一輪車

一分で乗り換えせよと時刻表

防府市 坂本 加代

年取れば早め早めがちようどよい

諦めのムードに負けぬ鉄の意志

身の回りすっきりさせて逝く準備

統計に自分のランク置いてみる

断捨離で頭の中も片付ける

鳥取県 門村 幸子

どの国のどの時代にもあるイジメ

プーチンのいけしゃあしゃあとしゃあしゃあと

ローカル線存続難い世の流れ

プーチンの長いテール差し向い

妄想に心がしばし留守になる

鳥取県 竹 信 照 彦

早起きはより早起きの妻の邪魔
カンカン照り畑に木蔭の有つてよし
五月雨が欲しい苗植えした畑
遅過ぎたパソコン習う八十爺
満更でないのは講師皆若い

鳥取県 本 庄 ひろし

遅いからもう一杯がもう二杯
川土手をハモつて歩くマイウエイ
核巡り西と東の探り合い
年上のあの元氣さにあせります
大きくて返事は良いとほめられた

鳥取県 山 下 節 子

破るのは記録 守るのは約束
タフガイがもてた時代はもう過ぎた
もう四時だほつぽつ腰をあげる主婦
隣まで自転車で行く過疎の村
満開のさくらの中をローカル線

鳥取市 池 澤 大 鯨

ようやくと自宅持てたが子ら皆離れ
ステータス小といえども自宅です
自宅待機をそのうちに忘れられ
また振られた惚れつぽいのが玉に瑕
幣を振り神を味方に呼びたがる

鳥取市 加 藤 茶 人

幸せの分母のひとつ子沢山
逃げたのじゃないの少しの遠回り
手の豆に赤チン塗った逆上がり
鬼は外何かいたずらしたのかな
良い人を演じ疲れる自己嫌悪

鳥取市 岸 本 孝 子

大病もせずに生かされ手を合わす
留守番の役目をもらう老夫婦
何時の間に歳重ねたと我に問う
好い歳になつてもお洒落忘れない
歳相応歩く姿は隠せない

鳥取市 田 賀 八 千 代

青空になるとお喋りしたくなる
色んな私いますよ今は笑つてる
鯛をガブリ足腰に感謝され
褒めてもらいたくて「お母さん」と呼ぶ
手の温み信じて待つているつぼみ

鳥取市 棚 田 大

活入れる親父の姿声弱い
面白い落語を聞くも笑わない
コロナ禍もふざける子らに活入れる
竹の子の姿に見惚れ元氣湧く
世の中の意外な姿どんと増え

鳥取市 谷 口 回春子

世の中に雨のち晴れという理屈
やる度に強気のメッキ剥がれゆく
ただいまの孫の一声元氣出る
音もなく予告もなしに運が逃げ
正義とは力であるという魔物

鳥取市 永 原 昌 鼓

親に似ず重い口持つ我が息子
リードして一喜一憂開票所
向かい風受けてペダルを踏みしめる
大谷も神ではないと負けがつき
永遠でないかもしれぬこの地球

鳥取市 中 村 金 祥

ものぐさも背伸びをしたい青い空
重大事故の度に心の隙埋める
医者嫌いも思わぬ発作観念す
大砂丘戻って来たぞ人の波
虹を見る瞳はみんな澄んでいる

鳥取市 福 西 茶 子

不満なら聞きます 直ぐに流れます
坂道は避けて平らに世を渡る
脚腰と銭勘定はまだ確か

一周忌まだコロナです逢えませんが
骨盤がグルグルまだ体幹は大丈夫

鳥取市 前 田 楓 花

鳳仙花やさしく触れたのに爆ぜる
連絡が無い 心配の種になる
段取りはいいが体が動かない
わたくしをかなぐり捨てるタイムセール
シベリアに淋しく眠る髑髏

鳥取市 山 下 凱 柳

新緑に誘われスキップして散歩
プーチンが世界平和の夢閉ざす
コロナ対策目途がつくのは何時になる
SDGs 地球の未来夢託す
未来図が描けなくなり老い自覚

鳥取市 吉 田 孔 美 子

しつかり播いた花の種 案の種
しつかり蒔けたのにこの無沙汰はどう
障子みなガラスに替えて他人の手に
筆筒金たった二年で底ついた
自然侮ったか 大山の檜枯れ

鳥取市 吉 田 弘 子

毎日を自由満喫夫の愛
黙食にアクリル板が邪魔をする
ジंकスも時には吉になる不思議
長期予報信じ仕舞えぬ春炬燵
二年振り曾孫の育ち抱きしめる

倉吉市 大羽雄大

鏡との睨めっこから今日始動
時々立ち止まり歳問うている
ふと気づく黙って食べて飲んで
自販機がふいに喋った過疎の町
セールの足音に居留守を決める

倉吉市 田中紀美恵

布団中ゴロリと横にもういびき
母なげく毎日ゴロリ不肖の子
教えこう母はあの世へ旅立ちて
無人駅きれいな心生けてある
心美人で勝負します傘寿から

境港市 藤原久直

散歩する今日は小雨でCコース
流行は追わないダブダブのズボン
記憶が漏れたか名前が出てこない
令和四年平均寿命やつと越え
百円バス市内一周一人旅

米子市 後藤宏之

食わず嫌い試しに食べて見てごらん
蓋をしてまでよまてよと鍋奉行
老夫婦二人になって五里霧中
テレビ体操美女と一緒に汗流す
年金日近いと財布ついゆるむ

米子市 後藤美恵子

雑草に日ごと我が庭支配され
墓の坂先祖は見てる元氣ぶる
聞かれるまでぐっと我慢の見ない振り
老婆にも可愛いときがあったのよ
そば啜る音が何だか立てられぬ

米子市 竹村紀の治

仕方なく笑っています無一文
自分史のところどころに正誤表
真剣にスマホ決済修行中
ゆく先は誰にも内緒シャボン玉
こそこそと出掛けこそこそ飲んで

米子市 中原章子

寝て起きてリセットできる脳になる
朝が来るしんきいってん希望持つ
朝に止む程度の雨が丁度よい
一瞬の誤理解に長時間
楽しみが悲しいことにならぬよう

米子市 成田雨奇

ケイタイの着信履歴今日もない
後ろから誰も走ってこなくなる
年寄りになれた来賓にはなれぬ
嘉子好き好き好きと試し書き
樹という字使う名前が欲しかった

米子市 野川 宣子

お互いが感謝勞う五十年

お互いが見守り合つて今日終える

白黒を付けたいころは尖つてた

るんるんを忘れ三年目の日記

年毎に甘えさせてる足や腰

島根県 伊藤 玲峰

連休に孫の顔見せ賑やかに

子供の日満員の甲子園虎の勝鬨

偲び寄る「古い」に「古いの福袋」(樋口恵子の本)

食べるよろこび話すよろこびまだ達者

支え合い仲良く暮らすよい社会

松江市 石橋 芳山

挽歌から時々変わる反戦歌

手探りの闇から青空を探す

ゲリラ雨カインの罪を隠すのか

朧夜になにをさ迷うのか白虎

リズムの中で育つていく光

松江市 松本 知恵子

奥出雲トロッコ列車の風みどり

溢れ出る命の力若葉見る

人間は愚か戦争終らない

ツバメ待ち白鳥待つて季が巡る

プーチンの小型にはつい知らんぶり

出雲市 岸 桂子

一緒には逝けないけれどそこらまで

不器用な男のタマゴ焼きうまい

少年の夢が銀河をさかのぼる

脇役でいたい日もある赤いバラ

長らえた命社会に返さねば

出雲市 多久和 敬子

ダブル入学財布嬉しい悲鳴あげ

ヒントとは気付かずポイと放り投げ

ごめんねが言えずメールで詫びておく

古い二人昭和の家を守つて

嬉しい時嬉しい顔で眠つて

岡山県 高岡 茂子

春休み孫サーピスに暮れた日々

ためていた言葉吐き出す爽快感

「会報ねこやなぎ」図書館で見るほこらしさ

いつか来る老いのけじめを知らされる

Gゴルフ終つて空の雲笑う

岡山県 田中 恵

平凡な暮しに感謝して眠る

播鉢の思い出母の胡瓜もみ

ボンボンと気合が響く太鼓腹

人間の重さは金で計れない

若葉風のリズムで踊る鯉のぼり

岡山県 藤 澤 照 代

雲流れ今日も戦の国がある
核持てば核で対峙をする世界
おおらかに国境越える渡り鳥
百点あげる本音で生きた父
野良猫に呼び止められて今家族

岡山市 大 石 洋 子

飛脚より遅い郵便青息吐息
すみません身を低くしてくる葉書
居酒屋に泡のような話する
レンジのなか忘れられたる冷凍餃子
コレステロールさげてじゃじゃ馬返上す

岡山市 工 藤 千代子

常識を声高に言う揚げ雲雀
茶わんを磨く少し後悔してる指
春の色になった姑の余所行き
良き妻であつたか朝からの小雨
何を食べようか孫からの小遣い

岡山市 丹 下 凱 夫

お隣も我が家も春の灯を点す
春宵の風を肴に飲んでいる
毫碌がどんだん進む春日和
わたくしが出来る食後の皿洗い
八十八夜昨日だったと思ひ出す

岡山市 前 田 恵美子

金婚式長く短い五十年
連休は焼き肉用の肉売れる
冬の物洗い片付く青い空
マンモスも今の地球を憂いてる
ウクライナはやく育てよ希望の芽

笠岡市 藤 井 智 史

フラフラな身体に愛のブドウ糖
つまらない試練だ神よ有難う
渦巻きの愛にクラクラしてしまふ
ワタシガワタシヲシラヌデアタフメイ
「とんぴ」の聖地 笠岡おいでんせえー

広島市 岸 本 清

十日振り雨に一息花粉症
大好きなビールにもある天地人
何にでも醤油をかけて食すすみ
五月晴ロシアの暴拳に気は晴れず
プーチンの肺腑をえぐるジェノサイド

松山市 大 内 せつ子

煮崩れる前に本音は言っておく
生乾きの羽根を一枚ずつたたむ
くちびるが乾くなんにもしないのに
濁音ばかり空はこんなに青いのに
音程のはずれたままで僕らしい

さびしさを湯割りにして飲んで
あたふたの今日を丁寧に洗う

私の海へ辿り着くまで歩く
デジタルへ舵を切れない古時計

両の手を開いて今日を確かめる

松山市 栗田忠士

春夏秋冬 わが人生を重ね見る
童謡があれこれ浮かんでくる故郷

進まない今なお殺し合うヒト科
戦争という語よ早く死語になれ

ピーチクパーチク未だ続いている立ち話

定年の駅に西口東口
たわむれにギターを弾けば神田川

年金の目盛りでちまちまと暮らす
晩学は楽し 武玉川は佳境

高僧の法話 清濁併せ呑む

松山市 宮尾みのり

締切りがあるから作句止められず
喜怒哀楽声に出すから憂さも晴れ

利口そうに見せる寡黙が続かない
自分史にするりと抜けた個所がある

小走りの癖花道に遠く居る

ジョークひとつ曇天の場を軽くする
なぜかしらレモンが甘い気がしたの

再生紙を使ってエコをしたつもり
電池切れですぬすっかり軽くなる

お借りした本に挟んだ夢二の葉

松山市 柳田かおる

窓拭いて心明るくなりました
出来るだけ季節に合った切手貼る

血管年齢顔の見掛けと正比例
惚け防止鬱も檸檬も敢えて書く

買ったまままだ着てゆくとこない

転がぬ様に滑らぬ様に老いてゆく
通過点女になった日のブルー

ニッコリと笑う必殺技がある
ガラガラポンこんなものです運不運

ひと言が多くてひと言が足りぬ

阿南市 小畑定弘

葉桜の頃にも一度逢えないか
今日もまた推定無罪の日記閉ず

「虹だよ」と隣の嫁の声がする
結局はボクに残った一行詩

本場の戦仕掛けた馬鹿野郎

熊本県 岩切康子

五月の声忘れず菖蒲花咲かす
連休は働く方で若かった
湯呑み一杯ビール注いでくれました
お手製のマスク洗って何度でも
友情の秘密そのまま五十年

熊本市 杉野羅天

一覧三山パワーを貰う秘密基地
世は不思議飲まない人が飲んでいる
危機感がなくて花咲くのを忘れ
雨しとどシヨボンと座る鳩と居る
欲望はつきず領土を増やすのみ

唐津市 坂本蜂朗

妻が病み腕捲りする台所
マスク慣れ独り酌むのも様になる
恥ずかしいこと去来するひとり酒
生きている足腰痛し酒旨し
妻の留守徳利がでかい顔をする

唐津市 山口高明

沖縄が好きと夫婦で移住され
帰省した息子と囲むタンポ鍋
倅せが過ぎて怖いと妻が言う
コロナ禍で繁盛してる釣具店
AIに頼り人間芯が抜け

北九州市 小松紀子

気力はある体力は今ひとつ
酒のめぬ私なんだか損してる
毎日が遊び今日の楽しみは
ときめきがほしいのです今のワタシ
一日に何回も言うありがとう

札幌市 小澤淳

五指こえて耳にまで来た僕の老い
晩学で出会う川柳深きもの
死への道程生の回廊いのちとや
侵略に言い訳だけの救世主
借りたもの返し身辺軽くする

弘前市 稲見則彦

終息を待つ身も辛い後期なり
仮縫いのままで来た妻そのまんま
念入りに顔半分でもいいのです
徘徊と散歩境界線にいる
ああこれが自宅謹慎なんですな

弘前市 今愁女

誕生月弥生に思わぬ入院す
健常を誇った己の裏目なり
人生を短くしたと負け惜しむ
快復しこれしきのこと取りもどす
未だコロナ負けてたまるか強く生き

塩竈市 木田 比呂朗

クールビズなれどマスクは外せない
娘の帰省急に我が家も三世代

四度目もどーぞと訳ありの身体

消毒も接種も避けているスマホ

戦争のニュースに続き梅雨が明け

男鹿市 伊藤 のぶよし

旬の味まかせてくれと木の芽和え

補聴器外れ老いたなど耳掃除

十指でも友を救えぬ指ばかり

日本晴れ待ってましたとマスクとる

小吉の運を味方に惹なし

(前月分) 大阪市 宮崎 シマ子

夕月が冴えてる愚痴はこぼすまい

一緒に泣いてくれる友がいる

凧と風が手をくみ太陽まで昇る

家族揃えば松茸ないがうまい鍋

普段着が一番似合うよね鏡

久津村

(つづき)

(前月分) 貝塚市 吉道 あかね

老い楽し癖のある味好きになる

あの頃は良かったねえとひとむかし

遅れぎみの時計夫も私も

故里にもう待つ人がいなくなる

(前月分) 東京都 尾畑 なを江

ふる里は四月の雪としゃやれている

断捨離にごめんなさいとありがとう

案外に小さなことが大事かも

時たまに百葉の長飲むことも

(前月分) 和歌山市 北原 昭枝

春風に足音軽くペダル踏む

青空にこころが踊るスニーカー

マスクして目深に帽子花粉症

まだまだと思案の知恵を絞ってる

(前月分) 生駒市 児玉 規雄

お花見はコロナ対策通り抜け

完治です神のお告げか医師の声

墓参り父母の享年確かめに

寂しいな六甲風聞けぬのは

(前月分) 鳥取県 下田 茂登子

デイ仲間空耳ばかり集ってる

老いの坂見る物全部曲線だ

汗出して稼いだ金も猫にやる

老母と息子どんな絆であったのか

川柳塔の

川柳讃歌

20

上方芸能評論家 木津川 計

句誌開くああ俵せな人ばかり

宮尾 みのり

「敗れた者でなければ友ではない。虐げられた者でなければ見方ではない。押しつけ進むものは旗とともに去れ（中略）声たてぬ噓り泣きこそ、われら詩人の味方なのだ」、四季派の詩人・丸山薫の「詩人の友」である。

思うに、川柳家はみのりさんが詠む如く、みな俵せなのだ。だから貧乏が嘆かれない。人生の敗、川柳家の友、になることもない。いったいどんな人が、川柳家の見方、なのか。みのりさん、あなた
の嘆きは正解です。

頑張って後数年という命

早川 遯行

「余命、何年です」と医者にいわれたら、私はそのとき少しも騒がずでなく、動揺

する。ついにきたか、と達観もできない。だから、医者に訊くまい、と決めている。最後は、延命治療をせず、「眠らせてくれ」と家族に伝えてある。遺言にも残す。だから、私の終末はおだやかな筈（?）である。どのような終末か、なにしろ意識不明である。理想的な死に方と思っている。遯行さんは頑張ってください。川柳塔が大変さびしくなりますから。

咄嗟には人の名でない時が増え

藤原 久直

隣の方の名前が出てこないのので妻に訊ねると彼女も出てこず、二人して顔を見合わせた。私が回覧板を届けに行く先の名前だ。名前だけではない。漢字も忘れるようになった。講演中、キーワードを板書きして出てこず、平仮名でしので以来、二年前に講演を、やめた。私はいま86歳、この歳でこんなに衰えるのか、慄然たる思いだ。人生はインプットのときを過ぎ、アウトプット一手になった。久直さんの咄嗟の忘れ、大方の行く道です。

胡麻塩のあのおじさんは我が息子

亀岡 哲子

なににびっくりしたといつて、私の娘

に孫が生まれ、おばあさんになったのだ。当然私は曾祖父、ひいじいさんである。おばあさんになったわが娘は、ついで追いかけていた。私は「大きくなったら、軍用犬になる」と本気で思っていた。まことに歳月の流れは矢の如しで、早い。哲子さんの幼かった息子さんは、なんということか、胡麻塩頭になられたのだ。哲子さんは歳の離れた姉さんであつて下さい。

善人の顔して食べるオムライス

高杉 力

殺人を含む前科何犯もの凶悪人がレストランでオムライスを食べていたら異和感があり、「そらあなた、食べるもんが違うがな。子供がよろこぶものでつせ」と言いたくなる。初めて大阪の吉兆で自前料理を食べたとき、えらく出世したと思えた中年の昔があつた。料理は人間を選ぶのである。だから力さんは善人の顔してオムライスを食べた、ということ。は、ええーっ!? 力さんはいったいどんなお人なのかとは冗談で訊くだけのことです。

西尾葉句集『水鷄笛』くいなぶえ

口八丁自分の恥もさくらけ出し
リーダーともおつちよこちよいとも言われ
社長の性談古典落語めき
社長とは金融に走るものなるか
右書左楽音痴の俺は如何せむ
虜や虜や汝を如何せん四十八
キーホルダーと名がかわっても親父もち
還暦が自分であつた面白さ
後手後手と廻る生活の五十年
小皺啣てば責任のある顔という
草月流俺の気性に似ておかし
命ある句命ある句とて寝てしまひ
ポン引きの近よつてくる髭かいな
優越感フト気がつけば一人なり
社長今日孤独の二字をかみしめる

(完)

俱会一処

西尾 葉

七月三十一日、薫風・柳宏子の両氏と私と三人、二年ぶりで高野山の奥の院の蟬時雨の中に佇った。

というのは、この度、奇特な人の寄贈で、霊地の一区画を戴いたので、その地を見聞に行ったのである。大変、閑かな良い環境で、あたりには、そこう百貨店の従業員慰霊碑や(株)コクヨの供養塔のあるところで、静かな中にも、賑やかなたずまいの処であつた。

翌八月朔日の常任理事会に、その霊域の話をして、ここに麻生路郎を始祖とした路郎以下現川柳塔の同人一同の慰霊碑とするか、供養塔とするか、今後の相談として、そんな碑を建てて、川柳塔初代主幹中島生々庵以下の物故同人並びに今後の物故同人の柳号を記して供養したいという意見に一致した。

普通、我々の俗名並びに戒名の墓は、それぞれ、古里の墓に眠るが、この供養塔(慰霊碑)には、姓と柳号と没年月を記したもので、死んでも川柳塔同人の結束を図つた霊の温かい俱会一処の塔(碑)となるのである。

(後略)

(「川柳塔」No 748平成元年九月号巻頭言より)

自選集

小島蘭幸

祝七歳ビーフステーキリクエスト

肥後守で削ると孫の瞳が光る

ソーダ水ひとつ夢見る椅子がある

ずいぶんと遠回りして来た酒だ

七十四バイクで転んでも無傷

新家完司

大らかな森フクロウのお気に入り

干乾びたハートに太陽の赤を

酸欠の脳味噌に効く芋焼酎

挨拶もせずに旅立つ奴ばかり

スバルより高い所にある彼の世

高瀬霜石

金の要る話わたしもこの国も

ただいまと言った瞬間みな忘れ

自然体なんて気軽に言うけどさ

老体は無理せず2杯プラスチック

ないものねだりしたくはないがすれば——孫

竹治ちかし

総括も出来ず平成令和の世

驕るなど日蝕見せている宇宙

たまに来る喜びあって生かされる

違う地に生まれ育って出雲の地

コロナ禍のマスク似た顔似た仕種

津守柳伸

招待をされても乗らぬ観光船

変動の気温まごつくファッション

紹介状持って不安の大病院

年令を知ったナースの七変化

CTで不安払拭した5月

西出楓楽

五千歩のノルマはちぼち減らそうか

黄泉の国で待ってくれてる夫と子

わが幕の閉じ方何と軽い事

他人みな賢く思う雨の午後

レットイットビーとケセラセラの余生

仁部四郎

学校は還暦からが楽しそう

学校の空気も世間と同じもの

学校に銅像あれば不要です

学校の門は世界通じてる

正論の皆学校揺るがない

平田実男

暇なほうが良い警察と消防署
道の駅お国訛りも添えて売り

年寄りへ青信号が短か過ぎ

生水が飲める日本が有難い

お願いに行くたび敷居高くなる

福士慕情

プーチンの頭の中を見てみたい

豊かなる大地戦車は似合わない

祖国愛いのちで守るウクライナ

人間を捨てロボットになる兵士

平凡な暮らしが欲しいウクライナ

藤村亜成

反戦の思想に遠隔催眠できないか

核自爆 遠隔操作できないか

自由民主のウィルス開発できないか

正反合 共存共栄できないか

米寿まで目指せばまだまだできること

松本文子

ポジティブに生きよと桜咲いて散る

たくさんの出会いと別れ五七五

木洩れ日の想い出遠く消えていく

薬草も姿を消した散歩道

草焼きをしたら止まった車たち

三浦強一

人にコロナ鳥にインフルおおゴッド
忘れてることを忘れている怖さ

眼や耳の使用期限も近くなり

我輩は不用不急か沙汰がない

人生はたかが百年楽しまにゃ

三宅保州

いちばんに起きて最後に寝る母よ

産みの母も育ての親も鬼子母神

運命の糸は切れたりもつれたり

古里に帰っても墓だけである

大木といえども枝があればこそ

村上玄也

ロシア軍の暴挙へ世界中怒り

人命より領土大事な独裁者

独裁者の居る隣国に囲まれて

平和慣れして国防に疎い国

国連が機能しないもどかしさ

森山盛桜

鯛が弾けています雨上がり

小夜嵐青年の樹を屠らんか

捻くれる曲がる一流の釣鉤

この星に住んで我慢が続く日々

どう見ても愛嬌がない正露丸

化身

八木千代

音たてて咲く睡蓮よ古代から
まっさきに朝を知らせる蓮の池
葉の裏に見え隠れする昔人むかしびと
現世うつしよの花とはとても思われず
儂なまこげに旅ゆく月の化身かも

山本希久子

主婦業に定年はなしさしすせそ
マスクにも疲れ終日家を出ず
老々介護こっそり吐息つきながら
花に見向きもせぬ子からカーネーション
体験あり防空壕での一夜

板尾岳人

少しまだ暇があるので出刃を研ぐ
どしや降りへ傘を忘れて恋をする
米びつの隅にあしたの詩がある
父の夢ばかり見ている蛍川
蹴られても石はだまって飛んでいく

居谷真理子

穂孕みの凜々と邪を寄せつけず
一粒となつて砂時計の中に
ベガからのメールが来ないまま夜明け
運命と仲直りして逝きました
命というものが私を歩かせる

川上大輪

今も聞こえるゲルニカの息づかい
続編は白紙のままに渡される
ひよつとしてそんな気がして目を覚ます
表情を変えずサンマは網の上
天国も地獄も見えてきた背伸び

北野哲男

火を抱いた人を集めるのが句会
横書きの世でも句箋は縦の意気
甘党の離党勧告拒否をする
初対面覚えられてたキヤラクター
妻よりも長い付き合い免許証

木本朱夏

『戦争と平和』の国の侵略者
小羊を横目に爪を研ぐ熊
カチューシャの折りを踏みにじる軍靴
砲火まだつづく戦地に麦の秋
ウクライナブルーの空へ鳩よ舞え

予告

第28回川柳塔まつり

日時 令和4年10月1日(土)
会場 ホテル・アウィーナ大阪

森の集句



『大橋』

勝かつ谷たに山川さんせん児じ

大会旗意気でスル／＼昇り行く
強くなれ強くなれと湖澄めり
若葉光つて城を胴上げす
背泳ぎきれいな島の影を見る
召集の日の指の白さよ
軍靴にて踏みし椿の赤かりき
盃の底のゆううつ
街路樹も秋アスファルトも秋
松の内いい父さんになつておこ
働けば四囲は輝くものばかり
日めくりも秋のさみしきもの、中
水鉄砲わが家の高さまであがり
子と遊ぶ時の眼鏡を外すなり
妻の留守妻の雑誌を読んでみる
かくて朝霧にぬれてる事故現場

(平成4年9月10日復刻版、島根県川柳協会)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

王様の隣の席があいている
王様の声聞いた日の百日紅
コーヒーはブラックがよしペンネーム
過去はもう光らぬ父の銀時計
都市砂漠 独居老人今日も死す
大柄の美女立っている肥後菖蒲
光るもの何もない手が美しい
諦めた顔でライオン輪をくぐる
裏声で歌ってならぬ反戦歌
達者かと一声 父の電話口
スピーチを聞いてはいない箸枕
茄子トマトきゅうりピーマン夏の雲
ギャルソンの髭りっぱなり巴里祭
廃線は覚悟していた赤トンボ
さりげなくビール注いでる仲直り
風ぐるま無心に回る水子塚
身を立ってまだ名は上げず太郎冠者
わが娘ながらも母はたくましき

水煙抄

川上大輪選

鳥取市 吾郷 天遊

ネコ飼っているけど愛に飢えている

好きだった人は頭の隅にある

空豆のサヤは確かな母性愛

本読んで埋める頭のガランドウ

畳屋の針でしつかり縫う絆

針仕事亡母の話になつてくる

黒石市 北山 まみどり

不死身だと勝手に思い込んでいた

元氣だよ大丈夫だと言いなながら

陽気とは仲良しらしい寝てばかり

空腹を感じなくてもとる食事

万歩計すねたのだから進まない

どの辺をさ迷っている記憶力

八幡市 武田悦寛

巢で遊ぶくもの親子のハンモック

難しい話の前の缶ビール

初夏の風ゆるい田舎の立ち話

際立って無口な二人縄のれん

不器用を名刺に書いて生きてきた

すんだことはすんだことでタネを蒔く

黒石市 石澤 はる子

真実を洩らしてしまふ壁のヒビ

成り行きにまかせることも選択肢

方向音痴時々風に問い直す

無防備に鏡を覗いてはならぬ

削除キー何度押しても消えぬ悔い

母の日は亡母のエプロン着けている

大洲市 花岡順子

試されていると悟ってから本気

呑みこんでくれるが返事せぬポスト

そのままでもいいのと私背伸びせぬ

紫陽花の美意識を見る七変化

方言をからめ特産品が売れ

好い人ができ瘡蓋は消えていた

大阪府 奥野 健一郎

気配りが完璧すぎて落ち着けぬ
九分九厘読めぬ孫の名なせつける

後始末カパーするのはやはり金

無理なこと無理と言えずに無理をする

聞こえない振りが一番愚問には

よく言ったそれじゃ手本を見せてくれ

大阪市 阪井 恵子

カアカアと追い立てられて帰る道

蛇口からぼとり溜め息つくように

辛口の評価弾けるシヤボン玉

ばあちゃんと呼ばれまあるくなる背中

丁寧に捌いた鱻が光り出す

空席に想い出乗せるクラス会

岐阜県 喜多村 正儀

わたくしの色滲ませて書くかしこ

どこまでが己か迷う水クラゲ

初恋の人と再会あと余白

角番に立てば見えないものが見え

あるはずの出口が見えぬ終末期

新婚の部屋にもあつた秘密基地

河内長野市 坂野 澄子

無力さを嘲笑うのか欠ける月

蹴躓き神のご意志と知る齡

故郷がみように恋しい再生紙

亡父の椅子へこみに母が語りかけ
引出しが少し開いてる今日のウツ
きた道の苦節を語る足の裏

大阪市 岡田 恵子

悩むのはエデンの林檎食べてから

触れないで破裂しそうな恋心

賞味期限された想いを棄てきれず

今日もまた翼さがしに図書館へ

しなやかに生きる女の太っ腹

都合によりの都合がひとり歩きする

松江市 中筋 弘充

顔役が来ぬとすんなり行く会議

言いたいことがあるので杭は出ています

のぞみ号に抜かれるために待つこだま

試着室へ入った妻が出てこない

辛そうに時間を刻む古時計

政治家になれぬ政治屋でもなるか

横浜市 巖田 かず枝

夫留守のんびり出来ぬ性分

ポリープを取ったと医者が肩に手を

PCR マイナス医者もほっとして

誕生日カード孫らにいつまでか

にくいこと歳を重ねて増えて来る

断捨離とかっこつけても捨て切れぬ

宇都宮市 廣瀬良磨

凡人は凡人なりに生きるだけ

真つ白なスケジュール帳動き出す

値引き品閉店前を狙い撃つ

雪解けて男体山も胸を張る

なんとなく着信音を変えてみる

富士見市 中島通則

ドラ猫がお魚を追う雲を見た

駄菓子屋へ昭和の風に会いに行く

ロスタイム拾い集めて供養する

妻は活火山 夫は休火山

備忘録書いた事さえ忘れてる

石川県 堀本のりひろ

甘酸っぱい想い起こさず朧月

ほこりまみれ全てをかぶる剽げもの

冷たい月そがれ私団子虫

大クシヤミ空気一変コンサート

ビックリポン僕にも愛がありました

大阪府 大浦福子

物忘れ増えてくわたし恐くなる

気になるも恐くて聞けぬ君の嘘

五十肩りちぎ両方なるなんて

生きる術苦手な人に距離を置く

弱気など捨ててしまえとバラの棘

大阪府 高木道子

つまらない物なんですが取り敢えず

眠られへん言うて聞こえる大軒

同じ齡背中の丸さ忘れ癖

鶯の声も届ける長電話

田起こしの済んで燕の低飛行

大阪市 大沢のり子

夫たてるモカの香りで目覚めます

帰省の子麦とろ飯をかきこんだ

満腹で心も丸くなれたはず

泣くことも幸せ巢立つふたりの子

たくわんのポリポリ妻は平和です

大阪市 尾崎文子

こいのぼり戦いのない空泳げ

お月様約束きつちりまんまるに

円周率覚えたけれど使つてへん

誕生日ケーキを止めてピザにした

戦いに理由は要らぬ早よ止めて

大阪市 折田あきこ

定住地探し続ける渡り鳥

受け入れた筈の古傷うずき出す

白と黒あいだに入る邪魔な赤

少しづつ出来たひびわれ深い溝

神の目が見つめ続ける疑似平和

大阪市 中村 峰子

ダイエットしていないのに痩せてきた
お腹減る食べたいものが浮かばない
人の愚痴ほんまに聞いて疲れます
うちの猫私の愚痴を聞いている
わが過去は夢かほんまかわからない

堺市 古川 光雄

スマホ様に繋がれれ今日も生きている
することない妻の買物ついて行く
小銭ない神社のお参り遠慮する
昭和ふた桁ひと桁ほどに苦勞なし
車やめ能なし亭主に成りさがり

泉大津市 助川 和美

朝寝坊今日の予定を立て直す
かたずのむシーンになればコマーション
売上げを数えず羊数える夜
押し入れで風恋しがる鯉幟
美味しいと思ひ込ませる添加物

貝塚市 吉道 あかね

古希からはきれいな色でラッピング
昨日と同じ変わらぬ今日にありがとう
少し余裕できてやさしく生きている
治療後の髪が癖毛に生え変わる
みんなみんな笑い話になるこの世

柏原市 神崎 江

笑ってるように揺れてるニリンソウ
前かごの卵大事にペダルこぐ
つないだ手握りかえした帰り道
客足が減ってビールは瓶になり
ただいまとおかえり其処にいらなくても

門真市 坂本 星雨

焦るほど闇はどんどん深くなる
定年離婚薔薇一本を友とする
五月の空突き抜け燥ぎだす心
久々の句会夕日が美しい
朝が来ることを信じて目を閉じる

河内長野市 穂口 正子

おれおれに騙されそうや電話して
ひび入ってスリル一杯夫婦茶碗
お骨仏御魂集めて一心寺
極楽かも身心浮べ仕舞風呂
おばあさんのハート薄らまだピンク

吹田市 西沢 司郎

我を張って行き着く所へ行く覚悟
耳寄りのうわさも逃す遠い耳
余震3閻魔の嘘かも知れぬ
コロナ禍でますます遠くなるご縁
臆病と言われようともマイペース

高槻市 三谷 白黒

薬より運動せよと言われます
やるからははまってしまふジイジです
三年ぶり情気満々の休み明け
五十年何とか二人持ちました
水遣ると次の日雨が降ってくる

豊中市 齋藤 奈津子

大吉の御籤引くまで神社巡り
遠い耳詐欺の方から切る電話
逆風に今がチャンスと揚がる風
意に反し口が勝手にものを言う
終息待つてどんちゃん騒ぎしてみたい

豊中市 松田 蟻日路

あとちょっと足りぬ関節可動域
モットーは無理はほどほど先送り
歳とともに伸びないゴムになっている
騒ぐには少し気弱な初老です
勝った勝った提灯行列してました

寝屋川市 長尾 千賀

木洩れ日のシャワーを浴びて蝶生まれ
ごめんねをまだためらってる利かん坊
可愛い娘針千本を胸に飼う
禁じられた遊びを唄うオルゴール
都会の絵具に染まった人も過去の色

神戸市 青木 公輔

甘党に酒の話はもうええで
運命をバツハが聴いて何思う
0番線が知ってた恋の物語
駅は静かに貴女を待つている夜明け
揺れ動く恋です一寸お静かに

神戸市 城戸 誓子

答えぬが私の声は判る母
母の日はデイへ行く服贈りましょ
亡姉の名を呼ぶ姉になってみる
手にふわり気配感じた姉の通夜
ちよつとだけ泣いてもいいか酒に聞く

神戸市 みぎわ はな

純粹で添加物無く無味無臭
揺れながら立ち位置しかと葦の自負
思いつきり溺れていた君の海
母の胸から君の胸妻の胸
時間とは残酷なもの砂時計

神戸市 村松 久江

リセットをすれば笑って会えるかも
ここだけの話スイッチ切ってから
子育ての答え合わせは未だ出来ぬ
少しだけ大きめのシャツ一年生
噛み合わぬ話のままに日が暮れる

神戸市 米田 利恵子

寄り道や逆走したい歳になり
誘われてみたい気もする風に会う
ハンドルは娘うとうとできぬ旅
マスクと傘苦手な人とすれ違ふ
まん中で仲裁をする犬を飼う

伊丹市 延寿庵 野鶴

褒め言葉やんわり人をふくらます
空っぽの手からこぼれる無の時間
挑戦は明日へ繋ぐ夢と意地
カフェオーレの海で明日の策を練る
引き寄せた運で生きてる八十路坂

伊丹市 岡村 風琴

思い切り笑いこだわり捨てました
一目惚れメトロノームが止まらない
見上げれば入道雲が威張ってる
百歳が百年も見た蒼い空
明日を渡して夕陽は落ちて行く

明石市 瀬島 流れ星

懐かしい昭和オヤジの千鳥足
助手席のやいのやいので自損事故
厚遇で敵にまわらぬよう監視
うっかりと入れ菌忘れて喋れない
具合よく来客妻の小言ちゃん

たつの市 江尻 房子

玉ねぎが太る五月の雨の中
木の芽どき母がやさしくなる季節
あきらめぬ あきらめないと手摺り持つ
化粧せぬ顔が年齢追い越して
もう少しこの世に居ますあしからず

西宮市 高橋 千賀子

一人でも子供の日にはかしわ餅
春の野でスマレたんぽぽ大笑い
笑い声絶えない家は福が寄る
朗らかな人だ心に花が咲く
赤帽が消えていたとは知らなんだ

三木市 山口 ヨシエ

諦感を認めて仰ぐちぎれ雲
一善をなして微罪を薄くする
花の庭路傍の人に褒められる
真つ新なあしたへジャンプする矜持
薫風に乗って野辺ゆくりフレッシュ

奈良県 山根 弘華

欲の川渡りきれずにおほれだす
プライドがこびりついている瘦せ我慢
ひらめいた一句にペンがさわぎだす
たし算で生きていきますその日まで
句が抜けて心の中はほっかほっか

奈良市 東 定生

指先も円も地球も荒れ模様
ロシアには帰りたくない渡り鳥
傷ついたハートを癒やす縄のれん
大地震来るぞと煽る震度四
窓口が混み合っている給付金

生駒市 饗庭 風鈴

草木染め命の色を映しだす
あばら家の一輪のユリ月明かり
春の雷ひっきりなしに君おもう
四十雀そんな泣いて疲れぬか
ホケキョと鳴けば愛されたのにカラス

和歌山市 北原 昭枝

歳重ね短くなって行く時間
ちちははに届かぬ手紙書いてみる
影法師理由も言わずについてくる
キツチリと締めてる帯にある覚悟
我がままな老い方をしてまだ元気

和歌山市 倉橋 悦子

ライバルがわたしの中で生き返る
線引きが難しいから戦わぬ
子等の声増えて団地が活気付き
腰痛が思考回路を狂わせる
桜見て夏は休んで紅葉狩り

和歌山市 定松 宏枝

値上りにスリムになった冷蔵庫
面倒なことはさっさと先にやる
とびきりの笑顔で遺影撮っておく
下戸の夫妻を相手によく吠える
物忘れ一から動作やり直す

和歌山市 西川 千鶴

妖精に逢いたく森に迷い込む
故郷は良い事あった場所にする
今の世じゃ出たくないよと胎児拗ね
近道に沢山あった落し穴
シクラメン二人静の名を妬む

山口市 中前 幸子

空カンがぼつんと公園のベンチ
少し言い過ぎてしゃっくり止まらない
ランチョンマット敷いて真似ごとの料理
終列車わたしの生命線走る
鉛筆とお喋りをする楽しい日

鳥取市 上山 一平

田植え機の唄う早苗の初舞台
ひとにぎりいたただくワラビあたたかい
ユリの香で満たす母の日感謝デー
お手玉の昭和をしのぶ数え歌
薔薇に小蜂美の競演に佇ちつくす

鳥取県 田中重忠

私の愚痴を放りこむ箱がない
意地も張る大きな声もまんだ出る
マンボウよ君の尻尾はどこやった
体力は落ちたがまんだ口は立つ
空き家でも石南花が咲くボタン咲く

鳥取市 山野すみれ

トントンで期限が分かる肩たたき
少しだけ優しくなれる時もらう
見栄という不思議な箱の中にいる
這うように壁から壁を乗り越える
豆は豆ナスにはナスの花が咲く

米子市 妹能令位子

ラジオって想像力に羽生える
るんるんの猫を待らせ生きている
今時の流行歌って歌えませんが
うちの猫由緒正しき野良である
シヤム猫の末裔野良を闊歩する

安来市 原德利

やり過ぎにロシアの蟹も泡を吹く
ご当地に生まれ燻した安来節
酒蔵の禁固刑ならずつといる
舌下錠お守りとして持ち歩く
太陽の子供八人みな女性

岡山市 折鶴 翔

医者よりも心の傷を癒やす犬
一言で妻の心が浮き沈み
王よりも飛車角守る僕の癖
暇なので妻の小言を聞いてやる
再会に心が弾む縄のれん

津山市 高橋 由紀女

咲いた花咲く花愁うネキリムシ
リカちゃんより電子ロボット好きと言う
諦めの遅い自分を戒める
腕時計はめてスタートした昭和
老い一人責任果たすお留守番

美作市 岡本 余光

気取らずに余生を生きるのがベスト
天命を肩にぼちぼち下る坂
記憶力頼りないので辞書に聞く
侵攻の余波に値上げが乗って来る
ミサイルは怖いブーチン尚怖い

広島市 松尾 信彦

捨てられぬ付箋のひかる参考書
子に抜かれ嬉しい昭和旨い酒
春の日を約束してる移植鱈
晩学に持続可能を準える
二番手にリベラリズムのある矜持

尾道市 小畑 宣之

受けた恩感謝を込めて倍返し

道草の多い人生程豊か

誘う友誘われる友有難し

小事なら成り行きまかせそれが良い

太り過ぎ野性忘れた猫が増え

府中市 岸田 武

勝ったからスポーツ欄を真っ先に

リモコンが不調テレビへ這って寄る

年金で補正予算はないのなり

平均へついて行けないことだらけ

また一軒空き家が増えて緋のツツジ

松山市 郷田 みや

天ぶらにすると豪華になる野草

説明は不要スキップして帰る

QRコードで入る映画館

エンドロール涙を拭う時間です

約束はしないまたねと言う別れ

今治市 安野 かか志

東風吹かば匂いをおこすゴミ施設

寒村を動画にさせるトラクター

夢に出た父の拳固は痛かった

コロナ禍の猫と欠伸をうつし合う

陽春にブーチンさんの春嵐

高知市 三谷 松太郎

おきやんさん今日はめかしてどこ行くの

ふつつかにやって来てまだふつつかに

男老い女狐が来てたぶらかす

くそ婆と言わせてもらいガスを抜く

医者は出すこちら只今節案中

佐賀県 真島 久美子

もういいよ青いツバメを探すから

這い上がるための涙は袖で拭く

内臓のどこか石榴の割れる音

逆転へ黒い絵の具を滴らす

あんかけにすると食べられそうな恋

宮崎県 黒木 栄子

すっかりと野良着の馴染む定年後

母さんへ感謝白いカーネーション

しがらみを避けてのんびり山歩き

来客の気配すばやく片づける

母さんの思い出胸に一周忌

弘前市 小山内 真由美

すんなりとおはよう言える距離がいい

小公園何だか長い友となる

土曜の公園パパと子どものコミュニティ

新米パパの最後にいつもケーキかな

ノルマ達成ニコニコ帰るパパも子も

倦怠感検査しなけりやただの風邪
新しいスマホで気分転換を
子の電話何故か困った時だけで
何もせず一日過ごす連休中

東京都 高岡 弥生
横浜市 加藤 佳子

断捨離の果てに私が残される
買い換えたスマホがでかい顔をする
テレビから流れる露軍忌わしい
士気あおる演説よりも停戦へ

山梨県 小林 金剛

貧にして夢は大きく根は深く
限りある命恋するケンカ腰
夢に見る極上の愛今見つけ
負けましたさすが妻ですキツツキよ

名古屋 市 富田 末男

好奇心持つとヒントがよく溜まる
今日の顔鏡の答え待っている
野に生きる花の力に恋をする
飽食を嫌う心にある昭和

豊橋市 小松 くみ子

遅咲きの四十肩今やってます
徒長とか言って切られる小枝たち
キンギョへも食のバランスゆで野菜
足音へ金魚がエサをねだる朝

円安が不調となった日本国
桜散り次は出番の藤の花
厄年に次々起きる困り事
京の膳器が中身越えている

京都府 北野 クニオ
大阪市 東 敏郎

別人のような細身の古写真
忘れへん今日は自分の誕生日
歩き癖教えてくれる靴の裏
爪の垢飲んだふりした今の僕

大阪市 今村 和男

空色と水色分ける海の果て
寝転んで目が合う星に話し掛け
天の川どこへ流れて行くのやら
うつつかと抓ってみれば蝶の飛ぶ

大阪市 近藤 風羅

水を張り鏡の如し田のおもて
本閉じて余韻にひたる時が好き
コロナ明け友とカラオケいざ行かん
無口でも確かに見てるあの人が

大阪市 阪本 秀子

サブリなど気休めですとお茶すすす
私に何が成せるか答えでぬ
悲しみが積もらぬ海のように生きる
天の父母にとどいてほしいグルメ便

大阪市 白谷 よしみ

退院し腫瘍の数を自慢する
笑うつばピント合わずに五十年
お爺さんジムへ行くよとりハビリへ
恋の詩忘れた胸は息ぎれし

大阪市 滝井 恵美子

主語のない夫の言葉を推し量る
神だのみ気付けば神もお昼時
一言が飲み込めぬまま喉の奥
作業衣をお疲れ様ともみ洗い

大阪市 田原 康雄

同じ花二度引き抜かれ阿蘇噴火
昭和の歌流す店には雀寄り
焦がさない弱火にしている趣味の会
本箱の本に挟んだ秘密ばれ

大阪市 樋口 眞

リハビリが始まりやとと作句出来
リハビリの二百歩ほどで疲れ出す
病室で柳誌隔まで読み尽くす
卒寿前二十余本は自分の歯

大阪市 前川 善之

平和にも努力で成らぬ事もある
助け合いも心の愛も限り有り
老人は連休有れど行き場ない
コロナ禍でマスク掛けでの行楽地

大阪市 松田 そう

恩師からライン届いて安堵する
夕焼けを見つつ平和に感謝する
ノラ猫に餌をやるのは人のエゴ
抑止力武器を増やせば護れるか

池田市 倉本 一弥

体重計デジタルに替えダイエツト
小金増え余裕か笑みが多くなる
だから何背向けたままで冷めた妻
無職となり妻に世辞言う日が増えた

泉大津市 葛城 隆雄

寂しいな古い仕来たり薄れゆく
縄暖簾愚痴を肴にあおる酒
山間の谷間に泳ぐ鯉のほり
不思議です似ずもよいとこ似る親子

交野市 山野 双葉

玉ネギの高値献立行き詰まる
痛い目に遭つても懲りぬ恋心
おねだりはりんご牛乳お熱の日
母の名の赤色消えて初盆会

高槻市 鳥居 宏

人間に生れて九十三年目
カーテンを開けると五月とび込むよ
雑草の我が物顔に満つる庭
日は落ちて私も休む時がくる

豊中市 貝塚 正子

スケジュール白が続いた自粛中
拝む蠅新聞丸め一叩き

今この時神を信じて書いた絵馬

ファーストキス犬に取られたうちの孫

菫屋川市 坂本 ミヨノ

夕日入る夕食急ぐ子等さわぐ

しわないと鏡にしわが嘘言われ

元氣そう白寿近くに言わないで

猫の恋小声で鳴いて人のまね

羽曳野市 黒木 ひとみ

セルフレジ機械に指示され支払います

畦道の全ての花に名前あり

えんどうの香り漂い飯炊ける

薫風を受けて若葉の枝踊る

八尾市 田邊 浩三

ニユース見て疎開の苦勞思ひ出す

スポーツは止めて自宅でコロナ飯

CMのビール飲む音禁酒日に

腰痛のおかげでコロナ寄せ付けず

神戸市 石川 克美

戦勝を記念する日があるなんて

宗教が戦争支持してどうするの

ロシアへは堪忍袋切れたまま

おかしみを捜しあぐねて見つからず

芦屋市 荒牧 孝子

ひまわりがまた泣いているウクライナ
もういいね自分に甘く生きたって

甘い考え空気読んでねもう少し

奇跡の出会い咲かせてみせるもう一度

芦屋市 新阜 義明

リタイヤ後2職目古希で若手とは

家計簿を勘ピューターで仕切る妻

全壊に再建誓う虹の空

オミクロンこれが幸せ種ならば

尼崎市 宗 和夫

車からシフトアップだ自転車へ

裏庭に植える野菜の数も減り

買うよりも高い野菜を育てます

会釈され少し戸惑うウォーキング

三田市 生田 えい子

店先で平目と鯛の睨めっこ

老舗の灯ひとつふたつと過去にする

モミジの手天に差し出し夢を追う

青い鳥やっと見つけた娘をほめる

三田市 幸田 厚子

引出物茶碗にコップ日の目見ず

青春日記文字の乱れは失恋期

忘れてはいけない妻の誕生日

新米パパ初風呂添える大きな手

三田市 辻 開子

丹波篠山市 澤 良子

車かえ免許期限は後少し
庭いじり出来ぬ体が悔しくて
新緑をながめて心晴れ晴れと
術後ですコロナの注射思案中

三田市 馬場 貴美江

金の成る不思議な袋夢をみる
歯の治療食欲失せて困ります
生きざまを拝列すればボロも出る
老いたれば声帯までが狂いだす

三田市 森 玲子

三食昼寝体重だけは気にかかる
ハイヒール履いて出掛けた頃が華
孫の顔幸せくれる宝物
老いていく後ろ姿に母重ね

宝塚市 太田 としお

好き勝手言える日本がありがたい
正直だ顔に悩みが出ています
老人にも夢があります安楽死
桜満開コロナのことを忘れさす

丹波篠山市 河南 すみえ

暗い世に遺産の富士は美しい
子供の日よもぎを摘んで餅搗いた
まあええか思い残すことあるけどな
みそ汁に野菜沢山入れておく

後世に厳しさ伝え語り継ぐ
鍛えれば正座できます健康法
無視されてしたよりましと気を正す
都合よく女ですからひき下がる

西宮市 高瀬 照枝

温泉で命も洗うデイサービス
しゃぼん玉夢もつつんですぐはじけ
エプロンで体形暈かす主婦の知恵
あじさいの絵手紙出そうお礼状

西宮市 藤原 みよし

忘れ物なんだったかと手にサイン
チョコがない先こされたか孫にこり
飾るのか読まない本で床たわむ
酒の味覚えた孫にお酌され

生駒市 永田 美美子

直売所朝採り野菜偽装なし
半夏生特売の蛸災難日
紫陽花のロマン漂う古都の寺
清流の芹を束ねて夕餉鍋

奈良県 室田 行久

なやみごと あいだみつをにきいてみる
小賢しさ捨てず句作りもがいてる
病床の母の愚痴聞く長電話
予後不良明るく笑い救われる

和歌山市 三枝 眞智子

少年の心を掴むかくし味
のんびりと定年の父風を聴く
奮発したすきやきの肉踊ってる
もしという期待ばかりが先走る

和歌山市 佐藤 まき

大川に渡す悠悠鯉のほり
うちの鯉仲間入りして風を得る
久し振り活気に満ちて観光地
怠惰な日病院ラジオ心打つ

和歌山市 福島 一雄

遊覧船会社も国も皆悪い
桜餅食べて今年の春を知る
母は血で父はお金で子を繋ぐ
食器にはプラスチックは全てダメ

和歌山市 まつもと もとこ

SDGsわたしにできる事さかす
ペアルックのどかに調和する二人
涙があふれば軽くなる心
戎橋はしゃいだ彼もトラ吉も

山口市 兼崎 徳子

クレープに戸惑い悩む血糖値
会議では言えない思い酒席にて
ひとり言閉じ込めている涙壺
胃カメラに写ってしまう恋の傷

鳥取県 橋谷 静江

一日を血圧計に励まされ
健康が一番朝は散歩から
見廻りのバラがたくさん蕾つけ
万歩計数がつづかぬ老いの足

鳥取市 大前 安子

母の真似戸惑いながら笑み浮かぶ
反抗期ロールキャベツの具材かな
プライドはまだあるのです背はシャンと
ポケットの握り拳が緩みだす

倉吉市 伊藤 嘉昭

同人誌川柳は友日々開く
八十路樹医の仕事は忙しい
運をかけ仮想通貨を選び買う
部屋映える妻子不在時花飾る

倉吉市 堀 かずこ

春風を背に一歩二歩楽しいよ
悩んでた私の生きる道はどこ
我が体思うようにはいかないよ
今日こそはいい事あるよ手を合わす

倉吉市 宮田 風露

久びさの旅にワクチン証明書
寒暖差今日着る服はどれにする
長閑さに歩数も増えた散歩道
回覧板届けおしゃべりタイムです

倉吉市 若松 由紀子

面倒な電話に耳の遠いふり
よく動く手足に感謝老いの日々
朝一番先祖亡夫にご挨拶
一人旅自由に行ける老い独り

境港市 中井 虎尾

葉桜の頃に一輪おくれ花
表裏あるは野球とお茶の道
静けさを破ったそれは大クシヤマ
昨日今日同じ顔だが変化中

米子市 川本 美津子

不自然な動きで分かる隠し事
想像力枯らさない様趣味を持つ
病院で元気ですかと友が聞く
羽根生えた年金すぐに飛んで行く

松江市 相見 柳歩

この星の創造主を神と呼ぶ
人生の足場書店に平積み
断りの返事でもいい待っている
飯の世の名残は全部置いて逝く

松江市 山根 邦代

二組のツバメ来てるとはさむ声
山菜が届いてみどり味をみる
ガッテンに教えられてる事多い
ウクライナなんでと胸痛む

広島市 田桑 恵子

柱時計のちに合わせ時を打つ
追われてるもやもや感で今日も暮れ
盛り上げたハンバーガーはどう食べる
もう三年マスクはすでにファッション化

広島市 常國 喜好

熟すのは当分先に延ばします
一瞬の風を上手に結べない
天国の虹を見に行く一人旅
角を出す地雷を踏んだことがある

尾道市 小川 道子

仕合わせは自分らしさで居れる場所
あなたとは本根の弦で響き合う
人生の茶漬の味に辿り着く
自分史は涙なしでは語れない

尾道市 村上 和子

天寿まで生きろ生きろと日が昇る
お日さまを食べて満腹干し布団
折り畳み夕日へ投げる今日の鬱
燕の子つばさ広げて初舞台

竹原市 土井 輝恵

少しだけ治癒していません眼科出る
筍のおじちゃんだった星になる
規則緩和感染増えているのになあ
まあいいかいいかと年金暮しです

三次市 伊藤 寿子

雨音が昭和の時代つれて来る

戸を開けて聴くこの雨音は亡母の音

100歳までは御無理でしたかいとさみし

普茶料理届けてくれる友を持ち

福岡県 本田 さくら

玄関前ツバメ巣づくり伺いに

ピーポーピーポー聞こえる方へ一斉に

窓あけりや赤白ピンクつつじ咲く

三大家族孫が四人であとしんど

宮崎県 恵利 菊江

お花見に寂れた山が情緒生む

散歩する親子の跡を鳩が追う

汗かいて農する鍬が遣る気だす

葉の花の畑に参加の蝶の舞

沖縄県 宮 すみれ

夕ぐれにつり人見入る初夏の風

散歩道たまにうしろをふりかえる

母の日に娘と孫のカレー鍋

マーキング隅に残して去って行く

白河市 鈴木 たけし

老いの道振り子のままに進む足

故里がかすむ破線が点になり

桜なら名木となる八十の春

あるだけで安心感のある手摺

青森県 月波 与生

ばんやりと回る親父と扇風機

誰も笑わなかったコメディアン

蛍光ペン引く嫌いな人リスト

自分探しするふんどし愛好家

（前月分）美作市 岡本 余光

隠れたりときに逃げたり生き延びる

不自由は我慢気楽が良いひとり

来年も見たい元気で同じ花

来年も見たい元気で同じ花

第16回 岡山県川柳大会

と き 9月11日(日)
 と ころ 津山市総合福祉会館 4階大ホール
 開 場 10時(開会13時)
 投句締切 11時30分
 兼題と選者

「出 口」	狩谷 博子	選
「金 庫」	尾高 水陽	選
「残 る」	高橋 士筆坊	選
「 飴 」	高木 勇三	選
「疑 う」	新家 完司	選
「 魚 」	小島 蘭幸	選
特別席題	(当日発表) 松本 藍	選

参加費 当日投句2000円(昼食・大会誌呈)
 主 催 岡山県川柳協会

(吉道あかねさん、尾畑なを江さん、北原昭枝さん、児玉則雄さん、下田茂登子さんは35頁にあります)

福田 山雨楼

「川柳十徳」より

〔川柳雜誌〕昭和12年1月号

俺に似よおれに似るなと子を思ひ

路 郎

元目だせて眼鏡を拭きませう

路 郎

(三) 自然に親める

自然を詠ふ短詩には俳句が代表的のものであるが、川柳も亦この畑に風馬牛であるものではない。川柳独自の観察と角度から、自然の風情を探つてゐる。

君見給へ渡菴草がのびてゐる

路 郎

(四) 観察が鋭敏になる

「川柳は覗む」と云はれるだけあつて川柳をやつてゐるうちには、生れつき俊敏でないものでも相当な眼の持主となることが出来る。心の働く素地が作られる。物を見る眼をゆるがせにしなくなる。

大晦日上唇が乾ききり

鮎 美

(六) 心にゆとりが出来る

今日のやうな経済機構と社会思潮の渦中にあつては、大抵の人はせつちちで、神経質で、理屈っぽく、愚痴っぽく、青白くなるばかりである。だまされるところと思つて明日からでも川柳を始め見るならば、妙に心の余裕が出来て昨日と違つた世界を見出し、一服の煙草にも変つた味を求め得るであらう。少くとも釣に行く以上の効果はきつとある。

(八) ロマンチストになれる

句を作り、句を詠み且つ味ふことの楽しみ、快よさに慣れるに従つて、川柳作家は知らず／＼文学の母胎であるところの、ロマンチストになつてくる。小説を読んで泣く女のやうに甘くはないにしても、句境と情緒に浸り、感傷を汲むことが出来るであらう。

牡丹雪はらく／＼旅にある心

葭 乃

(十) 作品が残る

これは極めて当り前の言葉で、五銭で三銭切手を買へば二銭残ると云ふのと同じことのやうであるが、その相違を発見するのは川柳をやるに限る。釣銭は使へばすぐなくなるが、文字に残した作品は嫌が応でも後年に残るのである。しかもその作品が光つたものであればあるほど句の永遠性があるのである。そして川柳は他の文芸作品に比較して短い詩型であるから手軽に句を残すことが出来る。作品が残るところに文学の尊さがあり、これに携はるもの悦びがあるのである。黄金を以つて替へ難い心の富とも云へやう。

子を死なし学校に子の多いこと

路 郎

(一) ユーモアがわかる

英国あたりではユーモアのわからぬ男は紳士ではない、と迄云はれてゐるさうだが、ユーモアを解する事は馬鹿話の間からは仲々得られない。腹の中からこみ上げて来るやうなユーモアの味、それは川柳のみが持つ特権だとは云はぬが、川柳も亦預つて力がある。

秋風の中で乞食に拜まれる

豆 秋

(二) 人間愛を深める

人間愛と云つてもいい。光つた川柳は必ず人間味が滲み出でゐる。貧しきもの、無智なもの、弱きもの、病めるものを見て、そこに美と真実とを見出すのが川柳である。人間が人間を愛する至上の表白こそは川柳の生命である。よき友達の生れることも請合である。

英語 de Senryu ⑫

麻生霞乃 『福寿草』 (1955)

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

言いまけて又鏡台へ向きなおり

a loss

downed by my opponent

I face the dressing table again

飲んでほし やめても欲しい酒をつぎ

me wishing to drink

and me wishing NOT to drink

I pour sake for him

loss 喪失感 *down* 屈服させる *opponent* 対立者 *face* 向く
dressing table 鏡台 *wish* 望む *drink* 酒を飲む *pour sake* 酒を注ぐ

〜リバーウィローのため息〜 ⑫ 旅先で古書店めぐり

国際学会に出席する傍ら、かの地の古書店巡りをする。外からは目立たず、地下への階段の奥にひっそりと営業している古書店もあり、何か宝物探しのようになる。ポーランドのクラクフで開催されたヨーロッパ国際俳句大会での発表を終え、列車でチェコのプラハへ向かった。仕事を終えた気楽さで町を散策していると、いかにも古書店らしい構えの店が現れた。階下ではなくまるで京都の町家のような細長い店であった。しかし中に入っていくと、宝物が埋まっているような階下への階段が目に入る。60歳ぐらいの大柄の店主は、昼間から酒臭く、小さな東洋人の私たちをじろりと眺め、何を探しているのかと尋ねた。外国の古書店では、日本の古いものはあるかと常に聞くことにしている。店主はそれではと行って、私たちを待たせたまま階段を下りて行った。彼はまるで宝物を持つかのように一冊の分厚い本を私たちの前に置いた。それが本物の「ちりめん本」との出会いであった。明治時代に輸入商、長谷川武次郎によって出版された多色刷り木版の欧文和綴日本である。ちりめん織りのような手触りと美しい版画が魅力的だ。東京帝国大学でドイツ文学と言語学を講じた *Karl Florenz* (カール・フロレンツ) による *Dichtergrüsse aus dem Osten* 『東の国からの詩の挨拶』であった。この本は長谷川によって明治二十年に第一版が発行され、私の手元に在るのは大正三年発行の第十五版である。万葉集、浦嶋、桶狭間の戦い、安政の地震などが絵巻物のように描かれている。日本の詩歌が優れた学者によってヨーロッパに紹介された実物を手にできたのは旅のご縁であろう。「ちりめん本」は私の手で光っている。

誹風柳多留一二三篇研究 23

小栗清吾・細井龍夫
伊吹和男・高野範雄
山田昭夫

清 博美

179 おちなんとする事後家ハあまたゝひ

小栗 後家が男共に言い寄られて陥落しそうになることも何度かある、というだけの句であるが、それだけでは面白くないので、文句取りが取り柄の句と思われる。

似たような構造の句に、
はらまんとする事下女ハあまたたび

安元45

があり、「新発見川柳評安永元年万句合輪譚」(江戸川柳研究会)の時に、「文句取りだろうが典拠分からず」で終わった経緯がある。

今回改めて調べてみると、芭蕉の著作の中からは似たような文句を発見した(ウエブサイトからの孫引き。原典未照合)。

(1) 野ざらし紀行(天理本)

「小夜の中山」に於ける「馬に寝て残夢月とをしちやのけぶり」の詞書。

はつか余りの月かすかに見えてやまのねきハいと暗く、こまの蹄もたとくしけれハ落ぬへきことあまた、ひなりけるに

(以下略)

(2) 笈の小文

「須磨」

…羊腸險阻の岩根を這ひ登れば、迂り落ちぬべき事あまたたびなりけるを、

(以下略)

「落ちなんとする」と「落ちぬべきこと」で文句も少し違ふし、また芭蕉のことだから漢籍からの引用とも考えられるので、この文の文句取りとは言えぬかと思うが、一つの手

掛かりとしてお示しする次第。

清 賛。謡曲に出て来そうなフレーズなので、少しく調べてみたが、索引からは見当たらない。

180 座敷らう出入の大工じたいする

小栗 どちら息子を入れる座敷半を作るのを、出入りの大工が辞退するというのである。小さな子供の時から知っている息子を、そんな目に合わせるの忍びないということか。あるいは家の中にも賛成派と反対派があつてもめているのかも。類句を見ると、概ねご命令通り作っているようなので、珍しい大工さんではある。

気のとくな事と大工ハとりか、り

安八礼9

山田 賛。「小さな子供の時から知っている息子」でしょう。人情において忍び難い。

清 山田氏の人情論もさることながら、時移り、やがて代が替つて息子の代になった時、この大工は出入り禁止になる。お得意を一軒なくすことになるのである。先に見える大工だということである。

座敷半出入の大工三度辞し

一三八32

181 小袖で八ないと薬師寺にかわらひ

小粟 高師直の横恋慕でお馴染みの「太平記」(巻第二十一)「塩判判官讒死の事」の中で、塩判判官の女房に恋文を送つて返事をもらった師直が、薬師寺次郎左衛門公義を呼び寄せて相談する場面。

「この女房の返事に、「重きが上のさよ衣」と言い捨てて立たれるとなかだちの申すは、衣・小袖をととのへて送れとにや。その事ならば、いかなる装束なりともしたてんずるに、いと安かるべし。これは何と言ふ心ぞ」と問はれければ、公義「いやこれはさやうの心には候はず、新古今の十戒の歌に、

さなきだに重きが上のさよ衣
わが妻ならぬ妻な重ねそ

と言ふ歌の心を以つて、(以下略)

血が上つてしまつて「小袖が欲しいのか」と見当違いなことを言う師直に対し、「いやいや、小袖がほしいわけではございません」と呆れて苦笑いをするしかない薬師寺である。

で八ござるまいと薬師寺にが笑ひ 五六9

伊吹 贊。師直の無学?
清 贊。

182 大当りけんくわいくつかつかみ出し

小粟 芝居が大当たりで、切り落としなどは押すな押すなの大混雑。あちこちで喧嘩が起こり、掴み出される連中も何人かという案配である。

切りおとしても立テをする大あたり

三二26

清 贊。どういう訳か大当たりに喧嘩は付き物のようだ。男の観客は、あまり行儀はよくなかつたようである。

183 申入れますと礼者八こぼすなり

小粟 申し入れるは、年賀の詞をのべる(「江」)。こぼすは、きどつたい方をする。きどる(「日」)。

ふだんは「よつ、いるかい」などとぞんざいにやつて来る男が、年礼には妙に氣どつて年賀の詞を述べに来るというのであろう。柳兩「年中行事」では、前後の句から見、年末の掛け取りを払わなかつた奴が年礼にやつてくるというパターン句としておられるようであるが、そういう設定をしなくても通じる句のように思う。

ふにやいの上下申人と来る

二〇23

清 贊。この後、酒を酌み交わすことになり、年礼はここでストップ、なかなか捗らないことになる。

184 むぎものへ土肥の二郎八口がすぎ

小粟 向き者は、単純一途な性格の人(「日」)。土肥の二郎は、頼朝の家来土肥次郎実平のこと。

謡曲「七騎落」では、石橋山の合戦に敗れた頼朝が真鶴から船で房総に落ち延びようとしたとき、主従八騎では縁起が悪いので一人下ろせと、頼朝から実平に命令が下る。困つた実平が岡崎義実(「櫃板のところに居て、陸に近いから下りてくれ」と言う)と、義実がこれに反論して「親子で乗船している実平、遠平のどちらかおりろ」と言うので、実平も「尤もにて候」と遠平を下ろすことになる。

ここで「向き者」は頼朝へ忠義一筋の岡崎義実を言うのだろう。そんな者に対し「陸に近いから下りろ」などと口の過ぎたことを言うから、息子を下ろさねばならぬことになつたのである。

清 贊。口は楯の元ということである。こんな事で採めていては先が思い遣られる。

愛染帖

新家 完司 選

(投句255名)

神戸市 横田 次郎

初孫は寝返りだけで寝められる

(評) やつとこさグルリと寝返りができて、

家族一同「よくやった〜」と拍手喝采！
私達にもそのような時があったのだが…

藤井寺市 太田扶美代

まだ元氣人愛したり妬んだり

(評) 風邪を引いて少し熱があるだけでも他人のことを考える気力は失せてしまう。人を愛するのも妬むのもエネルギーがいるのだ。

尾道市 小川 道子

天才が努力するから敵わない

(評) 「天才とは、1%の閃きと99%の努力である」はエジソンの言葉。弛まぬ努力は才能を凌駕する。くじけずに頑張りましょう！

大阪府 高杉 千歩

せめて十歩私の足で歩きたい

(評) 「人生の放課後車椅子がソファ」も同

作者だが、「座ってばかりもつまらない。せめて十歩…」との思いだろう。実感句は強い。

熊本市 杉野 羅天
カラスの死運動場のど真ん中

(評) 広い運動場の真ん中に黒いシミのような物体。よくよく見ればカラスの死骸である。良くない事が起こらなければいいのだが…

広島市 羽城 裕子

約束があります雨の中走る

(評) 遅刻常習者は決して走らない。雨の中を走るのは、遅刻に慣れていない律儀な人。「走れメロス」を思い起こさせる一句。

明石市 糞谷 和郎

今さら訊けぬことはスマホに訊いている

(評) とときどき耳にしたり目にするがまだ辞書には載っていない新しい言葉や流行語。検索すれば教えてくれるスマホは強い味方だ。

神戸市 奥澤洋次郎

使い道はちゃんと出てくる宝クジ

(評) 一等賞の場合は「あれとあれとあれ！」。二等なら「あれ！」と使い道はきっちり決まっている。後は当たるのを待つだけである。

大阪府 奥村 五月

戦争は天災よりも恐ろしい

(評) 天災も恐ろしいが、このたびのロシアによるウクライナ侵略を見ると、戦争というものの恐ろしさはその比ではない。

大阪府 島田 明美

戦争を伝えるアナに出る笑窪

(評) 海外からの状況を伝えるアナウンサー

に可愛いエクボ。微笑んでいるわけではないのは解っているが悲惨な映像にはそぐわない。

尾道市 村上 和子
地球儀が地団駄踏んでいる戦

生駒市 饗庭 風鈴
土砂降りの世界の地図が崩れだす

鳥取市 大前 安子
ひもじさを知らない人がする戦

大阪府 古今堂蕉子
戦争の種はいつでもどこにでも

府中市 岸田 武
国盗りの現代版も悲惨なり

池田市 奥園 敏昭
弱い国苛め大國品が無い

川西市 山口 不動
戦争をテレビ機敷で見る日本

三田市 堀 正和
戦争のニュースの次は花便り

黒石市 石澤はる子
防衛力心もとない素手素足

箕面市 中山 春代
爆撃はCGじゃないウクライナ

大阪府 東 敏郎
ワイドショー コロナそこのけウクライナ

大阪府 内田志津子
ウクライナ希望に生きる日はいつか

宝塚市 岸田 万彩
当分は聴く気のしないゲルギエフ

横浜市 川島 良子
プーチンの所為だな値上げ止まらない

河内長野市 木見谷孝代
プーチンの演説ロシア正当化

神戸市 近藤 勝正
無礼だが呼び捨てするよプーチンと

河内長野市 藤塚 克三
御破算で願ひましては鬼プーチン

神戸市 敏森 廣光
プーチンの行く末見るまで逃げません

奈良市 大久保眞澄
前向きに検討中が積んである

堺市 村上 玄也
自慢話ケツプ抑えて聞いている

どつちやねん行けたら行くという返事
便利そうで扱いにくい多機能機

松山市 郷田 みや
のんびりの夜には酒場放浪記

スケジュール無い日は玄関の掃除
弘前市 高瀬 霜石

黙食は苦手ひとり酒は好きだ
高級じゃない人も乗る高級車

三田市 上田ひとみ
こどもの日子供だった日思い出す

ヨソ様に夢中になれた若かった
鳥取県 斉尾くにこ

マスクだけほんやり灯る会議室
ひとつ窓眺め黙ってとるランチ

鳥取市 奥田 由美
流し目のポチとシエアするかき氷

橋本市 石田 隆彦
引つ張った犬も今では三歩後

尼崎市 宗 和夫
老いた犬いたわりながら老いふたり

大阪市 大沢のり子
壁際で寝ているタマもおばあさん

西宮市 福島 弘子
反省も悟りもしないうちの猫

三田市 北野 哲男
毒舌で褒める特技を持つている

豊中市 きとうこみつ
失敗で増やした知恵が老いの武器

青森県 月波 与生
想い出せない2番目の彼氏の名前

メルカリで安く買ったと自慢する
戦争が大っ嫌いで愛国者

聞いてくれ前立腺の悩みなど
大阪市 谷口 義

隠し芸の一つに長生きを入れる
桜井市 安土 理恵

姉妹がそっくりになる間の悪さ
夫の引出しあけて後悔のしきり

夫の脳に合わせスイッチバックする
富田林市 山野 寿之

巻き寿司の具がたっぷり端が好き
ピンポンににんまり出たら荷は隣

松江市 石橋 芳山
なに色にしよう真つ白な日曜

佐賀県 真島久美子
句帳繰る十七音の黒歴史

河内長野市 森田 旅人
幾星霜わたしに深い森育つ

笠岡市 藤井 智史
CHANELの袋に百均山と入れ

東京都 川本真理子
虫けらになって抗議の声あげる

堺市 内藤 憲彦
駅中にエレベーター派階段派

津山市 高橋由紀女
傷心の亡父とおんなじ歌がある

今治市 永井 松柏
へつついが嫁に伝える家の味

神戸市 能勢 利子
一〇二歳とエンドウ剥いて豆ごはん

尼崎市 山田 耕治
お先にと抜いて行かれる朝歩き

横浜市 加藤 佳子
八十の壁を堂堂超えました

藤井寺市 鈴木いさお
信じたくない八十になるなんて

橿原市 居谷真理子
天国が草葉の陰か迷ってる

札幌市 三浦 強一
まだ逝けぬいま人生が面白い

壱市 奥 時雄
パンダよりシマウマの柄センス上

大阪府 米澤 椒子
敏増えて生命線が分からない

東大阪府 青木 隆一
腹の虫縄跳びしてもおさまらず

鳥取県 門村 幸子
心の隙目掛けて不安沸き上がる

高槻市 初代 正彦
フエークにもあたふたしない太っ腹

越谷市 久保田千代
爪を切る時の流れがふと止まる

土佐清水市 辻内 次根
チリ紙を丸めて鼻の掃除する

大阪市 磯島福貴子
水水水と唱えて予防熱中症

堺市 坂上 淳司
冷蔵庫に何か用かと尋ねられ

貝塚市 吉道あかね
食べられることが幸せだと気付く

池田市 太田 省三
日替わりのメニューぐるぐるの一か月

鳥取市 前田 楓花
イカナゴは上手な人に煮てもらう

岡山市 大石 洋子
にんにく料理一緒に食べて一緒の香

和歌山市 柏原 夕胡
お見舞いへおかず三品持つて行く

黒石市 北山まみどり
寄り道は苦手だという万歩計

鳥取市 岸本 孝子
歩数計歩けあるけどやかましい

大阪市 石田 孝純
蹶いた日は海を見る星をみる

岡山市 丹下 凱夫
「洋服の青山」に月昇りけり

海南市 小谷 小雪
太陽に意識的にも会いに行く

神戸市 上田 和宏
妻の愚痴オチは誰かの所為となる

岡山県 藤澤 照代
欲捨ててみればこの世は味気ない

川西市 大坪 一徳
イエス・ノー迷ったときは眼鏡拭く

奈良県 渡辺 富子
おしめ替えた孫も哲学語り出す

豊中市 松田蟻日路
やつと古稀傘寿卒寿の峰遙か

鳥取県 竹信 照彦
八十路坂越えてパソコン塾へ行く

美面市 出口セツ子
正直に不器用に生くDNA

唐津市 坂本 蜂朗
切り抜きをため読みもせず又捨てる

沖縄県 宮 すみれ
方言よちむどんとんによく出るさ

美面市 広島 巴子
背比べ孫に越されて止めにする

香芝市 山下じゅん子
急成長の孫から貰うスニーカー

男鹿市 伊藤のぶよし
オマケでもいいベビー石鹸肌合う

弘前市 小山内真由美
おはようがやわらかくなる町に住む

横浜市 菊池 政勝
定年後千円床屋と仲が良い

和歌山市 上田 紀子
個人情報漏れても無くす物もなく

三原市 鴨田 昭紀
すんなりと関所を通る袖の下

豊中市 池田 純子
豪邸にこれまたデカイこいのぼり

大阪府 大浦 福子
蝶々にも方向オンチ居るみたい

松山市 栗田 忠士
ああまたかサブプリメントを売る電話

高槻市 島田千鶴子
まいったなあ三階建てを悔いている

豊中市 水野 黒兎
丁寧に解いた紐をもてあます

大阪市 宮崎シマ子
困ることあれば言うてと若い友

大阪市 江島谷勝弘
高所恐怖明石大橋渡れない

河内長野市 梶原 弘光
未だ臍を曲げる元氣は残っている

香芝市 大内 朝子
見上げれば元氣を出せと天の声

高槻市 片山かずお
薔薇と鬱書いて退屈退治する

鳥取市 倉益 一瑤
悪いものばかり見たのか目がくらむ

枚方市 丹後屋 肇
魂が正座している柔道着

神戸市 富永 恭子
庭のフキ刈って五月のおもてなし

米子市 野川 宣子
春野菜虫も一緒に頂いた

芦屋市 新早 義明
ハイキング挨拶自然スツと出る

神戸市 松倉 正美
父さんの顔そっくりな木喰仏

弘前市 福士 慕情
弥陀の声きこう聴こうと足を組む

防府市 坂本 加代
髪型を変えて別人気も変わる

名古屋市 富田 末男
考えの軽さでなつた有頂天

米子市 池田 美穂
値上がりで仏花一輪挿しとなる

岡山市 折鶴 翔
最大の防御は妻に背かない

河内長野市 辻村 ヒロ
新聞が夫婦の会話弾ませる

鳥取市 岸本 宏章
ミサイル発射費用を値踏みしたくなる

岩国市 上村 夢香
未知の世界へ三時起床はまず一步

名古屋市 山本三樹夫
タンスの古着バッグとなつて生き返る

大洲市 花岡 順子
連休の後は気になるのがコロナ

八王子市 川名 洋子
制限が解除なつても家籠り

奈良県 安福 和夫
キヤーキヤーもべちゃくちやも今懐かしい

貝塚市 石田ひろ子
エレベーター互いにそつば向いている

米子市 後藤美恵子
自粛中なれど食うため店に行く

大阪市 岩崎 公誠
巣こもりでスーパ―儲けひとり勝ち

豊橋市 八甲田さゆり
人と会う こんなに幸せだったのか

大阪市 坂 裕之
丸二年会えなかったの嘘みたい

大阪市 田中 廣子
北朝鮮コロナ感染爆発か

奈良市 加藤江里子
ウイルスに勝つまで生きているかしら

尼崎市 永田 紀恵
夕間暮れ動き始める酒の虫

宇都部市 平田 実男
健康のパロメーターに酒の味

東大阪市 北村 賢子
父の膝でお酒なめてた頃惚ぶ

米子市 成田 雨奇
新酒よりいつもの酒が落ち着ける

富士見市 中島 通則
安いけど長居が辛い立ち飲み屋

三原市 笹重 耕三
むずかしい話は酒の後にする

堺市 澤井 敏治
喧嘩のときも仲直りにも要るお酒

神戸市 城戸 誓子
ドック終え節制止めてさあ呑もう

倉吉市 大羽 雄大
日替わりの理由づけして飲んでる

神戸市 みぎわはな
ビール酒ワインの味はまだ判る

高槻市 松岡 篤
飲み過ぎた罪は五臓や血圧に

大阪市 平井美智子
酔い醒めの水に説得されている

大阪市 井丸 昌紀
飲みたいという魂を宥めてる

羽曳野市 吉村久仁雄
棺の中に入れる酒なら決めている

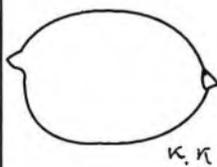
共選欄

檸檬

抄

(薰風書、カットとも)

(投句333名)



「消える」 栗原道夫選

間違いを消したところがよく目立つ
 消去法だけでここまで来てしまう
 削除キーたまには使う脳回路
 蠟燭の灯が消えそうに惚けてくる
 消しゴムで消せる程度の嘘をつき
 人知れずそっと消えたいコロナです
 一両のローカル線が消えていく
 明日の日が消えないように畑打つ
 消えてしまうまで見送る野の煙
 消え入りたいこと多かりし若き日々
 消火器で恋の炎は無理ですね
 ライバルが消えると意気が上がらない
 どっこいしょ言うたび若さ消えていく
 小半日掛けて消しゴム探している
 夕闇に消える誠の紳士です

明石市 糀谷 和郎
 佐賀県 真島久美子
 枚方市 藤田 武人
 枚方市 藤村 亜成
 吹田市 太田 昭
 弘前市 稲見 則彦
 安来市 原 徳利
 松江市 藤井 寿代
 海南市 小谷 小雪
 交野市 山野 双葉
 和歌山市 松原 寿子
 大洲市 花岡 順子
 富田田市 中村 恵
 岡山市 丹下 凱夫
 山梨県 小林 金剛

「消える」 久保田千代選

消印有効 投句は間に合わず
 昭和史の消してはならぬ一ページ
 悲しみを消して踏みだす第一歩
 背景を消してあなたとツーショット
 消えてった若さ贅肉で戻る
 のたうち回っても消えて行く若さ
 邪と欲のやっさもつさは消え去らぬ
 明日の日が消えないように畑打つ
 消去法だけでここまで来てしまう
 削除キーたまには使う脳回路
 ライバルが消えると意気が上がらない
 気張っても消える定めのシャボン玉
 絶滅へ追いやる人の深い罪
 あの雪がちんぷいぷい消えました
 観音経ミニローソクが消えるまで

笠岡市 藤井 智史
 貝塚市 石田ひろ子
 奈良県 山根 弘華
 大阪市 滝井恵美子
 大阪市 原田すみ子
 八王子市 川名 洋子
 生駒市 飛永ふりこ
 松江市 藤井 寿代
 佐賀県 真島久美子
 枚方市 藤田 武人
 大洲市 花岡 順子
 三原市 鴨田 昭紀
 枚方市 丹後屋 肇
 弘前市 稲見 則彦
 堺市 源田八千代

消えた後落ち行く先を考える へそくりが消えた私の一大事 商店街人影消えて猫走る 目印のお店次つぎ消えてゆく 好きな街本屋もカフェも消えていく 風景を変える電柱の地中化 無くなったメガネではない補聴器だ 暖味な回答語尾が消えている 二、三日行方不明になってみる マジックショーとちらがウケる消える出す スツキリと爽快愛が消えた朝 小走りに消えるお方の丸い背 返事して消えるスリルのあつた頃 新緑が消え街が消えても青い空 風前の灯やはり無情の風が吹く 転居通知パトナーの名消えている 携帯を仕舞うと存在が消える 束の間の幸せでしたデカイ虹 耳鳴り消えるほっと安らく時間でず あつさりところちそうの夢消えて朝 諭吉の顔を見たら頭痛が消えました 思い出せん一昨日の晩ゴネた訳	米子市 加古川市 加西市 和歌山市 堺市 河内長野市 八尾市 芦屋市 三田市 河内長野市 枚方市 高槻市 熊本市 豊中市 尼崎市 奈良市 島根県 芦屋市 豊中市 鳥取市 高槻市 豊中市	成田 雨奇 吉村めぐみ 山端なつみ 上田 紀子 澤井 敏治 中島 一彌 田邊 浩三 上野多恵子 堀 正和 大島ともこ 栃尾 奏子 初代 正彦 杉野 羅天 齋藤奈津子 宗 和夫 加藤江里子 伊藤 玲峰 竹山千賀子 松尾美智代 山野すみれ 片山かずお 松田蟻日路
--	---	--

あなたへの想いが消えることはない 疑いの雲消え去って歩が軽い ミステリー プリンが消える冷蔵庫 そして皆消えたクリステイの世界 四季折りの節目を消した温暖化 歳月が大空駆けて消えていく 消え時をさぐりさぐりの立話 今日を楽しむ残照が消えるまで 硝煙が棚引く音のない画像 砲弾が折りのことは消し去った 国一つ消そうとしての独裁者 平和が消された一発の砲弾 キャタピラがずんずん消していく国境 キャタピラに踏まれて消えた麦畑 スマホリズムだんだん退化する五感 携帯の番号消した三回忌 訃報記事昭和の星がまた消える 流れ星大事な人が逝きました 転居通知パトナーの名消えている 消えかかるとのちにホスピスの明かり 正義心消えて人道から外れ	尾道市 神戸市 神戸市 和歌山市 弘前市 豊中市 豊中市 大坂市 土佐清水市 豊中市 米子市 名古屋市 岡山市 岡山市 堺市 宝塚市 松山市 岡山市 たつの市 貝塚市 奈良市 大坂府 大坂府	小川 道子 富永 恭子 城戸 誓子 西川 千鶴 福士 慕情 居谷真理子 貝塚 正子 宇都満知子 辻内 次根 水野 黒兎 池田 美穂 山本三樹夫 大石 洋子 澤井 敏治 岸田 万彩 柳田かおる 工藤千代子 江尻 房子 吉道あかね 加藤江理子 米澤 俣子 岩崎 公誠
---	---	--

消えたのは愛と闘志と羞恥心

消え時をさぐりさぐりの立話

二次会をそーっと消えるいい上司

三次会勝手に消えることにした

じたばたと消えるしかないなと思う

逝ったヒト昭和のまんまそのまんま

気張っても消える定めのシャボン玉

大臣がいや消えたのは秘書でした

食べるもの皆おいしくて消えられぬ

蟹気楼だったすっかり消えていた

また一つポストが消えて進む過疎

アパートが消えるとなぜか駐車場

斜めから見たら嫌いが消えていた

思い出を辿れば虹がさっと消え

上書きをされて思い出消えていく

水掛けてもちっとも消えぬマイハート

一大事魔法の呪文消えている

美しい昭和が消えるシャボン玉

シャボン玉でしたコロナで消えました

旅の土産もつばら消えるものにする

例えばを例えられなくて沈黙

人恋しさも消えてゆきます簡条書き

鳥取市 福西 茶子

豊中市 貝塚 正子

堺市 内藤 憲彦

丹波篠山市 北澤 稠民

長岡京市 山田 葉子

男鹿市 伊藤のぶよし

三原市 鴨田 昭紀

唐津市 仁部 四郎

大阪市 大川 桃花

西予市 黒田 茂代

犬山市 関本かつ子

米子市 竹村紀の治

米子市 後藤 宏之

出雲市 多久和敬子

尼崎市 近兼 敦子

石川県 堀本のりひろ

岡山県 田中 恵

広島県 新庄 芳春

松山市 宮尾みのり

松山市 大浦 初音

箕面市 まつもとともこ

和歌山市 大内せつ子

松山市

曖昧な回答語尾が消えている

北の海消えて藻屑の観光船

方言で話すと消えた肩の凝り

ケセラセラ眉間の皺が消えている

指紋消え紙がなかなかめくれない

白檀の香焚き憂い消している

握られた手から憂鬱消えてゆく

風呂の栓抜いて消えてく今日のうつ

ごちそうをたっぷり食べてウツを消す

憂鬱はケーキ食べ放題で消す

ウィルスが行事予定を消していく

グータッチ目と目が不安消し去った

笑い声マスクに消えて目が笑う

コロナ禍に消化不良のバスポート

行き付けの店の灯りが消えました

消えたり点いたり私の記憶の灯

一晩で消えるおぼつかない脳だ

原色が消えた記憶が問いかける

ふるさとの川に流した夢の殻

消えてゆく夢のかすかな鼻濁音

健康が第一タバコ止めました

煩惱が消える呪文を唱えている

芦屋市 上野多恵子

大阪市 磯島福貴子

尼崎市 藤井 宏造

黒石市 石澤はる子

米子市 中原 章子

島根県 伊藤 玲峰

大阪市 小野 雅美

和歌山市 北原 昭枝

大阪市 笠嶋 恵美

大阪市 田中ゆみ子

鳥取市 大前 安子

米子市 後藤美恵子

奈良市 東 定生

米子市 竹村紀の治

神戸市 みぎわはな

奈良市 山本 昌代

米子市 妹能令位子

大阪市 折田あきこ

大阪市 平井美智子

大阪市 江島谷勝弘

大阪市 岡田 恵子

大阪市

大阪市

ミステリープリンが消える冷蔵庫
 ほとんどとスマホへ消えてゆく自分
 ジョッキからほとんど消えてゆく希望
 朝起きるとお隣が消えていた
 チューリップが咲いたよ君はいないのに
 ありし日のオーラもうない日向ほこ
 謎一つ解けて一つの夢消える
 四捨五入されて列から消えて行く
 肩書きが消えてほころび縫うている
 雪が消え思い出だけを置いていく
 もう一杯飲めば笑顔が消えてゆく
 歳月が高空駆けて消えていく
 もやもやが消えてポバイの腕になる
 泣きすぎたせい泣きボクロ消えました
 いいことあったか消えた独り言
 消えてゆく夢のかすかな鼻濁音
 葉桜に消えてしまった子守歌
 陽炎の向こうへ消えたのは昨日

秀 句

神戸市	城戸 誓子	西宮市	亀岡 哲子	大阪市	折田あきこ	大阪市	宮崎シマ子	弘前市	高瀬 霜石	大山市	金子美千代	明石市	瀬島流れ星	寝屋川市	伊達 郁夫	堺市	柿花 和夫	宮崎県	恵利 菊江	大阪市	井丸 昌紀	榎原市	居谷真理子	富山市	伴 よしお	広島市	羽城 裕子	鳥取県	斉尾くにこ	大阪市	平井美智子	黒石市	北山まみどり	土佐清水市	辻内 次根	松江市	石橋 芳山	藤井寺市	鈴木いさお	大阪市	谷口 義
-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	--------	-------	-------	-----	-------	------	-------	-----	------

ちっぽけなプライド消して仲間入り
 備忘録消して新たな挑戦
 逡巡の渦で大方消える欲
 傘寿過ぎ影も形も無い気骨
 少しずつ古いの記憶を消す海馬
 記憶に記録すっかり消えてタダの人
 自分史が消える記憶を呼び起こす
 老いの不安を消した母の日の花束
 平成令和艶消えている人模様
 歳月が静かに消した傷数多
 いいニュース明日は欲しいとテレビ消す
 テレビ消しじつくり対峙する心
 下戸なれば出口に近い席とする
 うまいなあ勘定前に消えている
 便利さが昭和の姿消していく
 肩書きが消えてほころび縫うている
 目力の消えゆく確信の揺らぎ
 甦れと消えた日常への祈り

秀 句

八幡市	武田 悦寛	黒石市	北山まみどり	岐阜県	喜多村正儀	可見市	板山まみ子	富田林市	山野 寿之	鳥取市	山下 凱柳	奈良県	渡辺 富子	羽曳野市	徳山みつこ	神戸市	奥澤洋次郎	三木市	山口ヨシエ	奈良県	長谷川崇明	和歌山市	柏原 夕胡	札幌市	小澤 淳	高槻市	片山かずお	寝屋川市	川本 信子	堺市	柿花 和夫	松江市	石橋 芳山	河内長野市	大島ともこ	東京都	川本真理子	三田市	堀 正和	弘前市	高瀬 霜石
-----	-------	-----	--------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	------	-----	-------	------	-------	----	-------	-----	-------	-------	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------

「閉じる」

(投句 226名)

小澤 淳選



名店街をシャッター街にしたコロナ
戦は早く閉じよは世の願ひ
パーゲンが一年続く店仕舞
一日を笑顔で閉じる缶ビール
思い出を閉じこめておくオルゴール
卒寿すぎ何時生涯を閉じようと
閉じ籠る心を叩く春の音
一言で閉じた心が軽くなる
閉校の桜今年も恙無く
パソコンを閉じて一日に蓋をする
会を閉じそれから長い裏話
閉じ込めた未練心が疼きだす
出身地開かれ浅蜷は殻を閉じ
哀しみが零れぬように閉める窓
目を閉じて沈黙考指を折る
三歳が生命を閉じた北の海
閉じる日が来るかもしれぬこの地球
戦争に心閉ざした子を思う
高齢化進み泣く泣く閉じる会
おいたした罰押し入れに閉じ込める

札幌市 三浦 強一
枚方市 谷 英也
大阪市 東 敏郎
黒石市 石澤はる子
黒石市 北山まみどり
寝屋川市 富山ルイ子
神戸市 みぎわはな
海南市 小谷 小雪
弘前市 稲見 則彦
東京都 川本真理子
越谷市 久保田千代
大阪市 岡田 恵子
池田市 奥園 敏昭
大阪市 平井美智子
鳥取市 山下 凱柳
東かがわ市 川崎ひかり
鳥取市 永原 昌鼓
河内長野市 穂口 正子
犬山市 金子美千代
西宮市 高橋千賀子

記憶力不安証言出来ません
目を閉じて桜吹雪の中に居る
閉じ込めた自慢が痒い喉仏
紫陽花にゲームセットを告げられる
閉じこめた愛がぐつぐつ煮えたぎる
守秘義務が真実の口貝にする
口閉じた産地偽証のアサリたち
幽閉の身ですコロナに囲まれて
故郷も遠くにおいて墓閉じる
カーテン揺れるそつと頁を閉じる風
シクラメン人生閉じた八年目
大阪のおばちゃん口をいつ閉じる

佳句

まぶた閉じふる里に父母よみがえる
すててこでオートロックに閉め出され
四島の交渉閉じる八つ当り
諫早湾閉じる施策の功罪は
パソコンを閉じて人間に戻ろう

鳥取市 福西 茶子
豊中市 松尾美智代
大阪市 小野 雅美
佐賀市 真島久美子
八王子市 川名 洋子
大阪市 石田 孝純
堺市 澤井 敏治
吹田市 西沢 司郎
宝塚市 丸山 孔一
大阪府 米澤 俣子
熊本市 杉野 羅天
豊中市 きとうこみつ

豊中市 水野 黒兔
堺市 坂上 淳司
横浜市 加藤 佳子
米子市 後藤美恵子
橿原市 居谷真理子

富山市 伴 よしお

河内長野市 木見谷孝代

弘前市 高瀬 霜石

人

地

天

軸

母さんを頼むと言って逝った父
エンディングノートに記すありがとう
正義漢でした静かなお弔い
侵略に終戦を読む専門家

「アレンジ」

(投句 223名)

坂本加代選



カレীগが旨い肉じゃがだったのは内緒
カラオケはどんな曲でも外れます
アレンジをする気で残す古着積む
流行は変化をつけて取り入れる
華道家の花の配置にある自信
おっちゃんのセンスが光る八百屋さん
デパ地下の料理が化けて夕の膳
ママのアレンジ気付かず食べた人参葉
幸せ度少し脚色クラス会
アベノマスクちよつとアレンジミニポーチ
声色を変えてセールスをかわず
子の嫉愛とムチとの匙加減
長い髪きりりまとめて夏仕様
孫が継ぎ老舗の味も現代風
次々と妻にアレンジされるボク
コディネート昨日は魔女で今日淑女 河内長野市
既製服アレンジをしてオリジナル 豊中市
おさげの娘今朝は編み込みリクエスト 大阪市
フォーマルに色留袖のワンピース 貝塚市
脚色を少し加えて弾む酒 奈良県

大東市 小川賀世子
大阪市 江島谷勝弘
鳥取県 山下 節子
和歌山市 柏原 夕胡
弘前市 稲見 則彦
権原市 居谷真理子
鳥取市 岸本 孝子
尾道市 村上 和子
八幡市 武田 悦寛
堺市 内藤 憲彦
黒石市 北山まみどり
明石市 桃谷 和郎
豊中市 きとうこみつ
神戸市 みぎわはな
箕岡市 藤井 智史
豊中市 坂野 澄子
大阪市 上出 修
大沢のり子
吉道あかね
渡辺 富子

アレンジをして婆ちゃんの阿弥陀経
道端の花を束ねて仏さま
ちよつと手を加えただけの花の向き
和洋中あなた好みになる卵
福神漬がカレーの味を引き立てる
お経にもアレンジがあり僧の癖
遠い記憶アレンジをする波まくら
演壇にアジサイ六月の会議
アレンジのどの花々も自己主張
根回しが終わるとおける天の声
五線譜を食み出す飲みすぎたマイク
おしゃべりをしましょう脳の活性化

佳句

脚色をして聖戦にしてみよう
アレンジをしつつ楽しむマイライフ
レトルトもアレンジ次第でシェフの味
編曲の魔法をかけたヒット曲
春をアレンジ 蕨筍豆ご飯

今治市 永井 松柏
横浜市 川島 良子
神戸市 松倉 正美
大阪市 古今堂蕉子
羽曳野市 徳山みつこ

大阪府 高杉 力

大阪府 平井美智子
鳥取市 福西 茶子
岡山市 丹下 凱夫
大阪市 小野 雅美
松山市 栗田 忠士
大阪市 津村志華子
堺市 澤井 敏治
高槻市 片山かずお
倉吉市 牧野 芳光
岐阜県 喜多村正儀
三原市 笹重 耕三
弘前市 高瀬 霜石

人

地

天

軸

シャンソンもどこか演歌の節回し
アレンジも少し加えて回顧録
まん中に座らせておく百合の花
盛り花を舞台装置にプラスワン

藤井寺市 鈴木いさお
三原市 鴨田 昭紀

初歩教室

題 — 強情

高瀬霜石

今これを書いているのが、5月の下旬。
これが活字になる7月。プーチンの虐殺
はまだ続いているのだろうか。

核攻撃もありうる——なんて、プーチン
がほのめかしていたけれども、まさかねえ。
「博士の異常な愛情」(1963年)とい
う古い映画をこ存じだろうか。監督・製作・
脚本は、鬼オスタンリー・キューブリック。
主演は、博士・大統領・軍人の3役を演
じた怪優、ビーター・セラーズ。

時は、冷戦の真つ只中。アメリカ空軍基
地司令官が突然、ソ連への水爆攻撃を命令
する。

ところが、ソ連は攻撃を受けると10カ月
以内に全世界を破壊させるシステムが自動
的に始動すると判明。両国首脳は、最悪の
事態を回避すべく必死の努力を続けるが、
水爆はついに投下されてしまう……。

「核戦争の恐怖に迫るブラック・コメディ
の傑作」が謳い文句だが、先日見直して、
背筋が凍った。機会があったら、是非ご覧
あれ。

①まずは、上と下を入れ替えてみる。

(▼は原句。▽が参考句)

▼強情な大根と綱引きをする 通則

面白けれど、素直過ぎ。上下入れ替える
と、読み手にはよりドラマチックに写る。

▽綱引きをする強情な大根と

▼退院後好き勝手してわがままも 開子
もうちょつとシンプルに。

▽好き勝手ばかりしている退院後

▼強情にしてしまうのは老いの不安 双葉
ン、リズムがねえ。上を重くして。

▽老いの不安がつい強情にしてしまう

②別な言葉に置き換えて、よりドラマチッ
クに仕立てる。

▼大国のエゴ押し通すトルネード 風鈴

トルネード(竜巻)よりは、素直に、

▼大国のエゴ押し通す独裁者

▼八十路半ばまだ白旗は上げません 風露

▼八十路半ばまだ白旗は上げません

▼もう少し従順になりたいわたし くみ子

リズムがイマイチ。ここは「わたし」を
取ってしまったとも思いは通じるので、取り
たい。

▽従順になりたいのですもう少し

▼強情つ張りホントはホント泣きたいの のりひろ

こつちの句は、逆に「わたし」を入れて、

より「わたし」を強調したい。

▽強情つ張りわたしホントは泣きたいの

▼相容れぬ夫婦揃って長期戦 智恵子

言いたいことはよく分かるが、夫婦だ
から「揃って」は不要。ここは、漠然と……。

▽相容れぬ夫婦の長い長い梅雨

▼意地を張る所詮この世のひまつぶし 澤良子

中七、下五がこの句の肝で、まさに、人

生を達観しているような小気味良さなのだ
が、いかんせん、上五との組み合わせがと
てもぎこちない。ここは、反対に、この方

が……。

▼意地捨てる所詮この世のひまつぶし

▼強情な親父湯めぐり自粛中 一平

ここは、シンプルに。

▼強情な父も湯めぐり自粛中

▼強情な僕も湯めぐり自粛中

③ありきたりの2句を、いいとこ取りで、
1句にまとめあげてみる。これも冒険。

川柳塔鑑賞

同人吟 牧野芳光

—6月号から

自肅中心は遙かバリ旅行

今井万紗子

コロナ禍での自肅。以前はどこに旅行したのだろうかと日記を開いてみる。もうすぐトンネルを抜ける事を願っている。

無事な日を畳みウクライナを思う

原田すみ子

戦火の続くウクライナを考えても、何も出来ないもどかしさを感じる。せめて出来る事といえば寄付くらいか。

アメリカより日本に近いのが不安

能勢利子

プーチンの独裁には困ったものだ。海ひとつ隔てただけでプーチンの国。第二次大戦を思い出してしまう。

生きてきた道に山椒のような悔い

古今堂蕉子

大なり小なり悔いほどなたにもあると思える。甘酸っぱいものや苦いものなどあるが、山椒くらいの悔いなら良い。

去るものは追わず真冬の地平線

酒井紀華

真冬の地平線とは、厳しくも近寄り難い存在か。離別する理由はどうあれ、己への覚悟も確と強いられる。

キラキラネーム残し無念の虐待児

梶原弘光

児童虐待の記事が載るたびに、子供さんのキラキラネームが哀れさを誘う。出生の時は幸せを願って命名されたのに。

ウソばかりついて閻魔に嫌われる

三好専平

嘘をつくと閻魔さんに舌を抜かれる。あまりの嘘の多さに閻魔さんも敬遠するとなると救いようがない。

いくつもの別れを抱いて菜花の黄

平井美智子

菜の花の黄色に出会う季節になると亡くなった人の思い出が蘇るのだろうか。亡くなった人から頂いた花も同様である。

遅咲きの桜もあると子に叱咤

奥村五月

春が来る度に開花する桜。次々に開花して私達を楽しませてくれる。一番先に咲いた桜が偉いのではない。

山葵抜きでみんなおんなじような顔

奥澤洋次郎

戦後の厳しさに揉まれた我々にとつては、近年甘やかされて育った子供は頼りなく見える。皆平凡な顔ばかりである。

四季の花 花それぞれに妻が居る

奥時雄

奥さんは花を育てておられたのでしようか。色んな花を見ると、それぞれに違った奥さんの表情が浮かぶのだから。

戦争を観ながら苺ひとバツク

斉尾くにこ

ウクライナでの戦が連日ニュースとなつて流れている。そんなニュースを眺めながら苺を平らげている幸せな時間。

コロナ禍も花は季節と共にある

山本三樹夫

コロナ禍に振り回され、人と会う事も旅行をする事も出来なくなつた。そんな世情にはおかまいなく花は開花する。

惚けてない老いにもあるぞ反抗期

藤塚 克三

老人の反抗期とは、少年のそれとは違って一過性のものではない。ある面では救いようのない反抗期かも知れない。

再生紙昔の罪を白くする

太田 昭

人間の犯した罪は無かつた事には出来ない。再生紙であればすべて無かつた事として真っ白になれるのに。

紫陽花に身の振り方を打診する

川本 信子

花の色が千変万化する紫陽花。その花に相談されたとしたら答は決まっている。「貴方の好きなようにしなさい」

いいもんだ丸い背中に丸い腰

敏森 廣光

老化する自分を開き直って肯定する。無駄に歳をとつたのではない自分の丸い背を褒めてやりたい。

独りがいいカップラーメン美味すぎる

穂谷 和郎

妻が居る時は、カップラーメンを食べると白い目をされる。妻の目がなければ手軽に食べられる万人向きの味も良い。

書く時は分かつて書いた走り文字

菊地 政勝

若い頃に挨拶の言葉を一語漏らさず走り書きをした事があった。読み返すと分からない字もあるが凝視すると分かる。

現金はダメという店老いの敵

住吉 美和子

カード決済が主流となっていくような時勢であり、若者の利用が増えていく。しかし、老人には現金が一番信用できる。

スイッチはいつも女房の側にある

寺川 はじむ

宣戦布告、停戦、終戦と主導権は妻が握っている。その方が家庭円満であるがテレビのスイッチだけは渡さない。

物忘れするがおしゃれは忘れない

石田 ひろ子

女性のおしゃれにかけける熱意はなみなみならぬものがある。しかし、男性は総じて単純で、マスクをすれば髭が隠れる。

ご祝辞は以下同文でやってくれ

寺本 実

長々とした中味のない祝辞には閉口する。特に酒やご馳走を目の前にした席であれば、挨拶はいい加減にしてほしい。

お引越越し隣次第で変わる運

小野 雅美

お隣との付き合いは避けて通れないものである。お互いに親しいつきあいが出来れば最高である。

人の出入り減って汚れが目立つ家

山田 葉子

お客さんが来られる前には大急ぎで掃除をするのが通常の私にとって、来客が無ければ散らかり放題になっている。

長生きをしても退屈してません

高杉 千歩

趣味で忙しかったり、家族の心配事があつたりでのんびりする間のない人生。楽しい事で忙しいのは最高の人生。

悲しくてついおしゃべりをしてしまふ

廣田 和織

悲しい時は塞ぎがちになりそうであるが、打破をするためには親しい人とおしゃべりをするのが一番良い。

影法師だけは私を裏切らず

吉村 久仁雄

季節や時間によって影法師は伸び縮みするが、まさに自分の影である。影法師にまで悲しい思いをさせたくない。

水煙抄鑑賞

—6月号から

栃尾奏子

捨て台詞ちゃんと拾っておきました

真島久美子

あなたというお人柄を心に刻み、そして忘れないように。願わくば二度と関わりたくありませんが再び出会うことあればカウンターを入れる準備として。

友達はみんなミックスベジタブル

兼崎徳子

皆の要領の良さを少し羨みつつ、私は一色だし形も悪いけれど無農薬、味なら負けないわと胸を張ろうではないか。

僕の罪背負い消しゴム丸くなる

吾郷天遊

どうして祖父母はいつも優しいのか。疑問だったがきつと、人生の中でたくさんの人に許してもらい、庇ってもらって丸くまあるくなつたのだ。あの時はありがとう。次は私が消しゴムになる番だ。

子の玉を打つか打たぬか見逃すか

大前安子

ああ、親って何て難しいんだろうか。三振をして自信を。ホームランで試練を。いやいや見逃して先送り…そんな毎日在必死に過ごすうちに君は大人になった。

口ばかり達者な患者でさあがり

樋口真

やれヘルパーさんの掃除が行き届かない。飯が不味い。嫁が働いていて、して欲しい時にしてもらえない。散々プリプリしていた義母が口数少なくなつて私に「ゴメン」と言つた。初めて介護で泣いた。皆さん文句は元気です。じゃんじゃん文句を言って長生きして下さい。

仕事へのヒント探しに百均へ

新阜義明

百均で買ったスミレも爆き出す

岡田恵子

わかる。と思わず二句。こんな便利なモンがあつたんかいな!!と何度感激したか。あと、花つて高いのは苗になるまで手間がかかっているから。案外百均の花の方が雑草寄りで強くたくましい。素晴らしき百均。最初に考えた人偉い。

トレーナーの苛めみたいなストレッチ

松田蟻日路

わかっていきます。プログラムの一環と。ギャー。背骨折れそう。…あなた、ずい分と楽しそう。まさか私でストレス発散してないでしょうね…。

母子手帳昨日の様な遠い過去

尾畑なを江

入学式お日様出たり隠れたり

郷田みや

千の母に万の愛の記憶。陣痛四十八時間。はじめて喋つた言葉は「パン」でした。ランドセルが重すぎて真つ直ぐに歩けず、反抗期には私をオカンと呼びましたね。家出はする、朝帰りはする…。でも今日孫のメッセージカードと共に届いた花は私の一生の思い出になりそうです。

休耕のたんぼは何時も上を向く

高橋由紀女

見られていても、そうでなくても私はワタシ。誇りを持って凛と美しく。

ぎりぎりまで信じた底の無いカップ

中前幸子

溢れんばかりの愛はどこへ。私は信じる事で貴男を愛したかったのでしょうか。



野菜いろいろ (3)

本項の(1)(2)では、家庭で親しまれている野菜の中で、「キャベツ」「筍」「エンドウ豆」「大根」「カボチャ」そして「さつまいも」を賞味してきました。この(3)では「ネギ」「茄子」「レタス」を味わいます。八百屋やマーケットにはまだまだ沢山の野菜が出ていますが、それを詠った句がまとまるまで、ひとまずこの項目は終えたいと思います。

ペランダの葱が我が家の緑地帯
 味噌汁に葱たっぷり入れて朝
 葱一本買つてうどんの鍋にする
 万能で脇役という凄いなネギ
 すき焼きはまかせなさいとネギを切る
 マイカーの葱の臭いが消えませぬ

葱は紀元前二百年頃には中国で栽培されていた記録があり、我が国では奈良時代に渡来したとのこと。

葱の種類も沢山ありますが、いずれも作りやすいのでプラントナーに根っ子を差しておくだけで、うどんや味噌汁等々に便利に使えます。また、うどん屋では「きざみ葱」を自由に取れる店があります。数年前、若い男性がうどんが隠れるほど丼に山盛りにしたのを見てビックリしました。よほど葱好きだったのでしょうか。「いくら食べ放題でも常識を弁えろ！」と言いたくなりましたが、もちろん言いませんでした。

自給率対策庭のナス胡瓜

今日採るか明日にするか初ナスピ
 僕に似て茄子も胡瓜もみな曲がる
 瘦せナスピ朝餉の友となりおおせ
 秋ナスの色も形もしららしい

貧乏は身軽茄子の浅漬けだけでよい
 茄子の花 少子化はまだ続くのか

茄子も中国から伝わって、奈良時代には食卓に上がっていたようです。ただ、子どもが嫌う野菜の中でもトップクラスというのは茄子にとっても残念なことでしょう。その原因は、フニャフニャとした触感と皮の歯ごたえという異質な組み合わせに加えて、子どもには理解できない不可解な味。逆に言えば「茄子の味が分かってきたらオトナ」です。

霰降るレタスに穴をあけながら
 ブライドをはがすレタスの葉のように
 レタス剥く若い自分が見えるまで
 レタスバリバリ風評を噛み砕く
 レタスから剥かれる嘘が心地好い
 工場で生産されたレタスです
 工場と書かぬレタスの生産地

レタスの和名は高苣(チシヤ)。子どもの頃には「レタス」など聞いたことがない人でも「チシヤ」は食べているでしょう。あのシャキシャキした歯触りはいかにも「身体にいい新鮮な野菜を食べている!」という感じがします。また、赤色LEDを使って工場で生産されるレタスは畑作より4倍も成長が早く、海外からも注目されているとのこと。

上嶋 幸雀
 中井 美枝
 岸本 宏章
 杉野 羅天
 岡田 史郎
 宮崎シマ子
 牧野 芳光

高島 啓子
 後藤 育弘
 石田ひろ子
 福本 清美
 惠利 菊江
 野口 末次
 根本与志子



(投句198名)

規制や変更はあるにしても、夏祭りや花火大会があちこちで再開され、少しずつコロナ前に戻っているようです。

一方で、この原稿を書いている段階では未だロシアのウクライナ侵攻は激しいままなのに、日々テレビから流される瓦礫と化した街の映像に見慣れてゆく自分にやり切れなさを覚えます。

そのような中でも、またコロナ禍であっても川柳の句会や大会が開催されると、参加出来る出来ないにかかわらず、喜ばずにはいられません。平和の有り難さが身に染みました。

では、ナビを。

いい夢を見ましよういい酒を飲んで(評) その通り、でございます。所詮短い人生なら楽しまなくっちゃあ、ところで今夜は何を飲みますの？

どうしても枕の位置が決まらない

熊本市 杉野 羅天

弘前市 高瀬 霜石

(評) 枕は例えとして、ありますよねえこんな時。何か知らないけどしっくりこない、まずは深呼吸でもしますか。

下地より眠りて変わる化粧ノリ(評) ホント、睡眠って大事。お化粧もそうだけど、声の艶だつて寝不足では無くなるんですけど。

わたくしの枕に雨期が訪れる(評) これって、夜な夜な涙で枕を濡らしているのかしら。早く雨期から抜けて晴天が来るように祈っていますヨ。

せめてもと長風呂をする値上げ分(評) 値上げ値上げでも、庶民には太刀打ちする術がありません。くれぐれも湯あたりなさいますせぬように。

どこでも直ぐ眠れます特技です(評) 枕が変わると眠れないと言う人に言っておいて下さい。何が起きるか分からない世の中、生きていけませんよー！

いつの日か打ち出の小槌握りたい(評) ひと振り目はアレ、ふた振り目でコレ、ああ、想像するだけで人生にバラ色の光が差してきました。

枕投げ六十年も前のこと

藤井幸市 太田扶美代
三田市 堀 正和
松山市 郷田 みや
松山市 丸山 孔一
宝塚市 丸山 孔一
朝霞市 前田 洋子

(評) 男子がやっているのを見て、女子もやりました。六十年もあれから経ってしまったなんて嘘でしょう。

靴底の減り方いつも同じだよ(評) 歩く時の癖は自分では気付かないものです。今はそれで身体の歪みなんか分るそう、コワイですねえ。

泣かないって言うから泣かせてみせる(評) アナタは秀吉さんですか？でも、今の時代ならイジメになりそう。くれぐれもお手柔らかにお願いします！

血圧が診察室で高くなる(評) 罪悪感ないスイーツはないかしらねむそうな人は幸せ臈ろ月

あの月の中から君のオルゴール(評) 音痴でも仲間ですよとコーラス部

そば殻の枕で夢を見た昭和(評) ひとりだけ紅茶頼んで孤立感

浮気した夢を覚えているわたし(評) 憂鬱は枕カバーの加齢臭

丹波篠山市 澤 良子
松山市 大内せつ子
松山市 金子美千代
大山市 金美千代
大阪府 高木 道子
米子市 八木 千代
鳥取市 奥田 由美
豊中市 水野 黒兎
明石市 瀬島流れ星
三原市 笹重 耕三
佐賀県 真島久美子

枚方市 栃尾 奏子
消しゴムを貸してもらった日のほか

宝塚市 岸田 万彩
春眠に付き合えず過ぎて疲れ果て

神戸市 上田 和宏
食卓におむすびだけが置いてある

奈良市 山本 昌代
軽やかな目覚め空気も馨しい

三原市 鴨田 昭紀
こっそりと妻にスマホをチェックされ

西宮市 亀岡 哲子
タワーマンションゆらりゆらりと震度七

尾道市 村上 和子
脳みそが軽くなったと言う枕

箕面市 酒井 紀華
太っ腹かあちやんドンと大丈夫

豊中市 きとうこみつ
出たおいで誰がビスコを食べたんだ

大阪市 宇都満知子
夏が来るのにウエストが見当たらない

和歌山市 柏原 夕胡
小銭しか入れぬ財布のストライキ

生駒市 飛永ふりこ
ふわふわの枕迷いも払拭す

交野市 山野 双葉
熱の日はおねだりできるすりリンゴ

大阪市 江島谷勝弘
ぐっすり眠りたいだろウクライナ

松江市 石橋 芳山
異次元の穴かパンツの穴なのか

神戸市 みぎわはな
妻の寝言呼んだ名前はオレじゃない

横浜市 居谷真理子
枕まで持って忘れたバスポート

藤井寺市 鴨谷瑠美子
白はやさしい色だと思っ抱き枕

大阪市 井丸 昌紀
三角のおにぎり食べたかったのに

尼崎市 近兼 敦子
どきません ここは大事な指定席

笠岡市 藤井 智史
失恋の傷は消しゴムでは消せぬ

黒石市 北山まみどり
一粒のダイヤを入れておく枕

箕面市 出口セツ子
もう晩か酔生夢死のうちに過ぎ

大阪市 小野 雅美
話したくなるまで待つてあげるから

神戸市 富永 恭子
セルフですお気遣いなくこゆつくり

鳥取県 斉尾くにこ
鬼退治すませゆるりと二度寝する

青森県 月波 与生
寝不足で中途半端な恋でした

東京都 川本真理子
昨晚の続きがあれば聞きましょう

貝塚市 石田ひろ子
夢詰めた鞆と始発駅に立つ

奈良市 大久保真澄
小麦粉値上げ二割方瘦せたパン

大洲市 花岡 順子
ストレスが溜まる横にでもなろう

弘前市 福士 慕情
安眠は母手作りのソバ枕

沖繩県 宮 すみれ
うでまくらなんとひびきの良い言葉

河内長野市 大島ともこ
眠れない夜のあんパン甘過ぎる

枚方市 藤田 武人
振り上げた拳なかなか下ろせない

香芝市 山下じゅん子
夜が来て眠れることに感謝する

羽曳野市 徳山みつこ
枕高こうして百態の眠り

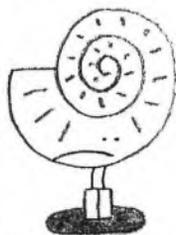
今治市 永井 松柏
深い訳あつて羊が眠らない

堺市 坂上 淳司
叩いたら鳴った真空管ラジオ

鳥取市 倉益 一瑠
トトロにも母にも逢えるいい眠り

大阪市 若本 安代
うっかりと秘密をしゃべり不眠症

9月号発表 (7月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳箒に2句

二〇二二年（令和四年）

四月本社誌上旬会

投句者182人

兼題「買　う」

中村　惠　選

新のつく野菜を買って春の籠

東京 川本真理子

時どきは自分を褒めて花を買う

大阪 石田ひろ子

妹は買ってもらったお人形

大阪 島田　明美

金銭で買えないものもあるのです

広島 小川　道子

くじけない空の青さを買いますよ

鳥取 大前　安子

明日のため夕焼雲を買っておく

兵庫 野口真桜子

買溜めが災害恐怖募らせる

兵庫 福田　正彦

ロシアが売った喧嘩を世界中が買う

大阪 村上　玄也

耕運機錆び付き米を買う案山子

広島 笹重　耕三

茄子スイカ夏の夢買う苗売り場

兵庫 奥澤洋次郎

いかなごの高値くぎ煮の春遠し

大阪 古今堂蕉子

つい買ってしまいうタマゴの多いこと

大阪 青木　隆一

半額を買っていつもの自己嫌悪

大阪 森田　旅人

割引のシールあるから神戸牛

大阪 藤田　武人

ひよつとしてひよつとするから買う馬券

兵庫 永田　紀恵

栄転に夢ふくらませ買う切符

兵庫 稲角　優子

人生の節目新調する背広

兵庫 吉村めぐみ

四六時中ダンスの出来る靴を買う

兵庫 生田　頼夫

口紅を買って鏡に見せただけ

大阪 小野　雅美

つい買った便利グッズに手こずって

大阪 青木ゆきみ

星一個買って来ました宇宙旅

愛媛 黒田　茂代

コンビニのトイレを借りて鮎を買う

大阪 宇都満知子

買うつもりないがぶらりと古本屋

大阪 長尾　千賀

カーネーション買って一日の温かさ

兵庫 江尻　房子

若者の気っ風を買って町興し

鳥取 大羽　雄大

ひとの嫌がる仕事を買って出た無口

大阪 米澤　俣子

世話やきが過ぎて反感買う長女

兵庫 富永　恭子

売り言葉買ってしまった不眠症

和歌山 木本　朱夏

春風につられて買った勝負服

大阪 岡田　恵子

お見合いで先物買いをしてあなた
断捨離のあと爆買いをしてしまう

大阪 長高　俊雄
兵庫 上野多恵子

税金で買つてはならぬ核兵器

スカウトが素材求めて甲子園

買ったがる虫をなだめて通り過ぎ

目が合えば勝つて行けよと言う子犬

持つてること忘れて買った歎異抄

忘れもの市ですぐに忘れる傘を買う

いちちごっこ断捨離中にテレシヨップ

欲が減り買う気もやはり萎えてくる

買うまでが楽しい買えばほったらかし

ゴミ捨てるためにまた買うゴミ袋

半額のシール貼るまでじつと待つ

一人一個へ総動員の家族

惣菜を買う抵抗はとうに無い

買う時はまず百均へ行つてみる

バーゲンは意地と根性でまず掴む

買えるなら買うよ若さの充電器

子も必死おもちの前の根比べ

勉強をする約束で買うゲーム

買いました象より重い心意気

大阪 平松かすみ

兵庫 尾畑 操

鳥取 伊塚美枝子

岡山 工藤千代子

大阪 澤井 敏治

大阪 きとうこみつ

大阪 齋藤奈津子

奈良 飛永ふりこ

鳥取 山本ふみ子

奈良 居谷真理子

大阪 鈴木 栄子

大阪 油谷 克己

大阪 原田すみ子

奈良 高橋 敬子

大阪 大島ともこ

大阪 松田蟻日路

兵庫 梶谷 和郎

兵庫 山田 耕治

石川 堀本のりひろ

君と居る時間を買ったソーダ水

命買ういつかそんな日来るようだ

佳句

私が枯れないように買うヴィトン

満月と語らいたくて酒を買う

春うらら内緒ひとつをまた買って

ペアカップ買って夕焼け色の恋

沢山の愛を丸ごと買い占める

人

そのケンカ値引きするなら買ってやる

地

新車ですローン満載して走る

天

花を買う優しいひとになるために

軸

ペンを買う書きたいことがまだあって

兼題「語る」

捨てるクツ歩んだ道を語り出す

大阪 田中ゆみ子

鳥取 田中紀美恵

大阪 栃尾 奏子

大阪 山野 寿之

大阪 小川賀世子

大阪 平井美智子

岡山 藤井 智史

大阪 水野 黒兎

大阪 太田扶美代

兵庫 上田ひとみ

兵庫 上田ひとみ

奈良 山下じゅん子

大声の癖植えつけたデイスタンス	兵庫 岸田 万彩	嘘は駄目と語った父のGPS	奈良 高橋 敬子
こっそりと語る老母に耳をかす	兵庫 吉村めぐみ	語るほどこの世に遺すもの持たず	大阪 太田 省三
実直を語るおやじの作業服	大阪 川本 信子	割り込んであれこれ語る半可通	兵庫 瀬島流れ星
反核を静かに語る小百合さん	大阪 坂上 淳司	胸の内隠さず語り手術室	兵庫 横田 次郎
ちよつと盛り自分を語る心地好き	大阪 穂口 正子	セーラーの語り部健気被爆の地	大阪 内田志津子
タンポポと身の上ばなしする土筆	兵庫 生田 頼夫	貴方との出会い語れば私小説	奈良 中堀 優
廃屋の栄華を語る鬼瓦	愛媛 安野かか志	ほどの良い昔話を受けている	大阪 平井美智子
饒舌の義母に耳かす昼下り	兵庫 幸田 厚子	石仏に來し方語る野辺の午後	大阪 松田蟻日路
壁のシミ一つひとつにあるロマン	大阪 伏見 雅明	しっかりと語る百歳聞く五歳	奈良 山本 昌代
温めておこう必ず語れる機会 <small>とき</small> がくる	大阪 藤村 亜成	断捨離は品と語らぬ事がコツ	大阪 青木ゆきみ
遺品が語る母の質素な暮らし向き	兵庫 奥澤洋次郎	語り合う友はおひとり様同士	大阪 酒井 紀華
それからなあと続くおばちゃんのお話	大阪 片山かずお	悲しみを微笑みながら語る癖	大阪 島田 明美
牛の目が語るもうすぐ肉になる	大阪 谷口 東風	母の歳越えて似てきた語り口	大阪 米澤 俣子
婆ちゃんの昔話は厚化粧	広島 小川 道子	沈黙の臓器に余命語らせず	奈良 宇賀 史郎
そんな日もあるさと語る苦勞人	徳島 小畑 定弘	生い立ち語る麒麟の首と象の鼻	島根 中筋 弘充
そもそもは語れぬものだ詩にする	大阪 西村 哲夫	分身のわたしと語る写真帳	和歌山 木本 朱夏
語り口亡母に似てきたなど言われ	大阪 きとうこみつ	明日の夢素直に語る伸び盛り	大阪 初代 正彦
調子づき語るに落ちた鬼の舌	大阪 村上 玄也	ロシア語を学んで広島を語る	大阪 藤田 武人
飲まずして語り明かせる友が居る	岡山 大杉 敏夫	映像は語る理不尽な侵攻	大阪 山本希久子

戦争の語り部ですか不発弾

兵庫 山田 耕治

人

語り部の訛りじんわり温かい

大阪 大島ともこ

栄枯盛衰語る生家の鬼瓦

大阪 小川賀世子

語り継ぐヒロシマ百歳のバトン

大阪 田中ゆみ子

地

語り部が減ると怖さも薄らいで

大阪 松岡 篤

露の世の残りを語る老い二人

大阪 富田 保子

戦後を語る桃よりも芋のこと

兵庫 緒方美津子

天

はや八十路戦争の愚を語らねば

大阪 柿花 和夫

全身で今日を報告する園児

兵庫 萩原 狸月

語り部の夏ヒロシマ忌ナガサキ忌

大阪 山野 寿之

軸

ばあちゃんの知恵袋にはシャツポ脱ぐ

青森 稲見 則彦

前向きにもう人間を語れない

片山かずお 選

まだ生きていたかと肩を叩きあう

青森 高瀬 霜石

兼題「エネルギー」

片山かずお 選

好意的に語れば寄ってくれる耳

大阪 藤原 大子

少子化で細る邦家のエネルギー

大阪 長高 俊雄

百歳が語る倫理の正誤表

広島 松尾 信彦

お日さまと大地にもらうエネルギー

大阪 澤井 敏治

またねとだけ長い別れにならぬよう

京都 山田 葉子

ミサイルに費やす無駄なエネルギー

兵庫 松倉 正美

語るほど心が零れ落ちていく

大阪 中村 恵

戦争で虚しく消えるエネルギー

鳥取 新家 完司

佳句

校長は訥弁でした沁みました

佐賀 仁部 四郎

スカートがひらひら春のエネルギー

大阪 廣田 和織

つつましく咲いて苦勞は語らない

兵庫 稲角 優子

エネルギー年金日には盛り返す

鳥取 山下 凱柳

邪心ない花と語って心澄む

兵庫 福田 正彦

十分の昼寝が午後を活気づけ

大阪 太田 省三

家族の和語る時間を惜しまない

鳥取 大前 安子

まっすぐに伸びる力を陽にもらう

奈良 居谷真理子

陽と語る風とも語る裸の子

兵庫 梶谷 和郎

省エネで少しは防ぐ温暖化

和歌山 佐藤 まき

太陽と水と風とが手を結ぶ	大阪	吉村久仁雄	知らなんだ眠る食べるに在る力	大阪	穂口 正子
たんぽぽに力をもらう八千歩	大阪	松尾美智代	納豆の粘りわたしのエネルギー	大阪	太田扶美代
とびつきり笑顔が作るエネルギー	和歌山	倉橋 悦子	喋る食べる止まらぬ妻のエネルギー	大阪	田中ゆみ子
エネルギーに替える声援背に受ける	鳥取	伊塚美枝子	新人からもらうピチピチエネルギー	愛知	小松くみ子
誉め言葉活力にして前を向く	大阪	藤原 大子	若い血が漲っているチアガール	愛媛	黒田 茂代
ありがとう その一言がエネルギー	大阪	内藤 憲彦	溢れだす子のエネルギー底知れず	大阪	青木ゆきみ
原発の在り方を問う原油高	愛媛	安野かか志	あやかってみたい赤子のエネルギー	和歌山	柏原 夕胡
分つてはいるがやっぱり原子力	鳥取	竹村紀の治	エネルギー切れた子どもはよく眠る	大阪	宇都満知子
土壇場になれば湧き出るエネルギー	兵庫	永田 紀恵	若竹の地を突きあげるエネルギー	岡山	大石 洋子
目標を持つと湧き出るエネルギー	大阪	鈴木 栄子	子らが寄り笑い転げるエネルギー	奈良	山本 昌代
ゴルフなら急に力が湧いてくる	大阪	伏見 雅明	エネルギー発散させるペンライト	大阪	津守 柳伸
充電のレベルが分かる休み明け	奈良	加藤江里子	青春の尽きることなきエネルギー	大阪	山野 寿之
見るだけで仕事はかどる子の寝顔	兵庫	斎藤 隆浩	老人を支える昔の肩書き	奈良	大久保眞澄
子に夢を託し全霊注ぐ母	奈良	高橋 敬子	民主主義数は力という驕り	奈良	長谷川崇明
命産む女が秘めたエネルギー	大阪	中村 恵	煩惱が今日も私を走らせる	大阪	石田 孝純
バラ五輪エネルギーギッシュを見せてくれ	兵庫	北野 哲男	チラシ見てあちこち走るエネルギー	大阪	平松かすみ
力湧く瑞穂の国に米のあり	兵庫	緒方美津子	噂話になると頭が回り出す	大阪	大島ともこ
ご飯食日本人のエネルギー	兵庫	山端なつみ	駅裏で注ぎ足す明日のエネルギー	大阪	平井美智子
米食べるやっぱり日本人だから	青森	稲見 則彦	乾杯のジョッキに貰うエネルギー	大阪	初代 正彦

エネルギー切れて寝付けぬ休肝日
遊ぶ活力まだ残してゐる米寿

大阪 井丸 昌紀
大阪 山本希久子

兼題「つるつる」

水野 黒兔 選

恋をするエネルギーなお持っている

大阪 きとうこみつ

夢食べて明日への力溜めている

兵庫 宗 和夫

ふつふつと滾るものありまだ傘寿

大阪 小川賀世子

佳句

エネルギー給油してまず長電話

岡山 工藤千代子

お世辞でもオワカイデスがエネルギー

兵庫 みぎわはな

晩酌を活力源と憚らず

宮城 木田比呂朗

コロナ禍に耐える暖簾のエネルギー

大阪 柿花 和夫

悔いは無い恋に使ったエネルギー

大阪 松岡 篤

人

母の愛乳房に満ちるエネルギー

大阪 原田すみ子

地

活力の一翼担う一行詩

兵庫 糍谷 和郎

天

ニンゲンが持つには重い原子力

兵庫 上田 和宏

軸

妻や子の笑顔を生きる糧とする

見え見えの嘘喉仏からするり
つるつると嘘が上手なゆでたまご
つるつると啜る素麺夏は来ぬ
老い二人居てつるつるとなる手摺り
つるつるの手摺りはりハビリの成果
流し麺のようにドラマの謎が解け
つるつるのお顔こころは読みにくい
酔い醒めに水でしめた蕎麦すすす
泥パツクの顔笑い合う別府の湯
美に目ざめこの冬かかどがつるつる
コマーシヤル肌つるつるに揺れる妻
一皮むけば美肌が光るゆで卵
化粧乘りいい日はわたし鳥になる
蕎麦すすす音も嫌だと受験生
四回転無理か凍った水溜まり
つるつると蜘蛛が軒先降りてくる
喉越しのそうめん夏の風物詩

和歌山 柏原 夕胡

見え見えの嘘喉仏からするり
つるつると嘘が上手なゆでたまご
つるつると啜る素麺夏は来ぬ
老い二人居てつるつるとなる手摺り
つるつるの手摺りはりハビリの成果
流し麺のようにドラマの謎が解け
つるつるのお顔こころは読みにくい
酔い醒めに水でしめた蕎麦すすす
泥パツクの顔笑い合う別府の湯
美に目ざめこの冬かかどがつるつる
コマーシヤル肌つるつるに揺れる妻
一皮むけば美肌が光るゆで卵
化粧乘りいい日はわたし鳥になる
蕎麦すすす音も嫌だと受験生
四回転無理か凍った水溜まり
つるつると蜘蛛が軒先降りてくる
喉越しのそうめん夏の風物詩

大阪 小野 雅美
大阪 栃尾 奏子
岡山 大杉 敏夫
鳥取 山本ふみ子
大阪 岡田 恵子
兵庫 上田 和宏
鳥取 大羽 雄大
大阪 内田志津子
大阪 吉村久仁雄
兵庫 住吉美和子
宮城 木田比呂朗
京都 清水 英旺
埼玉 久保田千代
大阪 坂上 淳司
大阪 松田蟻日路
鳥取 池澤 大鯨

つるつると喉越しだけの平和論

大阪 平井美智子

記録より着地を祈るラージヒル

兵庫 山田 耕治

つるつるに磨く少年のアンビシヤス

大阪 太田 昭

過去帳の最長老へあと少し

兵庫 北野 哲男

うどんつるつる転勤は北の果て

大阪 小川賀世子

捨てようか隠しておくか日記帳
忘れるなここは瓦礫の山だった

大阪 島田 明美

人

つるつるがしわしわ生き切った証

兵庫 山端なつみ

記録するらしい会話は慎重に
温暖化年々早くなる開花

広島 羽城 裕子

地

つるつると朝が転がるゆで卵

兵庫 横田 次郎

新記録狙い続けている稽古
新記録狙ってクラブ買い替えた

大阪 坂 裕之

天

駅中のうどんまたたく間の戦士

大阪 山野 寿之

一万句入選めざしあと五百
数えるとすぐに失敗二重跳び

大阪 江島谷勝弘

軸

欧米人に食べ方指南するうどん

大阪 山野 寿之

ヒラメキをメモる楽しい趣味ひとつ
淡々と明日への道がまだ続く

山口 坂本 加代

兼題「記 録」

小島 蘭幸 選

丹念に歴史学べば見えて来る
プーチンは地獄とメモる閻魔帳

鳥取 門村 幸子

御都合で記録黒塗り公文書

大阪 川本 信子

神様のくれる記録がまた伸びる
自己記録更新目指す子にエール

大阪 油谷 克己

メダルとは無縁ねらいは自己ベスト

大阪 吉村久仁雄

物忘れ記録魔になり立ち向かう
老夫婦で病歴ゼロという記録

奈良 宇賀 史郎

記録と記憶ともに眩しい二刀流

大阪 大島ともこ

胸に抱くあなたを産んだ日の記録

大阪 藤原 大子

日本新だして予選を通過せず

大阪 伏見 雅明

老婦で病歴ゼロという記録

大阪 松岡 篤

有り難や母を看取れた介護録

大阪 今井万紗子

胸に抱くあなたを産んだ日の記録

大阪 平井美智子

一行の日記で終る家籠り

大阪 水野 黒兎

優勝のスコアは今もある海馬

兵庫 萩原 狸月

会心の一句遺した友の句碑

徳島 小畑 定弘

履歴書に賞罰なしと書く無念

兵庫 村田 博

広告の裏に残った亡母のメモ

大阪 岡田 恵子

立たされた記録誰にも負けません

大阪 森田 旅人

ライバルの記録をバネにして伸びる

大阪 藤井 則彦

金銀銅に届かないけど日本新

大阪 齋藤奈津子

終戦の「終」を守っている平和

兵庫 上田 和宏

いいじゃない敗けにもあるよ新記録

兵庫 奥澤洋次郎

じいちゃん大すきとはじめての手紙

兵庫 上野多恵子

絵葉書を自分に出して旅記録

大阪 平賀 国和

百五歳母は記録を更新中

兵庫 江尻 房子

日記にも残してならぬあなたの名

大阪 小野 雅美

さながら神の目ドライレコーダー

大阪 初代 正彦

佳句

発酵を続ける若い日の記録

大阪 廣田 和織

鎮魂の記事が小さくなる神戸

大阪 太田 省三

日記の隅 今日 of 感染者数書く

大阪 山本希久子

三回目の接種記録を持ち歩く

高根 中筋 弘充

記憶にはないが記録にある賄賂

大阪 村上 玄也

壁の疵夫婦喧嘩のモニュメント

兵庫 敏森 廣光

勇ましくも切ない亡父の従軍記

兵庫 糺谷 和郎

マーガレットの花びらに記録する初恋

岡山 大石 洋子

婚活の日本記録は十二年

岡山 藤井 智史

ブーチンの所業楷書で書き残す

和歌山 木本 朱夏

反抗期の吾子に見せたい母子手帳

大阪 柿花 和夫

坦々と翔平がゆくけもの道

大阪 井丸 昌紀

過去帳の104歳は破れまい

大阪 原田すみ子

50年前の日記は弾んでた

大阪 谷口 東風

病臥筆録子規の残したものの数多

愛媛 黒田 茂代

日記帳「恋」という字は見当たらず

大阪 東 敬朗

大水の記録残っている鳥居

大阪 澤井 敏治

原油高へ記録づくめの雪が降る

愛媛 安野かか志

自己記録更新年齢に勝った

奈良 居谷真理子

川柳をみればあなたが分かれます

大阪 穂口 正子

炎立つ今の私を書きとめる

大阪 中村 恵

句帳ひらくと自分史になっていた

軸

主幹・理事長の選任について

川柳塔社

今年の主幹・理事長の改選年に当たります。

立候補者は下記の「主幹・理事長の選任に関する規則」に基づき期間内に事務所（06-6779-3490）へ申し出て下さい。

総務部

主幹・理事長の選任に関する規則

- 1 主幹・理事長を選任するための投票は、すべての代表役員・執行役員と相談役および参与によって行う。ただし、会計監査は投票に参加せず、選挙を管理して投票結果を常任理事会に報告する。なお、主幹・理事長の選任に関する事務は総務部で担当する。
- 2 主幹・理事長を選任するための投票は2年ごとを原則とする。ただし立候補者が一人の場合には選挙は行わず無投票にて選任する。
- 3 主幹・理事長が退任（定年を含む）する場合において後任の立候補者がいない場合には、主幹、理事長、副主幹、副理事長が協議の上、次期候補者を推薦する。
- 4 複数の立候補者がある場合には選挙により決定することとし、最高得票者を当選者とする。
- 5 主幹・理事長の立候補資格は、同人歴10年以上の者とし、同人15名以上の推薦を得た者、または現任主幹、理事長、副主幹、副理事長協議の上推薦を得た者とする。
- 6 立候補の受付は、7月1日から10日までに川柳塔社事務所総務部宛て必着とし、投票は7月中に所定の用紙によって行う。
- 7 この規則は、平成23年7月7日から実施する。
この規則の改廃は、常任理事会の決定によらなければならない。

本社 六月句会

◇六月六日(月)午後一時
アウイーナ大阪

あいにくの雨の六日(月)、六月本社句会は、一―三名(うち投句者一六名)の参加で開催された。初出席は大阪市の近藤風羅さん、柏原市の神崎江さん、交野市の山野双葉さん、豊中市の松田蟻日路さん、伊丹市の田吹宋鉄さん、生駒市の稲葉良岩さんの六名の方々。

句会に先立ち、過日亡くなられた奥田みつ子さん、内海幸生さん、山東日出夫さん、上山堅坊さんの四名の方々に黙持を捧げた。

今月のお話は新家完司理事長。題は「新しい生活様式」。この二年間、これまでに経験したことがない大きな変革にさらされた私達は、考え方を変え、自分を変え、生き方を変える必要に迫られているようだ。独りを楽しみ、楽天的に、スローライフで、大きくは地球環境のためにもエコライフを目指そうではありませんか。と、うなずけるお話を楽しく

聞かせていただいた。

月間賞は北野哲男さん(三田市)

(司会―理子・隆彦)(協取―勝弘・志津子)

(受付―ふりこ・美智子)(懸垂幕墨書―耕治)

(清記―憲彦・勝弘)

(眞澄)

席題「餌」 鈴木いさお 選

ヨットの餌でよくぞ続いた堀江さん 藤井 則彦
餌代がまかない切れぬ物価高 奥澤洋次郎
どんな餌まけばプーチン黙るのか きとうこみつ
天然ガス餌に制裁軽くさせ 平賀 国和
序盤戦餌まきすぎのタイガース 敏森 廣光
三百万あればころがる議員さん 江島谷勝弘
格好の餌食にされた交付金 森松まつお
ひつかかる奴がいるから餌を時く 鈴木 栄子
犬猫ウサギ餌代の為パート行く 山下じゅん子
私の餌食になつたうちの 人 古今堂蕉子
キャットフード焼酎のアテに良い 新家 完司
こつそりと撒き餌している更衣室 柿花 和夫
鹿のフン鹿せんべいでできていて きたこうみつ
節操がなくて餌付けをされている 八木 幸彦
誰よりも食費のかかるお犬様 神崎 江
餌にありつくためにやり切るピエロ役 片山かずお
寂しさをまぎらすために鳩に餌 坂 裕之
父さんの疑似餌は鮎にバカにされ 緒方美津子

昼ごはん抜いてもあげる犬の餌

どさくさにまぎれて値上げ鯉の餌

水槽を音たて餌をねだる亀

餌食にはなつてたまるかカメレオン

大物が疑似餌にがつつりと掛かる

柿みかん吊つてメジロを庭に呼ぶ

愛犬の餌は大間のマグロです

生きのいい鯛だ餌代高くつき

餌が底をつく頃別れ切り出され

写メールに好物並べ母が待つ

わたくしの手加減で愛犬太り出す

釣堀の魚に餌をやつてきた

フェロモンを餌に男をうまく釣る

ザリガニを餌にザリガニ釣る輪廻

ばらまいた餌に自分が臆震く

一日は二食金魚もわたくしも

帰り道餌より高い魚買う

10万円もろても自民には入れぬ

ご祝儀の毒まんじゅうが身に廻る

微笑みは絶やさずスリットは深め

日が暮れてやつと撒き餌が効いてくる

ベルシャ猫ですエサなどと失礼な

禁酒禁煙わたしの餌が減りました

藤田 雪菜

森松まつお

鴨谷瑠美子

藤田 武人

佐々木満作

石田 隆彦

青木ゆきみ

油谷 克己

加藤江里子

森田 旅人

鴨谷留美子

山田 耕治

大内 朝子

桑原 道夫

阪井 恵子

木本 朱夏

松浦 英夫

川端 一步

長高 俊雄

栃尾 奏子

油谷 克己

片岡 加代

柴本ばつは

地

喜んであなたのえきになりましょう 上田ひとみ

天

手作りのチョコに媚薬を混ぜておく 木本 朱夏

軸

腹ぺこへドッグフードだとも知らず

兼題「痛い」 高杉 力選

満身創痍地球の痛みわからぬか 黒田 茂代

自分なりの鎮痛剤で過去にする 久保田千代

何よりも痛い値上げはやはりコメ 仁部 四郎

痛くない尻尾切らせてボスは無事 松浦 英夫

今飲むか辛抱するか痛み止め 齋藤 隆浩

鞭よりも心に痛い無関心 水野 黒兔

痛み止め飲んででも疼く恋の傷 小野 雅美

痛風を恐れながらもビール党 江島谷勝弘

押し出しの死球痛いのほどっち 鈴木いさお

痛いところ衝かれてすくむ喉ほとけ 初代 正彦

つねられた痛さが甘くなる余韻 伊達 郁夫

ゴツツンコでこも柱も謝らぬ 川端 六次

生え際に張ったサロンパスを剥がす 藤田 武人

本当に痛い時には声も出さず 青木ゆきみ

バラの棘美しいから堪えています 銭谷まさひろ

地雷踏んだか余計なことをよくしゃべる 森田 旅人

フトコロの方が痛い歯の治療 田吹 宗鉄

母の歳越えたからこそ知る痛み 澤井 敏治

痛がつて末っ子母を一人占め 加藤江里子

壊された町を見ているのが痛い 立蔵 信子

虐待は痛さ知らない者の業 福田 正彦

痛みでは泣かぬやさしさには泣ける 原田すみ子

ライバルが見ている痛いけど笑う 中村 恵

ふれないで下さい耐えている私 上田ひとみ

ゴールまで神経痛とおつき合い 北野 哲男

いじめたら自分にきつとくる痛み 北野 哲男

絶対に責めない痛みわかるひと 藤村 亜成

ところでと痛いところを突いて来る 木嶋 盛隆

叩かれても甘いと答えてるスイカ 石田 孝純

ダンゴ虫になつて凄いだ足の吊り 島田 明美

ちよつと痛いですよとチクリ注射され 鴨谷留美子

痛ければ言えとガリガリ歯を削る 山田 耕治

心が痛むニュースばかりのテレビジョン 山田 耕治

傷つけたことの痛みが傷となり 山田 耕治

痛いところ突いて仏を怒らせる 山田 耕治

子をぶつたこの手が時に疼き出す 山田 耕治

満員電車よろめいてきたピンヒール 山田 耕治

住

まだいける筋肉痛が心地よい 山田 耕治

注射器が見えて坊やはもう痛い 山田 耕治

酒飲めば治る程度の偏頭痛 山田 耕治

腰痛を見透かしているアブラムシ 山田 耕治

ファスナーが背中肉に噛みついた 藤田 雪菜

人

失恋の痛みを耐えてから大人 坂上 淳司

地

この頃の妻は本気でつねりよる 森松まつお

天

ほんとうの痛みを知らぬ司令官 内藤 憲彦

軸

痛いふり上手になつたロブ際

兼題「砂」 原田すみ子 選

薄型のテレビに消えた砂嵐 今村 和男

砂風呂に首を並べて展示会 伏見 雅明

海へ海へ子亀砂浜ひた走る 黒田 茂代

ビーチバレー大好きなのは男だけ 田吹 宗鉄

砂漠化の街がひと息つく落暉 桃谷 和郎

リュウグウの砂に生命の元宿る 福田 正彦

砂粒の僕も平和を折つてる 緒方美津子

砂遊び汚れるからと嫌うママ 片山かずお

鳥取の砂丘でマスクしてダウン 新家 完司

砂浜に夏の秘密を埋めました 藤田 雪菜

距離をとり黙食砂を噛むように 松浦 英夫

サンドバック泣きたい夜もあるだろう 小野 雅美

五月雨が胸の砂地を濡らし行く 松田蟻日路

時々砂を吐き出しリフレッシュ 平賀 国和

沖繩の土砂は重いぞこれも税
川端 一歩
我が胸の砂漠じわじわ広がる

吉報とならないようだ黄砂降る
銭谷まさひろ
夢を見ていました砂の塔でした

味けない会話に三つ角砂糖
今井万紗子
病院の売店にない砂時計

勝ち気な涙砂のせいだと言っている
中岡千代美
蟻を呑みこみ何もなかったような砂

精一杯夫婦で守る砂の城
加藤江里子
人
砂漠にオアシスわが家に妻がいる

砂時計何度も返した思案
上田 和宏
地
砂さまの足跡だけがある砂丘

育ち盛りいつもポッケは砂だらけ
柴本ばつは
天
砂丘へは風に吹かれに行くのです

言い勝つてざわつく胸の砂嵐
石田 孝純
軸
小さくても無視は出来ない靴の砂

ばあちゃんの愛は砂糖の味がする
宇都満知子
兼題「ポロリ」
初代 正彦 選

女三人黙食で砂囃んでいる
大久保真澄
一合でポロリ 二合で丸裸
藤田 武人

砂風呂にくつろぐボクにゲリラ雨
森松まつお
肩ひもがポロリと落ちた昼下がりに
木嶋 盛隆

大相撲はたきの勝負砂を噛む
石田 隆彦
老いらくの記憶ポロリと剥げ落ちる
山野 寿之

悔しくて貝は黙って砂を吐く
伊達 郁夫
ジェンダーを理解してない議員ども
江島谷勝弘

いたずらっ子ポッケの砂が詫びている
糍谷 和郎
瘡蓋がポロリ時がはがしてくれ
原田すみ子

少年のロマン埋まっている砂場
山野 寿之
口惜しさの涙ポロリがペンチ裏
萩原 狸月

天命を悟りアサリが砂を吐く
小野 雅美
ポロリ出た言葉の端を掴まれる
富永 恭子

水のない枯山水に砂の波
水野 黒兎
一言で心の棘がポロリ落ち
山野 双葉

砂浜は恋も戦も覚えてる
柿花 和夫
新妻の涙挙式の朝ポロリ
藤井 則彦

一日の砂を吐き出す縄のれん
藤井 宏造
もう止そう母の顔見て言うポロリ
今井万紗子

長靴も土砂に馴染んだポランテア
長谷川崇明
追い詰めてポロリ問い詰めたポロリ
銭谷まさひろ

砂時計ゆっくり落ちている余命
山野 寿之
新妻の涙挙式の朝ポロリ
今井万紗子

砂時計さらさら今を過去にする
初代 正彦
もう止そう母の顔見て言うポロリ
今井万紗子

守りには入りたくない砂時計
立蔵 信子
もう止そう母の顔見て言うポロリ
今井万紗子

手の平で砂鉄みたいに踊るババ
藤田 武人
追い詰めてポロリ問い詰めたポロリ
銭谷まさひろ

ナイスキヤッチあれっボールがこぼれてる
松田蟻日路

長いこと世話になったとポロリ父
奥澤洋次郎

パイトした孫から届くお小遣い
坂 裕之

口までの間にポロリまたポロリ
森松まつお

米つぶをポロリ傘寿も二歳児も
鈴木 栄子

警戒心とけてポロリと出た尻尾
鈴木 栄子

失言をポロリこぼして窓際に
奥村 五月

愚痴はポロロ本音はポロリ洩れるもの
大久保真澄

人の良い酒だぼろりと出た本音
川端 六点

ひと言がポロリこころに染みてくる
立蔵 信子

口答え出来ずポロリと出た涙
鴨谷瑠美子

涙ぼろり男はそれに弱いんや
敏森 廣光

悔しさにポロリと涙ひとしずく
阪井 恵子

乙女からこぼれる涙つい許す
大浦 初音

涙ポロリもうこの辺で許そうか
石田 隆彦

ポロリ出た妻の寝言が本音かも
森松まつお

母が逝く瘡蓋ポロリ取れた朝
内田志津子

たまさかの運がこぼれる有頂天
長高 俊雄

蛇口からポロリと愚痴が落ちていく
伊達 郁夫

マスク外れポロリとえくぼの目みる
水野 黒兎

隠し事寝言でポロリ出た油断
松岡 篤

ついポロリ酒の二合の軽はずみ
山野 寿之

ほろ酔いで憎いあなたへつい電話
小野 雅美

ほろぼろり問わず語りを旅の酒
木本 朱夏

哀しみの極みを越えた一滴

中村 恵

住

菌がポロリ一年生のいい笑顔

小島 蘭幸

差し歯ポロリ勝ってしまったらめっこ

島田 明美

母の匙米も記憶も雫れ落ち

栃尾 奏子

油断した後姿にある尻尾

宇都満知子

一雫涙零した嬉しい日

北野 哲男

時時のお箸をポロリ娘に内緒

川端 一步

地

ライバルの涙一粒には勝てぬ

小野 雅美

天

幸運がポロリと指の間から

鈴木いさお

軸

子どもらへポロリとこぼす墓じまい

鈴木いさお

兼題「あつぱれ」

木本 朱夏選

七十年女王は今もおすこやか

小山 紀乃

まだ今もテレビに続くサザエさん

長谷川崇明

あつぱれと言うほかはなしヨットマン

鈴木いさお

パンダの子白浜生れ十二頭

宇都満知子

アメリカに斬り込むあつぱれ二刀流

清水 英旺

あの友のあの子せがれが金メダル

萩原 狸月

一介の猫から社長代理タマ

片岡 加代

今までに新幹線に事故は無い

田吹 宗鉄

ファイザーとモテルナにあつぱれをやる

江島谷勝弘

御会葬御礼自分で書きました

山田 耕治

野草に蛙食べて元気で今がある

森 菊江

寄り添って首導犬のひたむきさ

藤井 宏造

口答えシツカリできた大丈夫

柴本ばつは

拳骨で喧嘩両成敗の姉

栃尾 奏子

まだ五冠と藤井聡太はまだ謙虚

上田 和宏

ゼレンスキーあつぱれプーチンは喝

鈴木いさお

ひまわりのあつぱれ暴挙に屈しない

油谷 克己

義理の身で妻よ介護をありがとう

藤井 宏造

2人子供産んだらあつぱれな日本

きとうこみつ

産声は世界を背負って立つ覚悟

中村 恵

青と黄の旗かかげてる休耕田

吉村久仁雄

蝶は羽化する琴姫は七変化

饗庭 風鈴

投げて打ち走りお負けに勇前

坂上 淳司

40人助けた救助犬バリ

新家 完司

あつぱれだ雲を引き連れ座る富士

青木ゆきみ

太陽に向かつて汗は老いの鉄

山野 寿之

どんちゃん騒ぎ天の岩戸を開かせた

内藤 憲彦

仰け反りの美学極める切られ役

坂上 淳司

あつぱれかつぱれ踊り続けているの世

森田 旅人

象倒すように小兵の勝ち名乗り

青木 隆一

線虫のあつぱれ痛を檢舉する

梶谷 和郎

母ちゃんの朝起きてから眠るまで

栃尾 奏子

スクランブル迷わず渡る蝸牛

稲葉 良岩

国を子に残すあつぱれウクライナ

内藤 憲彦

あつぱれと言われたくない寒椿

高杉 力

あつぱれが続くタイガースを見たか

小島 蘭幸

釘無しで千年保たす宮大工

長谷川崇明

住

石つぶてを文字で返した寂聴尼

居谷真理子

ほらできた修業を積んだホーホケキョ

大久保真澄

奥さまも蹴散らかして行くルンパ君

新家 完司

あつぱれなやつだ僕を振るなんて

中岡千代美

言い訳を一度もしない父でした

鈴木 栄子

人

九回の裏に隠れていた女神

酒井 紀華

地

小麦に喝をおにぎりにあつぱれを

銭谷まさひろ

天

銃捨てた兵士にあつぱれをやろう

高杉 力

軸

二足歩行できます免許返します

高杉 力

兼題「衣服」

小島 蘭幸 選

フルムーン一度は着ねばベアルック

梶谷 和郎

枕元に衣服畳んでいた昭和

柴原 道夫

白餅にバナマ帽子の父若い

柴本ばつは

かりゆしに沖縄の愛込める夏

水野 黒兎

断捨離決行あの服もこのシャツも

鈴木いさお

軍服を着ないで死ぬるありがたき
 喪服を着て昔の恋が会釈する
 衣替え一気に袖なしもいいな
 甘えん坊制服着ると頼もしく
 大島の衣ずれの音母の音
 国境を迷彩服がのし歩く
 正装を脱いだ途端に河内弁
 ジーパンの穴を大きくする夏場
 母さんの箆笥の底の蕨色
 和箆笥を亡母の着物が守ります
 襦袢纏い心豊かな山頭火
 ひ孫三人みんな貰った服似合い
 幾つになってもエプロン似合う母だった
 妻の服体形隠すものばかり
 おしゃれだった夫の背広着る息子
 ネクタイもシャツも背広も昭和色
 伸びる竹十二単を脱ぎながら
 気が揃って喪服のままで居酒屋へ
 町内に二人作務衣が居て平和
 服脱いでぼっとしてはるうちのボチ
 似合う服見つける前に古希が来た
 ポケットの無いジャンパーの頼りなさ
 すけすけの夏服わたしスタイルスキ
 久々のスカートふわり身もふわり
 作業着のままが嬉しい立ち飲み屋

仁部 四郎
 伊達 郁夫
 小山 紀乃
 松岡 篤
 杉浦 三智
 柿花 和夫
 藤井 宏造
 小山 紀乃
 平井美智子
 宇都満知子
 山野 寿之
 川端 一歩
 敏森 廣光
 片山かずお
 山本加お里
 新家 完司
 石田 孝純
 長高 俊雄
 森田 旅人
 柴本ばつは
 山野 双葉
 青木 隆一
 松本あや子
 阪井 恵子
 新家 完司

伸びきったシャツが優しい顔をする
 モンローのドレスモンローになれなくて
 試着室どれも似合って迷います
 毎日が修行と普段着は作務衣
 粗衣粗食しても預金は増えぬまま
 捨てるには惜しいそのうち着るだろう
 短パンをはくと年寄りじみてきた

住

ネクタイをキリリ真夏のモチベーション
 軍服を脱いで大地を耕やそう
 花柄のシャツに紋白蝶とまる

平井美智子
 中岡千代美
 富永 恭子
 坂上 淳司
 松岡 篤
 森松まつお
 栗原 道夫
 木本 朱夏
 饗庭 風鈴
 青木 隆一

裸婦像が咲くケッチにココシヤネル
 自転車に乗る時赤い服を着る
 母よりも生きて形見の派手な帯
 行くところないので家で背広着る

人 地 天 軸

お下がりを着ても輝く瞳があった
 ジーンズも作務衣も似合わなくなった

北野 哲男
 木本 朱夏
 大内 朝子
 栃尾 奏子
 青木ゆきみ

第4回

全国鉄道川柳人連盟・誌上大会

兼題と選者 (各題2句・2名共選)

「湾」	郷田 みや	選
	熊谷 岳朗	選
「カケラ」	梅崎 流青	選
	三村 悦子	選
「拳骨」	平井美智子	選
	北川 拓治	選
「裂く」	新家 完司	選
	鈴木 かこ	選

投句要領 所定の用紙
 または便箋に4題8句を連記。

投句料 1000円 (定額小為替)
 作品発表誌呈

締切 8月末日 (当日消印有効)
 賞 各選者特選に呈賞

投句先及び連絡先

〒719-0104

岡山県浅口市金光町占見新田1325-10

北川 拓治 宛

TEL 0865-42-6039

おこぼれ

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

川柳塔なら

大久保眞澄報

温かいその一言に救われる
天井のシミが救った孤独の夜
ためらいが人の命をふいにする
はらはらと援護射撃をした涙
ほのぼのとハート射止めた日の小道
ハート揺さぶる音に出合ったコンサート
ハートと胃袋掴まれ今が有る
フオークソングハートの髯を爪弾かす
ハートスタンブいつもいっばい孫メー
堅物のハート揺るがず鼻濁音
つかみどころないがどこかにあるハート
閉ざされた心を開く母の愛
病室に孫の力作ハートの絵
もこもこの着ぐるみ脱げばおじさんだ
入道雲彼の怒りがモッコモコ
アルバムが家族の記憶とめどなく

良岩 碓子 すみえ 昌代 かずお すみ子 けんえい 恭昌 じゅん子 千代 行久 江里子 優 みつこ

抑えると地下でもこもこ沸き上がる
今に見ていると風船膨らます
窮すれば湧くぞ悪知恵なんぼでも
もこもことお襦袢踊らし初節句
へこんだらアカンよ空気入れたげる
もこもこの泡でも消せぬ過去ひとつ
ワンタツチチーンと答え召し上られ
お茶だけで心触れあう老いの恋
訳有りの過去に触れない風がすき
触れないと不安スマホ依存症
怖いけど触ってみたいカプト虫
9条に触れると戦やつてくる
先ず触れて膝に聞かせる一万歩
触れること訝る所作が板につく
触れ合いの糸紡ぎ出すポランティア
プーチンよ触れないでくれ核ボタン
冤罪を晴らす触れねばならぬ過去
人間に触れ合うほどに人の情
目に触れるものみな新がつく四月

裕之 保州 俊雄 敬子 理恵 雅美 比呂志 比呂志 堅坊 弘子 希久子 武人 勝弘 崇明 和夫 則彦 史郎 和郎 寿之 一步

川柳塔さかい(大坂)

内藤 憲彦報

前向きの気力で老いと対峙する
念力で腰の痛みを直したい
腕相撲孫にはそつと力抜き
力湧く好きな貴方のほめ言葉
渡る世間金の力が物を言う
好き勝手核の力に手だてなし

朝子 廣子 素頓馬 佳子 いさお 世紀子

力づくで併合したいロシア勢
対ロシア気力で守るウクライナ
今やもう知恵も力も妻に負け
迷わずに道理を踏んで来た傘寿
こつこつと生きて来た道ありがとう
リハビリの夜明けに響く杖の音
足音で子は父親とすぐ判る
こつこつと励む背中にも惚れている
こつこつと軍靴が迫る気配する
古代ロマン求めこつこつ掘る遺跡
こつこつとやがては山になる知識
宮大工祭りの誇り支えてる
国産の平和が続くよう祈る
母が握る国産米は天下一
ふるりに田圃棚田のある安堵
みそ汁と海苔が美味しい朝ごはん
日本のリコピン浴びたトマトです
コメ以外他国頼りの自給率
桜満開日本酒片手愛でている
偽装されあさりあんぐり口開く
マイカーはずうつとずつと国産車
さすがですよい講演は理屈ぬき
然に非ずとよせばいいのに利口ぶる
さあどうする寄ってたかつて理屈こね
殺戮へ幼児巻き込む理不尽さ
咲く恋の子感靴音リズムカ
錆びぬよう陽気にシヤレリアクション

八千代 としお 蕉子 満作 憲 ひろ子 雅明 扶美代 時雄 敏治 美津子 淑子 和夫 万紗子 志津子 さくら 尚邦 玄也 舞夢 育子 勝弘 敬子 清 光雄 ひさ子 進 憲彦

サシセソ嫁は程良い料理好き (料) 叔子
傘寿まだ弱音吐きつつ力み居り みつこ

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

民主政治の一端担う選挙権
木を削り素敵な杖を作りたい
プーチンの責任地球より重い
自分彩削りすぎたかのつべらぼう
欠点を削れば個性まで消えた
チャンスよりピンチ招かぬよう生きる
ウイルスがチャンスを狙う気の緩み
大丈夫必ずチャンスやってくる
身を削るそんな忍ならしてみたい
なんとなく中途半端な鼻マスク
あと少し丸く削っていく余生
長椅子の端は寡黙の指定席
世界史に汚点残したプーチンめ
プーチンさん皆の命をなぜ削る
お好み焼きの上で悶える饅頭
ピンチをチャンスにそんな器用なことできぬ
地下室の重苦しさへ子が歌う
プロポーズするにはとても良い月夜
ギャンブルの引き際のがす欲の皮
まだ離せないライバルの影法師
重くなった笑顔で産着抱き上げる
満星のチャンスがつつり点稼ぐ

福貴子 廣子 直子 里子 雅美 裕之 芳香 志津子 まつお 万紗子 寿之 勝弘 ふりこ こみつ 宏造 久仁雄 憲彦 雄次 真核子 美龍 五月

端々に気品漂ういい育ち
気まぐれのキスで重たい荷を背負い 克己
石油値上げダイエットして乗る單車 たかこ
初対面笑顔がチャンス連れてくる 満知子
空席も端から座る始発駅 哲夫
一円でも端金とは思わぬい 篤
端端まで行き届いてる介護の手 ひろ子
同窓名簿やがてわたしも削られる 理恵
集合写真いつでも端にいる私 いさお
コロナ禍を逆手に取ったデリバリー 満作
失敗も学ぶチャンスだ糧になる 江里子
エンピツを削り心を静めてる 佳子

倉吉川柳会(鳥取)

大羽 雄大報

誠実に生きよ家訓告げてある 佑子
あちこちと渡り歩いて今日の日 凱柳
渡りに舟好都合には落し穴 大鯨
ホラ吹きが堂堂申し上げている 麦青
値上がり申し上げます下げてくれ 道春
あの人に会ってハート乱気流 由紀子
太平洋渡って春がやってきた 完司
世渡りが下手でいまだに生きてます 醉芙蓉
甘い顔すると子供らつけ上がる 玲子
危険だと申し上げたが妻は無視 照彦
人間の渡る世界は謎ばかり 萩江
渡る世間鬼も仏も居て平和 龍枝

山野 寿之 選

春キャベツほどの軽さで愚痴を言う 満知子
弱いところあって人間らしくなる 宏枝
信念を曲げた涙が風に散る 和子
ゆつくり歩く旅好きの人町が好き 一弥
虐待と戦争で逝く子の命 信子
燃え滾る恋の逢瀬に足らぬ刻 欣之
春は来るきつと私も飛翔する ひとみ
去年の花見あなたをのせて車椅子 理恵
回転軸狂い歪なウツを貯め 仁
僕のこと分からぬ母と手を繋ぐ 久仁雄

佳句地十選

(6月号から)

上田 ひとみ 選

老化ですノコギリヤシが効きません 紀の治
一盛にされる理由が見て分かる あかね
横文字を見ると出て来るじん麻疹 淳司
ストローを曲げて飲ませる母介護 由夏
新学期縫った雑巾断わられ 菊江
一点に絞られ切れない妻の愚痴 一平
ピュアだった空腹だった四畳半 爽子
春彼岸母さん違いに行くからね 一歩
満開の桜と今を生き尽くす 星雨
爽やかな目覚めイメージして眠る 余光

日記帳今日の乱れは書けませぬ
 何もかも申し上げますお許しを
 大相撲座布団乱れ飛んでいる
 一人っ子甘やかされて銭ならぬ
 豆くらいで逃げてたまるか鬼の乱
 乱れないように髪の手ひと括り
 母の乱みなカツン麺を黙食

ブラザ川柳(大阪)

藤塚 克三報

勝ち気な母も労苦が語る顔の皺
 明日香路に古墳文化の語り部さん
 幸せの種を植えたら待ちましよう
 まだ寒い結露の窓に一仕事
 空高く開店ですよとアドバルン
 災害を風化させぬと語り部が
 その話十回目だと孫が言う
 金継ぎがあの日喧嘩物語る
 沖繩を写真は語る五十年
 踏まれても空気のように生きる術
 家計簿に夫婦の危機の跡がある
 遠野にて座敷わらしを聴き眠る

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兔報

向い風我が意を得たりこいのほり
 みやげの寿司で風向き変わる妻の乱
 昭和という風に吹かれる同窓会

紀美恵 重忠 風露 智恵子 日出子 けいこ 雄大 克三 園子 五月 政夫 靖子 悦夫 和代 一彌 清乃 弘光 正子 淳司 黒兔報 純子 奈津子 直子

強い風一緒に唸る換気扇
 春の風ちよつびり甘い味がする
 タイガース六甲嵐泣いてるぞ
 騒動にあけくれ令和落ちつけぬ
 なぜ転んだ分かれれば私注意する
 なぜ夢を見るのか夢に訊いてみる
 なぜ・なんで観光船をのんだ海
 「なぜなんだ」この一言に睡られぬ
 不思議だな地球宇宙に浮かんでる
 争い好きは難癖つけてからみます
 きやらばく川柳会(鳥取)後藤 宏之報

契子 宏造 勝弘 黒兔 正子 則彦 春代 守啓 蟻日路 一弥 俊久 ひろし 恵子 治代 宏之 久直 雨奇 令位子 宣子 千代 瑞枝 紀の治 美穂 奈々

犬に吠えられて川柳に出てくる
 この痣は覚えないうけどここにある
 川柳あまがさき(兵庫)大浦 初音報
 へマしても笑って済ますうちの嫁
 ほがらかに朝の「おはよう」起動する紀華
 朗らかな顔した人も悩みある
 朗らかな君の回りに花が咲く
 朗らかに「行って来ます」とランドセル
 輪に入りお遊戯いっしょ朗らかに
 水平線沈む太陽あきもせで
 ばあちゃん猫と普通に会話する
 梅干しを残し異国の叔母が逝く
 赤い色身につけパワーアップして
 「さいなら」とルージュで書いて去る彼女
 赤く燃え勝利の威圧甲子園
 決意の時赤いルージュで気合入れ
 赤い靴ルンルン八十路坂登る
 九条に点滅してる赤ランプ
 重要な会議酒場でする会社
 妻は主婦俺は無職か気に入らん
 今日も来たホームルームの人気者
 母の日は仏の母へお赤飯
 母の手にどこか似てきた節くれて
 虎ファンゆつくりできる月曜日
 インバウンドがない間に行く旅行 こみつ
 日枝子 美緒 千賀子 紀華 ゆきみ 厚江 正和 照代 れい香 和子 菊江 佐和子 英坊 柳明 初音 楓華 紀恵 隆一 修平 正彦 哲男 雪菜 新録

メーデーで旗振ったのも半世紀
ざらざらと懐狙う詐欺師の目
ざらざらの油落として身が軽い
志願して若い娘が銃を持つ
通行人から出世をしたと死体役
ちぐはぐの会話を笑い合う後期
待望の男児に高く鯉のぼり

川柳花の輪(大阪)

川本

信子報

耕 治
良 種
健 二
久仁雄
宏 造
かずお
純

朝ドラをまずは子役が盛り上げる
朝ドラの子役に出ると年賀状
肩に置く手の温もりがほのぼのと
わたしには漫画やっぱりサザエさん
朝ドラの一等席はおばあちゃん
朝ドラで始まる国の幸せを
口下手にはほのほの愛を感じてる
朝ドラの裏番組に危惧ニュース

川柳de遊ぼう会(大阪) 小野

雅美報

和 織
正太郎
亜 成
やすの
博 泉
笑 子
泰 子
信 子

新婚に戻りたいのは夫だけ
ほな行くわ最期の言葉しなやかに
再会を果たせぬままに友が逝く
諦めたお金戻つて無駄使い
レントゲン息を止め待ちハイ終わり
戻らない渡り鳥にも訳ありか
努力せずつるり素肌に戻りたし
お帰りと犬が飛びつくマイホーム

晋 一
次 郎
てるひこ
はるみ
康 雄
幸 徳
幸 子
栄 次

しなやかな身のこなしして嫌味言う
サイの目にやり直す様戻される
初デート早く戻れと親心
眉入れるばあちゃん女持続中
食べ頃の柿の絵手紙先に着く
浮き沈みにもしなやかに母で居た
割れ茶碗もとに戻らぬ深い溝
浮世なら時には折れよ川柳
輪廻転生次は真面目に生きてみる
振り上げた拳もには戻れない
済んだことですしなやかに笑います
ゆるゆるの地盤に立っている平和
椎茸を戻すまだまだ適齢期
断捨離を待つてられんと部屋が言う

よしみ
喜美子
爽 也
えみこ
敏 郎
満知子
和 男
孝 純
旅 人
のり子
飯 恵 子
美智子
雅 美

川柳塔まつえ吟社(鳥根)相見

柳歩報

ガラス越し最後の一つモンブラン
すりガラス未来の世相こすり見る
酒二合ガラスの意志にすぐ変わる
ガラスばりの心が人の心打つ
使うこと知らずに老もカード持つ
地獄への割引カード頂いた
気休めに読んだ一節胸に来る
気休めに手に手をつなげない時代
口先の上手気休めにもならぬ
気休めのピアノとならぬベーターベン
気休めにぶらり近所の花を見る

青 帆
ピ ル
み ちを
あきら
米 估
芳 山
邦 代
柳 歩
豊 仙
小 鹿
知恵子

どっさりときリンの首の指定席
含書をスマホどっさり歌い出す
どっさり深夜の電話死の知らせ
夢の中どっさりかけるマヨネーズ
軽トラに母とどっさり来る野菜
こんなにも飲めと言うのか風邪薬
どっさり税金遣うアペノマスク

富柳会(大阪)

山野 寿之報

さざ波もやがて大河となる野望
中傷で心を潰す人の舌
原爆の阿鼻叫喚を宿す川
未来から青葉が届くかもめーる
軒の月見上げて惚ぶ亡き友を
軒貸して母屋とられたお人好し
青春のモグラ叩きの面めん
軒先にあやかし達がぶら下がる
川幅の狭さやんちゃな顔になる
山川で遊んだ頃のいちご味
バラエティー馬鹿な番組組潰す
肩書きの重さに丸くなる背中
新じゃがをつぶして母の春サラダ
軒下の糞虫揺らす風は春

雪代
とも子
桂 子
吹 喜
モナカ
弘 充
徳 利
和 子
由 夏
欣 之
か こ
一 文
壽 峰
文 重
恵
あかり
きみ子
正 義
武 人
奏 子
寿 之
三樹夫
かつ子

川柳茶はしら(愛知)

金子美千代報

コロナ禍で止めた体の錆を取る
深い息吸って言葉を準備する

三樹夫
かつ子

延長戦居眠り好きな女神様

女神ふたりを私に託したこうのとり

ふるえる指でスマホ決済デビューの囃

温暖化地球乾いてゆく焦り

プーチンが焦るウクライナの粘り(傲)堅

言い過ぎた夜は黙って爪を切る

完璧でないから友が寄って来る

イケメンの願い事なら聞く女神

デジタルに生きるハードル高くなる

焦らずに無駄も楽しみ一歩ずつ

追い越した車ビタリ後についてくる

隙間から覗けば踊る春の風

デジタルの自慢時計に針がない

頼まれてないのににしたい人がいる

ほろ酔えば駅のポストも女神さま

看護師が女神に見えた退院日

お隣の庭の美景に舌を巻く

誰見てもコロナとロシア嫌な奴

おぞましい言葉あきれた牛井屋

傷ついたハトに銃口向け地獄

たあとと生きた残る命は儲けもの

元気で元気で一生を終えるのはむつかしい

鬱と薔薇書く練習で暇つぶし

生き延びるヒントを探る誕生日

金が回ると頭も口もよく回る

南大阪川柳会

松岡

篤報

亜成

直子

満知子

千賀

福貴子

一步

一坊

郁夫

野鶴

宏造

万紗子

杵香

亜成

博

集一

ゆきみ

隆一

和夫

肇

五月

恭子

黒兎

志華子

ルイ子

かずお

信子

直子

亜成

直子

直子

直子

直子

ゆつくりと回っておいでまってる

邪魔されぬ十数分の観覧車

見回せば熟女ばかりのハイキング

プーチンのタクト地球をかき回す

若い人早くワクチン打ちなさい

若者に混じって振ったペンライト

手を振って逝った知覧の少年兵

横書きに馴れて若さはアツピール

五月病来ぬようここは頑張れよ

智も体も十代日本支えてる

失敗を恐れず歩め若人よ

おばあさんと言わんといてよまだ傘寿

さあ若い十八歳を信じよう

提灯の明かりが好きな地藏盆

こっそりと飲みに行きたい地藏さん

よだれ掛け五枚地藏は六体

地藏顔うんうんうんと人を寄せ

よく喋るおばちゃん型の六地藏

切り捨てた端数を今も惜しんでる

九男で苦勞せぬよう十郎に

究極の偶数だろう君と僕

人生の方程式はむつかしい

0と1だけでは解けぬ恋ごころ

想い出は亡母の形見つげの櫛

忘れない忘れられないことばかり

春が来て又春が来て変異株

待つてますウクライナからいいニュース

直子

直子

直子

シマ子

まゆみ

あや子

楓

ルイ子

通江

柳伸

柳右子

篤

克己

満作

志華子

穂夫

よしみ

昌紀

いさお

大子

一筒

常男

東風

実

一步

敏治

弘子

峰子

俊雄

直子

直子

直子

直子

9条に誇りを持つとう日本人

ウクライナ遠い日思う戦中派

戦のない世界を願うカント読む

川柳さんだ(兵庫)

酒井

ロンリーの爺に似合いのにごり酒

寂しさにつける薬をストローで

時々夢枕にも立って欲し

初めから光っていたよ君だけは

お前しか出来ぬとまぐ使われる

ブランドは子供ですよと言った妻

体ガタガタ大事に使え天の声

今週も白いまんまの予定表

成人式孫遅しくなりました

カナリアも鳴いてばかりで飽きられる

偽ブランド牡蠣満足顔で食べていた

うちのポチ見つめられると喜ぶの

散撒けば選挙戦に勝てるのか

最後の夢霊柩車はメルセデス

パソコンを診察してるような医者

使われた満足精を出す稽古

九条を守り続けた核の傘

なれても矢張り寂しい一人飯

使う人思い浮かべて贈る品

寂しくて母へ手向ける般若経

注目の遺影ぐらいいはハイチーズ

直子

直子

直子

直子

勝弘

ひさ乃

国和

健二

哲夫

耕治

哲男

ひとみ

徹

三ツ代

正和

義徳

千賀子

喜久子

登志子

正彦

廣光

紀恵

迪

修平

野薫

雅尚

ヨシエ

健二

健二

健二

健二

健二

健二

ストレスに囲まれながら今日も暮れ
プーチンの末路見るまで死ねません
咳すれば視線飛び来るバスの中
シャッター街枯葉カラカラ踊つて
朝目覚め亡妻の遺影におはようと
寂しいね桜咲いても一人酒
黙祷の増える句会の昨日今日
孫婦りボツンと穴が空いた空
都内では小学校もアルマーニ
古くても着くずれしない一流品
大学を出ても敬語がハチャメチャで
消火器を使わず済んで期限切れ
マンホール御当地知らずキヤラクター
モノリザの微笑み消していく戦

寅男
利尚
高志
はな
重男
稠民
徹

玲子
おさむ
雄太郎
万彩
俊昭
厚子
優子

夕胡
佳子
精子
節子
節子
倅子
明

誰とでも仲良くなんて無理な事
安否問う声があちこちから温い
ウィルスの恐怖地球が怯えてる
コロナという悪い夢から目覚めたい
誰があげたか地藏さんの手に土筆
誰のせいで負けか只今調査中
脆弱でウィルスに好かれる私
朱い糸切つても切れぬ夫婦愛
わたしだと誰も名乗れぬ落とし物
尻尾振れば誰もが俺を可愛がる

寅男
利尚
高志
はな
重男
稠民
徹

玲子
おさむ
雄太郎
万彩
俊昭
厚子
優子

夕胡
佳子
精子
節子
節子
倅子
明

誰とでも仲良くなんて無理な事
安否問う声があちこちから温い
ウィルスの恐怖地球が怯えてる
コロナという悪い夢から目覚めたい
誰があげたか地藏さんの手に土筆
誰のせいで負けか只今調査中
脆弱でウィルスに好かれる私
朱い糸切つても切れぬ夫婦愛
わたしだと誰も名乗れぬ落とし物
尻尾振れば誰もが俺を可愛がる

寅男
利尚
高志
はな
重男
稠民
徹

玲子
おさむ
雄太郎
万彩
俊昭
厚子
優子

夕胡
佳子
精子
節子
節子
倅子
明

誰とでも仲良くなんて無理な事
安否問う声があちこちから温い
ウィルスの恐怖地球が怯えてる
コロナという悪い夢から目覚めたい
誰があげたか地藏さんの手に土筆
誰のせいで負けか只今調査中
脆弱でウィルスに好かれる私
朱い糸切つても切れぬ夫婦愛
わたしだと誰も名乗れぬ落とし物
尻尾振れば誰もが俺を可愛がる

寅男
利尚
高志
はな
重男
稠民
徹

玲子
おさむ
雄太郎
万彩
俊昭
厚子
優子

夕胡
佳子
精子
節子
節子
倅子
明

誰とでも仲良くなんて無理な事
安否問う声があちこちから温い
ウィルスの恐怖地球が怯えてる
コロナという悪い夢から目覚めたい
誰があげたか地藏さんの手に土筆
誰のせいで負けか只今調査中
脆弱でウィルスに好かれる私
朱い糸切つても切れぬ夫婦愛
わたしだと誰も名乗れぬ落とし物
尻尾振れば誰もが俺を可愛がる

寅男
利尚
高志
はな
重男
稠民
徹

玲子
おさむ
雄太郎
万彩
俊昭
厚子
優子

夕胡
佳子
精子
節子
節子
倅子
明

誰とでも仲良くなんて無理な事
安否問う声があちこちから温い
ウィルスの恐怖地球が怯えてる
コロナという悪い夢から目覚めたい
誰があげたか地藏さんの手に土筆
誰のせいで負けか只今調査中
脆弱でウィルスに好かれる私
朱い糸切つても切れぬ夫婦愛
わたしだと誰も名乗れぬ落とし物
尻尾振れば誰もが俺を可愛がる

寅男
利尚
高志
はな
重男
稠民
徹

玲子
おさむ
雄太郎
万彩
俊昭
厚子
優子

夕胡
佳子
精子
節子
節子
倅子
明

誰とでも仲良くなんて無理な事
安否問う声があちこちから温い
ウィルスの恐怖地球が怯えてる
コロナという悪い夢から目覚めたい
誰があげたか地藏さんの手に土筆
誰のせいで負けか只今調査中
脆弱でウィルスに好かれる私
朱い糸切つても切れぬ夫婦愛
わたしだと誰も名乗れぬ落とし物
尻尾振れば誰もが俺を可愛がる

寅男
利尚
高志
はな
重男
稠民
徹

わかやま吟社

小谷 小雪報

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

小一 央

小二 沙 弥

権力に向けて遠吠えしか出来ぬ
ブレバトの吠える梅沢憎めない
バイデンも岸田も遠吠えではないか
戦争は止めると吠えてる世界
ゆつくりもされては困るワンルーム
三日かけ七段飾る初節句
ゆつくりとひと日を流す仕舞風呂
八十路坂ゆつくり来いよ父の声
桜満開心を洗う紺碧の宇宙
赤い靴洗う心は日本晴れ
洗ったらポロリ千円札である
握手する指だきれいに洗います

晶子
悦男
八茶
小雪
あかね
敦 已
紀 子
富美子
寿子
徑子
大輪
妻の留守命を酒で洗うとす
戦争で流した涙いつ洗う
泣きなさい涙が心洗うから
洗つても洗つてもウィルスいる恐さ
墓洗う亡父に句集見せました
百均の洗濯板が優れもの
春よ春歓喜のつばめ軒を舞う
ふるさとに向つて飛行機雲が伸び
ライトアップ花艶やかに月おほる
八十路過ぎ卒業しました山登り
五月晴れ三兄弟は元気です
せんそうはなんのためにするのかな
きょうのよるそらのでんきはおつきさま

昭紀
慶子
蘭 幸
比呂子
敬子
団風
和子
宣之
弘子
栄香
笑子
節夫

菜摘
敏照
理恵
昭枝
まき
一雄
起世子
宏枝
碧

自画像に隠れた微罪透けている
合わせ鏡隙がないかと確かめる
今をどう生きるか今を深呼吸
七転び八起きの果ての日向ほこ

武器持っている短気になるのです
短命の友が時々夢に出る
延命は不要とだけの遺言書

山頭火の匂い嗅ぎつつ森散歩
生いたちを包み隠さず私小説
シヨートカット過去の自分を捨てました

心まで沁みるみすゞの詩が匂う
指摘されてわかるわたしの短所
匂の味おふくろの味花の下

草書かと言われるような老いの文字
コロナ禍で五分の許可の老母に会う
待ちわびた短い春に百花咲く

良い事があったと顔に書いてある
ごめんねと書いたメモ見せ仲直り
写経終え心の痛み和らげる

青春を海の匂いが連れるくる
古書店へ昭和の匂い嗅ぎに行く
病院の匂いが残る退院日

故郷の匂い持ち寄るクラス会
百年を生きて人生短すぎ
短くても子の鉛筆を使う母

短日の大事に使う陽の恵み

純子

和子

保州

准一

昇

彦弘

義泰

あき子

明子

知香

眞智子

悦男

和美

川柳塔打吹(鳥取) 斉尾くにこ報

ストーンンの胸は鉄鋼より硬い
いいねっとノックした胸からさくら
くにこ

夜桜が早く来てよと呼んでいる
オーイお茶呼んでる声も弱くなる
平和の風何はさておき呼びに行く

空家空家人を呼ぶほど空しくなる
おくれ毛を掻き上げながら運転中
はらはらと桜も時を得て散った

はらはらと桜も時を得て散った
不器用な左はらはらする右手
はらはらと一歩一歩と生きていく

洞窟をはらはら進む内視鏡
もう少しはらはらしたい薬指
絶対に切れないカード核兵器

母さんは包丁の音リズム調
マイ包丁さすがにうまい生き作り
ひと言が一生涯わぬ仲となり

赤い糸切れて悔やんだ適齢期
赤い糸よくも切れずにダイヤ婚
失言で人と繋がる糸切れる

ひそひそと噂話に胸騒ぐ
頭ではわからぬ事を胸に聴く
胸が痛む二町の田畑あれてくる

胸の中吐き出す袋下ンゴロス
胸の内明かす相手はベットののみ
胸に手を当てて平気で嘘を吐く

貴恵

美知江

紀子

龍枝

はびきの市民川柳会(大阪)藤原 大子報

食欲が戻ってほっとする看護
復活の神はロシアを許さない
有り難い事業復活支援金

足の短い僕が復活するダンス
キリストでないが復活祈る日日
復活の努力を汗が称えてる

退院日昼過ぎて二日酔
病癒え元の頑固爺になる
国の復活戦死者は甦らない

ステージ4オベした父は畑仕事
グラマンの掃射の恐怖よみがえり
無罪でも二度と復活せぬキャリア

おしやれるするあなたの秘密探るいま
探られた腹に秘密のニツ三ツ
俺の腹探らんといて百センチ

意地を張り互いに腹を探り合う
じわじわとライバル探り入れてくる
言葉を選びながらあなたの意を探る

人生の生きざま探り今がある
川柳の森探っても探っても
古木の芽も春を探っているらしい

DNA探れば神様と出会う

泰子

久仁雄

正義

正美子

理恵

大子

洋一

楓葉

シルク

ちづる

専平

冬のト

千鶴子

まつお

勝弘

ひとみ

一文

探つても神さえ知らぬ我が余命
ご先祖を探るとみんなお百姓

川柳塔みちのく(青森) 稲見

則彦報

蛇口から満ち足りて出る愛の唄
懐の豊かさよりも気前良さ
苦勞した昔の事は忘れてる
無限大の豊かさ愛で包もうか
豊饒な大地を走る戦車あり
戦争で知った豊かなウクライナ
豊かさをときどきもらう雑記帳
送る嫁豊かな姿良かつたね
ストレスを豊かなお湯で流し去る
オミクロン豊かな暮しまで壊す
豊艶と縁が無いまま婆さんに
授乳時は豊満な胸だったのに
理想は理想才色兼ねたままない
天国も地獄も個性豊かすぎ

ゆたかさはシュークリームの舌触り
シニアにはシニアサイズの満足度
豊作に泣くに泣けなれり
もつさりソメイヨシノの太つ腹
輪切りして林檎の星を遊ばせる
豊かさを陰で支える土作り
いい時代生きてきましたねえ君と
語彙不足頼みの綱の電子辞書

みつこ
一步

一呑
重虎
澄子
龍馬

友二
初枝
ひとし
孝子
柳子

のぶよし
和香子
ひろ
洋子

慕情
吹喜
風来坊
義明

霜石
則彦

ふりむけば夢これからも夢だろう
吐く息が煙のように北の駅
種を選るひたすら祈り深くして
極楽へ行けそうもない罪の数
五十過ぎ手書きの文字が人並みに

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

悪口を言いつつ飲むと旨い酒
悪戯が好きな金魚のジョセフィーヌ
プーチンに白いマスクは似合わない
嬉しくて今日はピンクのマスク選る
散歩道ボクだけ吠える犬がいる
なんとなく爆発したい午前五時
同じ月に凶の神籤が二度までも
人さまに序列をつけるお犬さま
番犬がオレオレ詐欺に引つかかる
言い過ぎた言葉マスクじゃ防げない
フェルメールブルーで今日を編んでいる
飼い主も似たもの同士ブルドッグ
レイアウト拘り過ぎて間に合わぬ
お喋りが外したがっているマスク
息苦しいマスクの下は熱帯夜
マスク美人俄かに増えた令和の世
母の緋色褌せたのに捨てられず
鳩尾に住む一匹の悪い虫
死に際の犬どううしても抱けという

美鈴
ふさゑ
花峯
規子

正人
くにこ
芳光
八千代

紀の治
芳山
幸子
雄大

麦青
紫陽
博子
熊四郎

七七
勝美
楓花
ゆたか

風露
美ツ千
余光

ステージは気合も入れ込みドットヘア
好物は体に悪い物ばかり
戦争は悪いやつてはならぬこと
二人して編んで来ましたダイヤ婚
犬よりも先に死ねないエサ係り
悪さするカラスに難い羽がある
大正の亡母は夜なべに菅の傘
正夢にならねば良いが悪い夢
縦糸は文字横糸は酒である

日本酒の香りの中に僕が居る
香ばしい匂いで誘う焼き鳥屋
山国に生まれよかつた花蜜柑
初恋のほろ苦い香よ春の野辺
春が香る新人生の制服に
春キャベツ刻む香りの二人膳
敏感な嗅覚を持つ白い杖
夜の海潮の香りが漂って
角曲がる沈丁の香に誘われて
一日の始まりコーヒーが香る
どんよりとした日鼻歌口ずさむ
雲行きを見て賛否決め浮動票
雲一つ無いが心は春のうつ
青空に雲で書きたい9の字を
雲つかむような話に救われる

岸和田川柳会(大阪)

石田ひろ子報

順子
富隆
けいこ
清明
久子
重忠

規雄
コスモス
完司

常男
玄也
義泰
理恵

信子
憲彦
恵子
珠子

扶美代
ふさゑ
恭子
和美

康信
一步
ダン吉

雲水の素足へきつい雪が舞う
雨雲を見上げ一息つく農夫

わたあめの雲を取つてと3歳児
とおきの笑顔遺影にするつもり

認知症の母が無邪気に笑います
さらさらの笑顔母ちゃん退院日

わくわくの心こぼれている笑顔
通り抜け花の笑顔に逢いに行く

百円玉踏んで人波やりすこす
こつそりと塗り替えられた世界地図

こつそりと化学兵器を造る国
大声は出せない隠れジャイアンツ

派手好きの友の寂しい家族葬
こつそりと言った悪口千里駆け

内緒でもらした相手悪かった
文芸賞妻にこつそり応募する

友が逝き生命線をごそつと見
こつそりと保健所消した大阪市

こつそりはきらいと反戦アナ堂々
こつそりの噂に耳の嬉しがり

川柳ねやがわ(大阪)

籠島 恵子報

酒タバコこよなく愛し税取め

太陽にウエルカムカム常緑樹

いつの日か政権握る夢を見る
平和な国日本に住めめりがとう

穂夫

航太郎

香代

世紀子

保州

昌代

朝子

敏治

眞澄

和子

三成

いさお

万彩

勝久

隆雄

達彦

洋二

佳代子

政雄

ひろ子

ルイ子

税務署も網を張つてる遺産分け

賽銭もお布施もうふふふ無税

フレッシュマンネクタイ歪め初出社

ランドセル一年前から予約する

転職のたびに一年生になる

植物が本気で緑になる五月

葉のついた大根探す物価高

夏が来る白いサンダル葉緑素

万緑の樹海で五欲蘇る

新緑の葉すべてを上向き叫んでる

青青と畑は麦を孕む頃

お手前の技を茶筌に誉められる

鶯の美声に増していく緑

プロポーズへ緑の風が味方する

新緑の下で素直になりました

野党連政府以上の夢を持つ

我が家でも野党の僕は蚊帳の外

野党席野次の担当任される

五十年与党野党で共白髪

何でもが反対ですは芸がない

さくら桜いま満開という目眩
蝶蝶かと思つたサクラ来てとまる
コロナ去り友が来る日を心待ち
税金は先取りサービスあと回し
自分史は都合に合わせて書いている
食べて寝る極楽門の通り抜け

高鷲

欣之

博

銀杏

かずお

堅坊

一歩

あかり

信子

亜成

鈍甲

寿子

欣之

玲子

武人

義広

和織

彰一

かずみ

武彦

弘子

賢子

ユニセフの子等に託びねばフードロス

卒業証書丸め未来の夢観く

直線をまあるく恋の回り道

9条があつたからこそある平和

思いやる心があればみな平和

長柳会(大阪)

大浦 福子報

好奇心詰めた風船よく弾む

地藏さんいつもやさしく目で語る

それから期待している好奇心

交流も途絶え人情紙風船

平和の種付けて風船飛ばしたい

紙風船に爆弾積んだ日本軍

紙風船夢を吹き込み空にポン

老いたりと言えど輝く日もあつて

輝いた生き証しを語り継ぐ

ヤングケアラ語らず背負う重いもの

三代代浮き沈みして八十路越え

誉められて真意疑うへそ曲り

横文字の言葉が絡み舌もつれ

馴れ初めを母はいわぬ笑うだけ
今の世は昭和生まれは摩訶不思議
逆風で曲がった分をバネにする
世の中のどんなことにも評論家
へそくりが女房にばれて追い出され
制約解け郷里に行けた親老けた

祥昭

千賀

壽峰

勝弘

朝子

福子

隆彦

ヒロ

和子

ともこ

淳司

由夏

千代

純風

孝代

靖博

光弘

澄子

正博

幸子

孝

正美
隆明
おくみ

演奏会余韻残して夜の街
 マスコミのウクライナ記事目に涙
 果物屋世界の顔が並んでる
 デイケーア五文字に教えデイケーア二文字
 親自立子供も自立絆の輪

六甲川柳会(兵庫) 概合 和郎報

帰国して飲む日本の旨い水
 三つ折にして隠してる皮下脂肪
 ごめんねが言えた成長したんだね
 条件を飲まされてる持たぬ者
 辛抱が居酒屋の前走り抜け
 コンビニがひとり暮らしの秘密基地
 化けるまでチャイム鳴っても出ない妻
 ごめんねと言ってデンと胡座をかきたいな
 新緑にリハビリの足弾んでる
 立ち飲み屋座らないけど疲れない
 春夏秋冬移ろう景色友に飲む
 飲み屋にアクリル板が邪魔なんだ
 パスワードいつも三を入れてる
 令和受け丸三年が暴れてる
 二人より三人で飲む方がよい
 辛抱を覚えて親も子も育つ
 じっくりと息き立てないで待つてやる
 美しい心になれるサブリです
 辛抱のネジがだんだんゆるみだす

洋二 規之 たけし 邦夫 由子 哲男 恭子 千賀子 洋次郎 狸月 隆浩 武彦 弘 美恵子 勝弘 廣光 博 崇史 正彦 忠志 和宏 盛夫 ひとみ 弘華

独り飲むビールの泡にまぜた嘘
 何気なく使うごめんを辞書で引く
 ごめんねと言って誰でもこき使う
 水ばかり飲んで言い出しにくいこと
 新緑の色鉛筆が不揃いに
 思春期の孫はあばには優しくて
 母に似てゆるゆる巻きの春キャベツ
 辛抱も笑い話にする老後
 飲みぬ友不思議営業トップへと
 体温計今は我家の主治医なり
 チャレンジをしよう勝負は時の運
 独裁者になれば戦争したくなり
 老二人テレビ機軸の評論家
 向い風エールに代えてまず一步
 ごめんごめんと二度言い謝ったつもり

西宮北口川柳会(兵庫) 緒方美津子報

心の窓開けて四月の風入れる
 明日はまた素敵なコント拾うだろ
 あんたしかおらんと行って幹事役
 そうだったのか修正ペンの跡がある
 課長課長新米課長くすぐられ
 親切にさてはとウラを読んでいる
 四月中の停戦祈るウクライナ
 居酒屋の椅子にコントが二つ三つ
 気のせいかな今年の桜うつくしい

緑 美穂 光久 利恵子 道子 利子 次郎 和郎 義明 正和 真桜子 正美 美津子 公輔 千賀子 堅坊 正和 武彦 和宏 敦子 一徳 いわゑ 勝弘

柳友が出来て火のつく詩ごろ
 あたたかい言葉ひとつで勇氣でる
 たんばばが会席料理色添える
 マスクして横一線の入社式
 名も知らぬ花が今かと咲く四月
 園芸店野菜の苗に人だかり
 四月バカ婆ちゃん担当が苦笑い
 くすぐるとすぐに白状する夫
 転校生別れと出合いある四月
 何もかもピンク色です窓の外
 好奇心だけは未だに活火山
 虚栄心くすぐられるの思う壺
 今日もまたまるでコント爺と五歳
 泡をグーうまいに禁酒くすぐられ
 参院選くすぐり損ねた五千円
 さてはさては異星人かと北の人
 運命は足跡付けず前で待つ
 しがつく餌を待ってる蜘蛛の糸
 坂道が八十路の足を重くする
 春の陽射しくすぐる様なあの予感
 ビロシキは食べぬ私は反戦派
 心にも一輪の花逢いにゆく
 顔見ればびたりと止まる話の輪
 単純な吾をくすぐるのはお金
 歓迎会耳をくすぐる国訛り
 けものめく風だな何かあるさては

俊雄 紀華 みよし 盛夫 新録 恭子 哲男 利子 ひとみ 光久 千代 弘子 昭九郎 洋次郎 哲彦 野鶴 野薫 靖夫 廣光 喜明 迪 豊子 邦男 雅乃

政治屋に病院という安全地

ぼやくのを止めたら人が寄ってきた

朝起きて侵略ニュース見てぼやく

ぶつぶつと猫に聞かせる独りごと

ぼやきながら玉ねぎ微塵切りにする

かくれんぼしたはず公文書あつた

自分のせいでちゃんどできないのはやく

おうちでも外でも妻の背に潜む

ぼやくのはおよしと盃が笑う

政治家の無力が民をぼやかせる

風が騒いで妻のぼやきを聞き逃がす

防空壕命をかけたかくれんぼ

わたくしがぼやくと猫が欠伸する

翠洋会(大阪) 原田すみ子報

たったひとつの地球とり合い愚か

地図広げ世界旅行をしてる日日

地平線夕日がしずむ美しさ

新天地初夏のシャワーに湧く勇氣

宇宙から地球見る夢喜寿でまだ

宇宙舞してね地球に飽きたから

世界遺産眠る大地のピラミッド

数億の土地とも知らず群れる蟻

胸張って母校の寄付を集めます

同窓会鹿も名簿に載っている

母校での失敗老いの笑い種

みつこ

久仁雄

喜代子

俣子

瑠美子

一歩

かずお

勝弘

ひろ子

ちづる

扶美代

ダン吉

いさお

終生の友得た母校カンタータ

迂闊にも人のマウスは閉ざされる

ミッキーの中はオッチャンかも知れぬ

戦争で得るもの無くて残る傷

済んでみれば大した事はなかった

正論が利己と保身に潰される

地下からの風にモノロー懐かしむ

猫が聞くもつともらしき顔をして

ウクライナ思えば我慢小さき事

もうとまだトラキチ同土口喧嘩

喉元に勝手に入る吟醸酒

葉ざくらの頃は会えない人想う

極めたと思う火加減水加減

終焉の旅は羽衣まといたし

マスクの大口は自由に独り言

豊中もくせい川櫻会(大阪)前月分初代 正彦報

お互いに正論という主義主張

似合うよりサイズで選ぶ春の服

春の陽ざし気持が緩む長談義

友人と緩いつきあい長続き

春は魔法こんなに花が咲きました

酒が出た途端に緩む座の空気

他所の子も叱つていいか思案する

あの夜のジョッキ私を叱つた

寝ていてもパツと目覚めるおやつ時

蕉子

満作

弘美

義之

行久

恭昌

江里子

大子

和夫

定夫

理恵

希久子

志華子

すみ子

健二

真理子

多美子

晴子

英三

北舟

北玲子

きらり

義明

星が降る静かな夜が愛おしい

花手水活けていかされ慰める

仏前のおやつ頂く妻の留守

ウフフと笑つて桜地に還る

戦争の惨禍平和呆けへ喝

バケツ持ち廊下に立つた日の記憶

靴のひも締め直した八十路坂

叱られる底に励ます愛がある

叱られるのはいつも兄ちゃんだけだった

たんぼの綿毛ゆるり風まかせ

心揺れマスクの下で緩む口

玉虫色の答えでしばし時を待つ

一度飲みに行こうかと言つてもう五年

喜寿通過大器晩成せず終わる

絶妙のつっこみボケたかがある

スピードは早めにゆるめと信号機

幸せの洗たくものが揺れている

マスクでも笑顔のキミはすぐわかる

夢ひとつあれば荷物は不必要

緩めたら我慢の気持失せている

紛争もコロナも去つて春よ来い

叱られた日が懐かしい廃校舎

ネガティブな己を叱る朝の靴

おやつ時隣の猫がやつてくる

絆とは緩くて長い糸である

吹つ切れて歩幅が広くなる散歩

公輔

憲央

敏昭

野鶴

肇

武人

英旺

ふりこ

見清

玲子

じゅん子

久仁雄

則彦

勝弘

眞澄

眞津子

ひとみ

初正彦

洋志

正彦

満作

黒兎

ヨシエ

一歩

哲男

千鶴子

句会名	日時と題	会場と投句先
川柳 あまがさき	12日(火)14時締切 倒す・水・慌てる・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田 川柳会	16日(土)14時締切 旅・惚れる・まったり・ショック	岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄「岸和田」駅東へ徒歩5分 投句先変更 〒597-0082 貝塚市石才25-3 石田ひろ子
川柳 たちばな	16日(土)13時45分締切 席題・海・重い・自由吟	尼崎市女性センター・トレビエ 2階 阪急武庫之荘駅南へ5分 午後1時開場 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川柳塔 みちのく	16日(土)17時締切 泳ぐ・ぐんなり・良心	会場未定 〒036-8275 弘前城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川柳 藤井寺	17日(日)14時締切 覚悟・ちよろちよろ・席題共撰	藤井寺市生涯学習センター・しゅらホール 3F 近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車南へ徒歩10分 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	18日(月)13時50分締切 盃・暇・祝・雑詠	大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	18日(月)13時50分締切 うわべ・攻める・きっと 自由吟	豊中市立中央公民館 3F 阪急宝塚線「曾根」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川柳 ねやがわ	19日(火)12時50分 害虫・厚かましい・負ける 節約・自由吟	寝屋川市産業振興センター 京阪寝屋川市駅西口下車 徒歩5分 投句先:〒572-0063 寝屋川市春日町9-9 高田博泉
川柳 さんだ	26日(火)13時30分締切 情熱・どんくさい・スイーツ 控え・自由吟	キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1324 三田市ゆりのき台3-14-9 上田ひとみ
川柳塔 すみよし	23日(土)14時締切 月・返す・ひらひら	住吉区役所内 住吉公民館 2F 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸川柳会	23日(水)13時15分締切 泳ぐ・乗る・飲む	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市川柳会	24日(日)14時締切 距離・変える・サービス・席題	陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川柳 ふうもん 吟社	24日(日)13時～ 自由吟・手抜き・心配 そろそろ	県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町21 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

7月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
城北 川柳会	2日(土)14時締切 救う・メール・姑息・自由吟	旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	2日(土)14時締切 茂・いやいや	富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉 川柳会	2日(土)14時締切 そもそも・なる・壊す 席題一題	倉吉市明倫公民館 〒689-2221 鳥取県東伯郡湯梨浜町545-16 竹信照彦
川柳 塔え社 まつ 吟	2日(土)13時30分締切 音・浮く・高い・逃げる	投句先 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充 会場 雑貨公民館
川柳 塔 な ら	7日(木)14時締切 三枚目・めきめき・逃げる・席題	奈良市中部公民館 4F 投句先 〒636-0202 奈良県磯城郡川西町結崎421-64 長谷川崇明
川柳 塔 打 吹	7日(土)13時30分締切 船・崩れる・すいすい・席題	倉吉市上灘町9 上灘コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7月7日(木)☆大会お知らせ 通常誌上句会・誌上大会 共に 締切・当日消印有効・各2句 天・路切・誓い・心待ち・たまご・一緒に	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 「おりひめ☆ひこぼし川柳会」 藤田武人 TEL・FAX 072-395-5453
あかつき 川柳会	8日(金)14時締切 脇道・あわや・靴・時事吟	大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
六甲 川柳会	9日(土)14時締切 調子・くらくら・減る 自由吟	六甲道勤労市民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒657-0011 神戸市灘区鶴甲4-11-11 上田和宏
川柳 わかやま 吟 社	10日(日)14時10分締切 兼題=勝利・勘・サービス 課題吟=棚	JAビル11階(JR和歌山駅前) 兼題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 栗原道夫
西宮北口 川柳会	11日(月)14時締切 席題・スイッチ・縛る・なるほど 自由吟	西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「プレラにしのみや」 〒663-8141 西宮市高須町2-1-31-830 福田正彦
ほたる 川柳 同好会	12日(火)13時30分締切 ルール・飲む・じっくり	豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒兔
川柳 塔 さ か い	12日(火)14時締切 タブー・素顔 折句:か・つ・お	東洋ビルディング 4F(堺東駅北西改札口から2分) 投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 斎藤さくら

柳界展望

329名。同人成績

▽新誌友紹介△

特選 紫 しめの

加古川市 山田美春日

まっすぐに育てたはず

アルプス市 小林 金剛

の樹が曲がる

大阪市 柴本ばつは

▽訂正とお詫び△

大阪市 原 幸子

★「令和3年度ふあうすと紋太賞」

○5月号、P3座右の句

紹介者 平井美智子

正賞 山野 寿之

○6月号、P64中段11行

尼崎市 八木 幸彦

雲紡ぎ風を紡いで四季

○6月号、P64中段11行

紹介者 ウェブサイト

を織る (他9句)

目、松岡正美↓松倉正美

神戸市 濱口 祐一

★「令和柳多留・第三集」

○6月号、P93上段9行

紹介者 奥澤洋次郎

秀句 坂本 加代

目(本社句会)の句の作

神戸市 兼平 栄

伸びしろがあるねと肩を叩かれる

者は中岡千代美さんでした。

紹介者 奥澤洋次郎
常任理事会(6月6日)

★「第22回熊本県川柳研

▼計報▲

出席19名①「川柳塔まつり」実施について②二賞

★「第10回広島島川柳

○内海幸生さん(参与・八尾市)は、かねて闘病

選考委員の選出及び確認

22日開催。同人成績。

中のところ5月2日逝去。享年92。

③同人誌友拡大の具体化

特選 木本 朱夏

突きつめてみれば孤独

④高野山合祀について⑤

な葦である

○奥田みつ子さん(相談

定例確認事項。

★「第10回広島島川柳

役・東村山市)は、5月

次回常任理事会7月8日

会誌上大会」。参加者

20日逝去。享年90。

(水) AM10

第58回 水府忌句会

日時 8月5日(金)
場所 たかつガーデン
近鉄大阪上本町駅または地下鉄谷町9丁目下車 11番出口
受付開始 18路30分 席題なし
会費 1000円
お話し 川柳よもやま話 田中 新一
宿題と選者(各題2句)
「合わせる」吉富ひろし 選
「要(かなめ)」山藤 聖子 選
「さり」とて」笹倉 良一 選
「リズム」植野美津江 選
「吹く」木本 朱夏 選
「癖」森中恵美子 選

しまね文芸フェスタ2022 島根県川柳誌上大会

投句締切 7月29日(金) 必着
投句料 1000円
(切手不可・発表誌呈)
投句用紙 大会指定用紙使用(コピー可)
兼題と選者(各題2句)
「聞く」竹治ちかし 選
「咲く」寺田 勝美 選
「楽しい」田中 堂太 選
「向く」熱田熊四郎 選
「好き」長谷川博子 選
「浮く」新家 完司 選
投句先
〒693-0013 出雲市荻村町363
柳楽たえこ 宛
TEL 0853-22-6023

暑中お見舞い申し上げます

川柳塔すみよし

代表 内田 志津子

石田ひろ子	佐々木満作	藤島たかこ
石橋 直子	柴本ばつは	藤原 大子
磯島福貴子	清水久美子	松崎 大輔
今井万紗子	鈴木いさお	松下小枝子
井丸 昌紀	田中 廣子	三宅 保州
岩崎 公誠	田中ゆみ子	宮崎シマ子
宇都満知子	飛永ふりこ	森松まつお
江島谷勝弘	中井 萌	森松 芳香
榎本 舞夢	中村 民子	両澤行兵衛
大治 重信	長浜 美籠	矢倉 五月
大隅 克博	長高 俊雄	山野 寿之
奥村 五月	西村 哲夫	山本 進
小野 雅美	野口真桜子	横山 里子
川端 一步	野口 雄次	吉村久仁雄
古今堂蕉子	長谷川崇明	
阪井美世子	藤井 宏造	

季刊 『川柳展望』

A5版、152頁。誌代4,960円(年間)。
☆見本誌進呈いたします。

〒567-0009 茨木市山手台4-6-3-101

TEL 072-649-5226

FAX 072-649-2334

川柳展望社

暑中お見舞い申し上げます

翠 洋 会

田中廣子	高橋敬子	高杉千歩	佐々木満作	小谷集一	古今堂蕉子	加藤江里子	太田昭	大久保眞澄	大川桃花	榎本舞夢	岩本浩二	安福和夫	東定生	安土理恵
	渡辺富子	米田恭昌	山本希久子	室田行久	前川善之	降幡弘美	藤原大子	原田すみ子	西出楓楽	飛永ふりこ	寺井弘子	津村志華子	辻内げんえい	谷口義

暑中お見舞い申し上げます

川柳とんだばやし

富 柳 会

栃尾奏子	都筑文重	土田欣之	関よしみ	鈴木かこ	沢田和子	坂本晴美	久世高鷲	河野彦次	井澤壽峰	穂山常男	秋田あかり
	他一同	山野寿之	村山佳子	松本正治	松谷由夏	松井正義	堀内きみ子	藤田武人	肥山一文	林澄子	中村恵

秀句奔流

【大山滝(5)】

大山滝句座メンバーの佳吟秀吟 600 句（総て寸評付き）を取録。

頒 価： 1,000 円（税・送料込み）（冊子到着後送金で可）

ご注文： 〒 689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万 597 新家完司

ハガキかファックスにて、FAX 0858-52-2449

暑中お見舞い申し上げます

川柳塔さかい

会 長 内 藤 憲 彦
副会長 齋 藤 さくら

吉田	矢倉	宮野	伏見	中林	玉瀬	田中	鈴木	柴本	佐々	源田	柿花	緒方	太田	江島	内田	出海	綾田
禮子	五月	みつ江	雅明	佳子	富夫	廣子	いさお	はつは	木満作	八千代	和夫	美津子	としお	谷勝弘	志津子	素頼馬	清
米澤	山本	村上	古川	西田	徳山	谷川	高木	正信	澤井	古今	鴨谷	奥	太田	榎本	宇都	今井	石田
俣子	進	玄也	光雄	敬子	みつこ	憲	世紀子	寺尚邦	敏治	堂蕉子	瑠美子	時雄	扶美代	舞夢	満知子	万紗子	ひろ子

暑中お見舞い申し上げます

竹原川柳会

会長 小島蘭幸

会計 古田比呂子

監査 國兼千代美

ほか会員一同

初心者にもベテランにも役立つ！

川柳の理論と実践

B6判・326頁 1,680円（送料込2,000円）

新家完司川柳集（7）

令和元年

A5判・137頁 1,000円+84円切手3枚（税・送料）

〒689-2303 鳥取県東伯郡琴浦町徳万597 新家完司
TEL0858-52-2414 FAX0858-52-2449

暑中お見舞申し上げます

いずも川柳会

会長 竹治 ちかし
会員 一同

事務局 〒693-0026 出雲市塩冶原町3-1-5 竹治ちかし 方
TEL 0853-22-4309

暑中お見舞申し上げます

南大阪川柳会

会員 一同

暑中お見舞い申し上げます

川柳塔みちのく

主幹 福士慕情
同人 一同

事務局 〒036-8275 弘前市城西1-3-10
稲見則彦 (☎0172-36-8605)

暑中お見舞申し上げます

川柳塔きやらぼく

会 員 一 同

事務局 〒683-0804 米子市米原5-1-3-304 竹村 紀の治
TEL 0859-21-7656

暑中お見舞申し上げます

六甲川柳会 「ろっこうみち」

会 員 一 同

明るく楽しい句会をめざしております。

事務局：〒 658-0083 神戸市魚崎中町 2-12-5
(TEL) 078-453-1163 敏 森 廣 光

暑中お見舞申し上げます

城北川柳会

会 員 一 同

暑中御見舞い

申し上げます

川柳藤井寺

会長 鈴木 いさお

世話人 鴨谷 瑠美子

太田 扶美代

園田 婦美枝

吉田 喜代子

津田 シルク

暑中お見舞い申し上げます

ほたる川柳同好会

水野 黒兔 田中 螢柳

中山 春代 樋口 順子

池田 純子 多田 契子

貝塚 正子 齋藤 奈津子

岡田 守啓 藤井 則彦

倉本 一弥 藤井 宏造

江島谷 勝弘 松田 蟻日路

句会 第二火曜日 午後一時より

場所 豊中市蛍池公民館

暑中お見舞申し上げます

豊中もくせい川柳会

会員一同

暑中お見舞申し上げます

川柳さんだ

会員一同

例会：毎月第3火曜日 開場12時30分
JR三田駅前 キッピーモール 6F

 暑中お見舞い申し上げます

川柳塔鹿野みか月

会員一同

会長 森山盛桜



金子美千代
山本三樹夫
関本かつ子
板山まみ子
早川遯行

川柳茶ばしら

暑中お見舞い
申し上げます

暑中お見舞い申し上げます

川柳塔なら

会 計 監 査	顧 問	高 橋 敬 子	加 藤 江 里 子	世 話 人	宇 賀 史 郎	編 集	安 福 和 夫	会 計	中 堀 優	飛 永 ふ り こ	中 堀 優	副 会 長	長 谷 川 崇 明	会 長	大 久 保 眞 澄
------------------	--------	------------------	-----------------------	-------------	------------------	--------	------------------	--------	-------------	-----------------------	-------------	-------------	-----------------------	--------	-----------------------

事務局 〒631-0078 奈良市富雄元町1-1-7-114 大久保眞澄

暑中お見舞い申し上げます

川柳塔わかやま吟社

同 人 一 同

事務局 〒640-8482 和歌山市六十谷1188-14
川 上 大 輪 方
電話・FAX 073-462-7229

暑中お見舞い申し上げます

はびきの市民川柳会

会長 吉村久仁雄 会員一同

作品募集

9月号発表表 (7月15日締切)

川柳塔 (8句)	小島蘭 幸選
水煙抄 (8句)	木本朱夏 選
愛染帖 (2句)	新家完司 選
檸檬抄 (2句)	江島谷勝弘 共選
インスピレーションナヒ (2句)	永見心咲 選
一路集 (2句)	大西泰世 選
「もたもた」	酒井健二 選
「折る」	多子和敬子 選
「石」 (3句)	平井美智子 担当

初歩教室「石」 (3句) 平井美智子担当
初歩教室「石」は10月号発表

10月号
檸檬抄「ふぎける」
一路集「苦い」「缶」
初歩教室「紙」

本社7月句会

とき 7月8日(金) 13時開場・13時40分締切
ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間
天王寺区石ヶ辻町19-12 電06・6772・1441

おはなし「サブリCMに気をつけて」

兼題「決める」

席題「意 外」

「いとしい」

「ダメージ」

「時々」

伊達郁夫氏 藤憲彦氏 内藤智史氏 藤井智史氏 平尾奏子氏 平井美智子氏 銭谷まさひろ氏 小島蘭幸氏

会費 1000円
投句料 1000円(切手不可)

(各題2句以内)

本社8月句会
10日(水) 午後1時から
兼題「お金」「いつも」「若い」
「とろとろ」「自由吟」

本社句会欠席投句のお薦め

- * 幅4.5センチ×長さ25センチの句箋一枚に一句ずつを書き、裏面に題とお名前を記入のこと。
- * 投句料1000円(切手不可)。
- * 句会日の前々日までに事務所に必着のこと。

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美研アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ <https://www.bikenart.com>

定価 八百円(送料100円)
半年分 五千円(送料共)
一年分 九千八百円(同)

二〇二三年令和四年七月一日発行

発行人 小島和幸
編集人 木本朱夏
印刷所 美研アート

〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七
花野ビル201号室

発行所 川柳塔社
電話 〇六六七七九一三四九〇番
振替 〇〇九八〇一四一五九八四七九番

箸がとまらない 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、
秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

舞昆のこうほら

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）

フリーダイヤル 0120(11)5283

心を尽くし 思いを尽くし 知性を尽くし
力を尽くして全人的に仕える医療と福祉

医療法人社団 湯川胃腸病院



消化器科 放射線科 脳神経外科
緩和ケア（ホスピス）
デイサービスセンター併設



大阪市天王寺区堂ヶ芝2-10-2 TEL 06-6771-4861

<http://www.yukawa.or.jp>